

バーミンガム

Iicester) (二二八一二三)はトレントに注ぐソール河の濇にありて毛織靴下等を製し羊の市場なり、バーミンガム(Birmingham)(五四二九五九)はイングランドの畧中央に位し冶金業の一大中心にして針釘等を産す、此の地に近きコベントリー(Coventry)(六九八七七)ハンズワルズ(Handsworth)(五二九二二)アストン・マンノル(Aston Manor)(七七三三〇)キングスノルトン(Kings Norton)(五七二二〇)スネット井田(Sneetick)(五四五六〇)等も製鐵に従事す、オクスフォード(Oxford)(四九〇〇〇)はロンドンの西北西にありて著名なる大學の所在地なり、ノルサンプトン(Norhampton)(八七二〇一)はネン河に臨み靴の産出多し。

ノーリッチ

ケンブリヂ(Cambridge)(三八〇〇〇)はウース河の支流たるケム河に瀕するが大學を以て著名なり、イプスウィッチ(Ipswich)(六六六二二)はオルレル河の口に近し、ノルウィッチ(Norwich)(一一六七四二)は北海に注ぐエール河に跨り毛織物を製す、グリムスビー(Grimsbj)(六三三三八)はハンバー河灣の一港なり。

リーズ

ヨーク(York)(七七七九三)はウース河に沿ひ肥沃の平野に位す、リーズ(Leeds)(四五六七八七)はエール(Aire)河の谷にありて毛絲羅紗陶器を産す、ブラッドフォ

ブラッドフォード

シフィールド

ード(Bradford)(二八六七九九)は紡織に従事す、ハッデルスフィールド(Huddersfie(九四八八八)は石炭の産地にあり、ハリファクス(一〇八四一九)は綿布を産す、シェフィールド(Sheffield)(四四〇四二四)はシフドンの會流地に位し鋼鐵及物を製す、ハル(Hull)(二五八一二七)はハンバー河灣に沿ひ捕鯨に従事するが屈指の商港にして石炭、農産等を集散す、ミッドルズボロー(Middlesborough)(九一三二

ミッドルズボロー

七)はチースの河口に於ける商港なり、エントハートルプール(West Hartlepool)(六二六一四)及ストックトン(Stockton on Tees)(五一四七六)と相距ること遠が

サンダーランド

らずサンダーランド(Sunderland)(一五二七一六)はキール(Wear)河の口にありて石炭を輸出し造船に従事す、ニューカッスル(Newcastle on Tyne)(二六四五二)ゲ

ニューカッスル

ーツヘッド(Gateshead)(二二〇六二〇)并にサウスシールド(South Shields)(九七二六

七)等はタイン河の下流に瀕するが石炭の輸出を以て名あり、バルロー(Barr-ow in Furness)(五七五八四)は製鐵に従事し商港を有す、プレストン(Preston)(一

一五七二二)はリップル(Ribble)河灣に沿ひブラックバーン(Blackburne)(一三三三〇)六七はプレストンの東に位し、ボルトン(Bolton)(一七八一二)マンリー(Bur-

提要 イギリス



マンチェスター

リバプール

カーヂフ

nlcy)(一〇一六八ニオルダム(Oldham)(一四〇二二五)サルフォード(Salford)(一三三  
 一五一四)等の如き孰も十九世紀の始には小邑たるに過ぎざりしものはマ  
 ンチェスター(Manchester)(六三一一八五北緯五三度二九分  
西經二度一四分四三秒)と共にランカシャー  
 アー煤田の地にありて盛に綿布の製造に従事し製品を地球の各處に普及  
 せり、リバプール(Liverpool)(七三三〇一四三北緯五三度二四分  
西經三度四分一八秒)は綿布の大  
 市場にしてマーシー(Mersey)河に瀕す、王國中ロンドンに次げる通商地にして  
 ヨーロッパ第三の商港たり、對岸にビルケンヘッド(Birkenhead)(一一六〇三五)あ  
 り、近郊にブートル(Booths)(五八五五八)あり、セントヘレンス(St. Helens)(八、四四  
 一〇)も稍、名を知らるるがリバプールを距ること遠からず。

エールズ ニューポート(New-Port)(六、七二九〇)はセバーンに注ぐウスクの  
 河口に於ける商業地なり、カーヂフ(Caribf)(一八〇〇五四)はエールズ最大の  
 都會なり、セバーンの河口に臨みプリストル灣に瀕し優良の石炭を輸出す、  
 スワンシー(Swansee)(九、六三八四)はカーヂフの西北西に於ける港にして冶金  
 業に従事するが殊に製銅を以て著はる、マーサーチドビル(Merthyr Tydfil)(六、

九二二七)はカーヂフの北西に於ける鑛業地にして鍛鐵製鋼に従事し鐵板、  
 鐵葉を製す。

アンケルシー(Anglesey)島はアイルランド海の南東部に位しメナイ海峡に依りて  
 大ブリテン島と境するが橋梁の兩者を運ぬるあり長三十四料、幅三十一料、地積七  
 百八十二方料あり、土地平低なるも鑛産多し。

ホリーヘッド(Holyhead)島はアルケルシー島の北西にあり、同名の港はイギリス鐵  
 道の終點にして四時間以内にてデブリンへ渡航すべし。

スコットランド

エディンバラ(Edinburgh)(三一六、四七九)

北緯五五度五七  
分二二秒四三

度一〇分 は舊都の地にして學術の中心たるが又工業に従事す、レイト(Li-  
 oth)(七、六六六七)はフォース灣の南岸にありてエディンバラの附庸港たり、グ  
 ラスゴ(Grasgow)(七六、〇四二二)はクライド河に瀕す、王國第二の都會にして  
 綿布「モスリン」を製するが炭鐵の供給に豊なれば盛に造船業に従事す、ペー  
 スレー(Paisley)(七、九三五五)はグラスゴの西十一料にありて亦工業地なり、  
 グリノック(Greenock)(六、七六四五)は商港なるが製糖造船行はる、ダンヂー(Dun-  
 dee)(一六、〇八七一)は同名の「ファース」に瀕する海港たるのみならず印度より

世界地理提要

イギリス

エディンバラ

グラスゴ

ダンヂー



輸入せる「シート」に依りて盛に帆布、網具を製す。アバーチーン(Aberdeen)(二五三一〇八)はチー河口にありて織物、絲類を製し遠洋漁業に従事す。

ヘブライド(Hebrides)諸島は一に西諸島と云ふ。スコットランドの西岸に横たはれる五百以上の島嶼にして外群はレブス(Lewis)、北ウイエスト(Uist)、マンヌクラ(Mannachal)南ウイエスト、メルラ(Barra)、其の他より成り、内群はマカイ(Skye)、ホイケ(Eigg)、コル(Coll)チリー(Thre)、ムル(Mull)、ジュラ(Jura)、インラン(Arran)等を含み土地は起伏多く、峡湖峡湾に富み氣候温和なるも有用なる地に乏し。

オークニー(Orkney)諸島はポモナ(Pomona)、ホイ(Hoy)等九十島より成り北北東に亘るも八十料なるが、セントランゴ、フルム(Pentland Firth)を以てスコットランドの北東端と隔れり、地積は九百七十四方料に達せざるが、土地概低くして樹木なく耕種も多し行はれず、住民は漁業を主とす。

シットランド(Shetland)諸島は百餘の島嶼より構成せられて一千四百二十七方料の地積を有するが、メインランド(Mainland)、イェル(Yell)、サンスト(Unt)、ノットラル(Felary)等を主とす土地はオークニー諸島より高くして高島の名あるに負、す本島は漁業、牧業に利用せらる。

アイルランド

アイルランド(Ireland)島はヨーロッパ第三の大島にして北水道(North Channel)とセントジョージ(St. George)水道とに依りて大西洋に通

するアイルランド海を隔てて大ブリテン島と相對し最近き處に於ては二十料に過ぎず、地積八、四〇〇〇方料はスコットランドより大にして長は四百六十七料あるが、幅は二百八十二料乃至百四十五料あり、始原期に屬する地多く山岳(最高峯カーランツォッセル)は(一〇四〇)は周邊に散在するも内部は平坦にして海拔百米突以内なり而して三千五百四十料に亘れる海岸線は西部及南西部に屈曲多く、ドネガル(Donegal)、ガルウェイ(Galway)、デングル(Dingle)、ケンメーア(Kemmare)、バントリ(Bantry)等の諸灣、マリン(Malin)、ミゼン等の諸岬を呈せり、氣候は全然海候的にして冬季は温和なるも夏季に清涼を覺え降雨多く各處に沼湖を現出せしむ、農牧の地にして樹林に乏しきも泥炭に豐なり、住民は亦スコットランドより多きも密度は彼に劣れり、又本島は大ブリテンに合同せるも今に完全なる融合を見るに至らざるもの如し。

シannon(Shannon)河はアイルランドの最長流なり、クイルカガ(Culligh)山脈に起り流ること三百六十料にして大西洋に入る、途中アルレン、ホーデルグ(Boderg)、ボフィン(Bofin)、フォクス(Foxes)、リ、デルグ等の諸湖を受くるが、河海は長百十三料、幅十六料ありて入口より約十六料の地に於ける幅は凡二千四百米突なり、航行の便はノ



イムン(Foynes)より始まる、サック(Suck)ノルダク(Fergus)は右岸より、インニー(Imy)ノロ  
スナ(Brosna)ムルキーン(Mulken)ノイムン(Maigne)ノイー(Deel)は左岸より會するが本  
河も亦運河を有せり。

湖沼にはニー(Neagh)三九八方料、エルムン(Erne)ノムク(Musk)ノコリブ(Corrib)ノルレン  
(Allen)ノリー(Ree)ノアルムン(Derg)等ありて其の數少なからざれども概々水底深くして實  
際に便益を供するものは稀なり。

ダブリン(Dublin)三七三・一七九 北緯 五三度二〇分一七秒 西經 六度二〇分一七秒 はリッフェー河に跨

るが舊都の地にして商業に従事す、ベルフヌスト(Belfast)二四・八九六五は北水  
道の一海に瀕し亞麻布を製し造船に従事す、リメリク(Limerick)三七・〇〇〇)は

シエンソンの河灣に瀕しロンドンデリー(Londonderry)四〇・〇〇〇)はフォイル灣  
に臨める港なり、コルク(Cork)七・五九七八はリー河に沿へる南部の商港なり。

マン島(Isle of Man)はアイルランド海にありてイングランド、ス  
コットランド、アイルランドの畧々中間に位し長五十三軒、幅十三乃至二十一軒

周回凡百六十軒ありて山岳多く土壤肥瘦ならず、鉛、錫等を産し、鯨、鱈等を漁  
す、住民は五萬五千人に足らざるがケルト及ノルゲの雜種にして言語はケ

ダブリン  
ベルフヌスト

ルトの分子多し、首邑ドングラス(Douglas)は東岸にあり。

海峡諸島

海峡諸島(Channel Islands)はジャーシー(Jersey)・ゲルンシー(Gu  
ernsey)・アルダーニー(Alderney)・サーク(Sark)の四主島より成れるが自然的には

フランスに屬すべきものなり、氣候温和にして土地風色に富めり、土語は舊  
きノルマン語なるが公語はフランス語にして、商業は頗る活潑なりとす、首邑  
セントヘリアー(St. Helier)は耕地牧場に富めるジャーシー島にあるが、ブレイ  
(Bray)港はアルダーニー島にありて軍路上の要地たり。

殖民地

イギリス人は所謂先天的の殖民移民家なるにや、本業を企圖す  
るに當りて良土豊地の多くは他國に屬し、商權は先進者の専有する所なり  
しに拘らず、事を遠大に期し強者と謀りて弱者を抑へ、尺進に甘するを知り  
て而も寸退を之に恐れ、主として領土の擴張を務め實利を重んじ名義に拘泥  
せず、遂に當今の如く空前の殖民的大帝國を構成するに至りたり、我が國の  
六十四倍大の土地は約三億六千萬人の住民を以て五大洲に散在し或は天  
産國として原料を供給し或は消費地として製品を需要し以て本國の繁榮



を促せるが、政治的組織に關しては之に殖民地と保護地との別を爲し、殖民地を更に三種に分てり、其の一を直轄殖民地、(Crown Colonies)と云ひ、其の二を監督殖民地、(Representative Institution)と云ひ、其の三を自治殖民地、(Responsible Government)と云ふ。

地中海	地	積	人	口	方料ニ付
シアラタル		九五九〇 <sup>方料</sup>	四六、七七四六 <sup>人</sup>	五〇	一
マルタ		三〇三	一、九一〇二	六六七	
キプロス		九二八二	二〇、二一三四	二六	
アジア		五一九、一七〇〇	三、〇二〇、三五〇〇	五八	
印度帝國		四八二、六一〇〇	二、九五二一、三〇〇〇	六四	
セイラン		六、五九九三	三八一、二九三一	五八	
海峡殖民地		三九五二	五九、六四八六	一五一	
マライ保護國		七、〇〇〇	八三、八一五一	一一	
北ボルネオ		八、〇五六一	一六、〇〇〇〇	二二	
サラワック		一〇、三三二一	五〇、〇〇〇〇	五	
香港		七九	三六、五〇〇〇	一	

π

其他		五三四、一八〇〇	四三六三、三〇〇〇	八	
アフリカ		三〇、八八七〇	一四八、六四三三	五	
黄金岸		一九、七七二八	六四〇、〇〇〇〇	三三	
南ニジェリア		八一、六〇〇〇	二〇〇〇、〇〇〇〇	一一	
北ニジェリア		一五、五〇〇〇	一五、三〇〇〇	二	
ソマリー		四六、七五〇〇	四〇〇、〇〇〇〇	八	
東アフリカ		二三、一五〇〇	一八〇、八一六	八	
ウガンダ		二六四〇	二五、〇〇〇〇	九	
ザンザバル		一〇、六一三四	九二、四四三一	九	
中央アフリカ		七一、七三八八	二四〇、九八〇四	三	
喜望峯殖民地		一一、五二〇〇	三八、七三一五	三	
オランダリバー		三〇、四九一三	一三五、四二〇〇	四	
トランスバール		一〇五、八〇〇〇	一三五、〇〇〇〇	一、二	
ローデシア		一〇〇二、八七〇〇	七八七、〇六八四	〇、七	
其他		九五八、九七〇〇	五六〇、四三二八	〇、六	
カナダ		一一、〇六七〇	二二、二六四三	二	
ニウファウンドランド			五百三十七		

世界地理提要 イギリス



グイアナ	二四、六四七〇	二九、五二二二	一、二
其他	...	...	...
オセアニア	八二五、七三〇〇	五五六、七〇〇〇	〇、六
オーストラリア聯邦	七九二、九〇〇九	四三二、五〇〇〇	〇、五
新ゼーランド、屬地	二七、一〇五九	九一、二九七四	三
ビチー、ロツマイ	二、〇〇四五	一一、一七七三	六
サロモン諸島	三、三九〇〇	一四、〇〇〇〇	四
其他	...	...	...
合計	二八八二、九一〇〇	三、五九五七、〇〇〇〇	一一二

南部

●イベリア半島

イベリア (Iberia) 半島はピレネー半島或はイスパニア半島とも呼ばれる。ヨーロッパの南西部にありて大西洋と地中海との間に介在し、北邊の一部はピレネー山脈に依りて大陸に連なれり。ジブラルタル海峡を挟みてアフリカ

地積

海岸

山岳

と相對す地積は五十八萬四千方秊あるが其の大部はエスパニア王國に屬せり。

海岸線は大西洋に一千六百七十五秊、地中海に一千百五十秊ありてオルテガル (Ortega) ノニステール (Finisterre) ロカ (Roca) サンビンセント (São Vicente) タリヌ (Tarin) ガダ (Gata) パロス (Palos) ナオ (Naos) の諸岬、ジブラルタル半島、開潤なるビスカヤ、カデス (Cadix) バレンシア (Valencia) 等の諸灣を呈せるも概して屈曲に富まず又島嶼にはバレンアル諸島あるのみ。

半島の内部は海拔五百乃至一千米突の土塊を成し全國の六割に當れるが山脈にて圍繞せらるる數個の盤地を抱括せり、其の北にあるをレオン、舊カステルラの盤地とし、其の中部にあるを新カステルラの盤地とす、ピレネー山脈は長四百二十秊に亘り平均の幅は百二十秊に達せるが、最高峰はピコデネッソー (Pico de Neihou) (三四〇四) にしてポセツ (三三六七) マラデッタ (三三五四) モンヘルデッ (三三五二) 等の諸峯を有す、交通上の大障礙にして實用に供すべき峠は東端のバルチウス (二四八) と西端のイデアザバル (六五八) あるのみ、又



河流

カンタブリオ(Cantabrio)山脈は最高峯(ニオンデヨロップ)はピレネーに連続し長五百五十軒に達せるが此の他にシエラネバタ(Sierra Nevada)最高峯(ムルハシエン)シエラモレナ(Sierra Morena)等あり幾多の山脈は此等より分岐して起伏に富める高地を形成せり。

河流は長きも水量に乏しく河床の傾斜強きが故に交通の便を與ふるこ  
と少なし今主流を擧ぐればエプロ河は地中海に入り大西洋斜面にツトロ、  
タヒオグアデアナ、グアダルキビル等あり。

氣候

臺地にありては寒暑の差烈しく地中海沿岸の地にありてはアフリカの  
なり大西洋沿岸の地に於ては濕潤にして溫和なるも山岳の附近に於ては  
寒暑の激變を覺ゆ雨量の年平均はオビエドの二千六十軒にしてマドリ  
ドの二百七十五軒なり又平均温度に就きては半島の北部に十三度を示し  
南部に二十度を示せり。

○ エスパニア

エスパニア(西班牙)王國即スペイン(Spain)はイベリア半島の大部を占め

境域

て地中海、大西洋、ビスカヤ灣に瀕するが西の一部はポルトガルに接し北東  
はフランスに連なれり南北八百八十五軒東西一千三十軒あるが王國の面  
積は五十萬四千五百六十七軒にしてバネアル(五〇一四)カナリア(七二七三)  
北アフリカ領(一三三)等を含めり。

沿革

エスパニアは舊イヘリア人の住せし處なるがケルト人次で來り西紀前三世期  
にはカルタゴ人の殖民ありたり次世期よりローマ人の來侵ありて遂にアウグス  
ツスの代全くローマ領と成れり然るに五世期に及びてスエビ、ワンダール、西ゴート  
等のゲルマニア人來りて五七三年には西ゴート王國の領地と成り七一四一七三二  
年にはムール人の征服する所と成りしが彼等の衰ふるに當りて幾多のキリスト  
教國起り一四六九年アラゴン、カスチルの合併せしより遂に統一(一五一二)の運に  
向ひしのみならず新世界の發見ありて國土擴張し低地諸州、シシリア等も併呑せ  
られエスパニアの勢は旭日の如くなりしがフィリッパ二世の時より衰運に向ひルイ  
十四世の干戈を蒙りし後、ナポレオンの頃に至りてはフランス帝國の一州たる實  
を有しイギリスの援助に依りて僅に獨立を恢復せしも國勢挽回の機至らずして  
國外に於ける領土は殆ど全く之を失ひて今日に至れり。

住民

人口は約一千八百六十二萬人(一九〇〇年)なれば之を地積に對比すれば

世界地理提要

イベリア半島



方料に付き三十七人と成る、エスバニア人は各種民族の混和せしものにして、ヨーロッパ中、アフリカ的分子を含有する種族の一なり、國教はローマ公教なるが住民の殆ど全部は之を信奉せり、教育は不振にして、下流社會には無智のもの多く、大學の効力は顯著ならず。

エスバニアは一八七六年以來立憲王國と成りて、内閣は代議元老の兩院より成る、國會の贊助に依りて政治に興れり、行政上は地方を四十九州に區分し、兵備は陸軍に平時の九萬三千餘人、戰時の凡そ十三萬人ありて、海軍には三十五隻六萬五千噸足らずあるのみなるが、一九〇六年の歳入は十億百萬餘、ペソ歳出は凡そ九千六百八十九萬、ペソにして、國債は九十三億九千四百萬、ペソの多きに達せり。

エスバニアに於て水あるの地灌溉の便を得る爲に開掘したる運河少なからずは必ず豊饒なり、カステルラは麥を産し、地中海沿岸の地は柑類、無花果、桃、杏、石榴、オリーブ、葡萄等を産す、然れども北部并に中部には無水の地、鹹水の平原ありて全く生産力を缺けり、而して山岳地方は鐵、石炭、水銀、鉛、銀、銅、亞鉛

政治

生業

エスバニア

バルセロナ

食鹽等を産す、貿易は輸入に綿花(九六)、石炭(七一)、器械(六七)、木材(五六)、小麥(五二)、化學品(四三)等の約九億二千一百万、ペソありて、輸出は葡萄酒(七九)、鉛(七四)、柑類(六一)、オリーブ油(五四)、銅(三八)、綿布(三七)、コルク(三六)等の凡そ九億一千七百萬、ペソあるが主要なる取引先は輸入の部にイギリス及、ジブラルタル(一七二)、フランス(一三三)、合衆國(一〇二)、ドイツ(九二)、ロシア(五六)等ありて、輸出の部にもイギリス及、ジブラルタル(三一〇)、フランス(一八九)、キッパ及、ポルトリコ(八三)、オランダ(四八)、ドイツ(四四)等あり、船舶の出入は一九〇四年に各、一千五百萬噸を超えたり、而して商船は凡そ五十二萬噸にして、鐵道は一萬四千八百餘軒、電信線の延長は七萬四千三百十四軒ありて、電話線は遠近合はせて凡そ六萬二千五百軒の延長を有せるが郵便局は三千七百十二あり。

マドリッド(Madrid)五三、九五、八五北緯四〇度二分三〇秒は王國の首都なり、新カステルラの地にありて、マンザレス河に瀕し、海拔六五〇米突にあり、市街は美麗なれども工業は振はず、バルセロナ(Barcelona)五三、三〇、〇〇はカタロニアにありて、地中海に沿へり、王國第一の商港にして、軍府の一なるが又工

世界地理提要 イベリア半島



サラゴッサ

藝の中心として絹布羅紗、綿布、レース、等を製造す。サラゴッサ(Saragossa)(九、九一  
一八)はアラゴンの首府なり、エbro河の濬に位せる工業地にして交通上の要衝

バレンシア

に當れり。バレンシア(Valencia)(一一、三三五〇)は當國第三の都會なり、グアダラ  
ビアル河口に於ける「ウエルタ」(Utiel) 灌溉の利ある中に建ちて絹布、石鹼、紙類

ムルシア

を製するが殊に扇子は有名なり、アリカンテ(Alicante)(五、〇一四三)は軍府の  
一なり、ムルシア(Murcia)(一一、一五三九)はセグラ河畔の「ウエルタ」にありて繁

カルタヘニ

榮の地なり、カルタヘニナ(Cartagena)(四、一三二五)は軍港の一にして鉛を製す、船舶  
の出入少からず、ロルカ(Lorca)(六、九八三六)はムルシア、カルタヘニナと三角形

マラガ

を爲せるが近傍に銀の産あり、マラガ(Málaga)(一三、〇一〇九)は地中海の一商  
港にして葡萄酒、乾葡萄酒を輸出しアルメリア(Almeria)(四、七三二六)と共に鉛、銅

等の鑛石を輸出す、グラナダ(Granada)(七、五九〇〇)はグアダルキビルの支流

ヒニル河の畔海拔六七〇米突の地に位し、史上著名の地なり、ウルドベ(Cord-

ova)(五、八二七五)は古來有名なる地にして建築物には見るべきものあり、セ-

ビリヤ(Sevilla)(一四、八三一五)はグアダルキビルに瀕し通舟の便あり、舊都の地

セビリヤ

ビルバオ

にしてアルカザルの宮殿并に宏大なる寺院を有せり、カヂス(Cádiz)(六、九三  
八二)はレオン島にある軍港なるが商港として葡萄酒、食鹽の集散に従事す、  
バラビッド(Valladolid)(六、八七八九)は舊カステルラの首府たりし處にして麥、  
綿羊の産地にあり、ビルバオ(Bilbao)(八、三三〇六)は同名のリア(Ria)に瀕し、ピ  
スカヤ灣に近き商業地にして鐵、其の他の鑛石を輸出す、サントンデル(Sant-

バレアル諸島

tander)(五、四六九四)は繁昌なる商港たり。  
バレアル(Baleares)諸島はバレンシア灣の東に位してマヨルカ(Mallorca)、ミ  
ノルカ、カブレラ并にイビサ、フォルメンテラ、等より成れるが、地積五千十四方  
糶、人口三十一萬二千人近くあり、首都パルマ(Palma)(六、三九三七)はマヨルカ  
島の南西岸にありて葡萄酒、柑類を輸出す。

殖民地

エスパニア人はポルトガル人に倣ひ商利を得るを目的として立ち領土  
の擴張と宗教の傳播とを兼ね一時は尨大の殖民地を保有するに至りしも  
施政上に過失多く經濟の原則に戻りたるが爲、各殖民地の離反を來たした  
れば現時は僅にアフリカ洲にてリオデオロ(一、三八、五〇〇〇)方糶、リオムイ

世界地理提要 イベリア半島



一三、五七〇〇〇、フェルナンドポール 二、〇七九八等の二十一萬二千七千方杆二十九萬一千人を有するのみ。

◎ アンドラ

アンドラ(Andorra)はピレネー山脈中に於ける一小共和国にして、エスパニアのエルビエル領正井にフランスに兩屬せり。

◎ ジブラルタル

ジブラルタル

ジブラルタル(Gibraltar)は舊エスパニアに屬せしが一七〇四年以來イギリスの領する所と成れり、地中海の咽喉たるジブラルタル海峡の一隅に於ける一小半島にて、堅城鐵壁の稱ある砲壘は直立四二九米突の岩石上にあり、軍港とし倉庫地として有名なるのみならず、又貿易港としては船舶の出入八百七十九萬一千噸に達し、取引高は一千三百三十萬ポンドを超えたり。

◎ ポルトガル

境域

ポルトガル(Portugal)王國はイベリア半島の西端にありて北と東とはエスパニアに連なり、其の他は海に面するが、地積は八萬八千九百五十四方杆に

住民

して之にアンレス、マデイラの二諸島(三二〇三)を加へば王國は九萬二千餘方杆と成るなり。

政治 生業

人口は五百四十餘萬、男女二八三九人ありて一方杆の平均は六十一人なりとす。種族はエスパニア種族に似たる處多けれども、亦アフリカの分子の一層強きを見る、教育は不振にして普及せざるが、又進歩するの望なし、國教はローマ公教なれども、多少の新教信者あり、政體は立憲君主國にして、立法權は貴族と代議との兩院より成る國會に屬し、行政權は内閣に屬せり、農業は米、柑類、葡萄酒、果實等を與ふるも、鑛業は僅に少量の石炭、食鹽、銅等を得るのみ、其の他、工藝の如きは更に振はず、貿易は一九〇四年に於て輸入は六千二百萬、ミルレイス、輸出は三千萬、ミルレイスを超えたるが、イギリス、ドイツ、エスパニア、ブラジル、合衆國等と取引し、葡萄酒(九四三)、ヨルク(三三九五)、魚類(九五)、綿布(一八四)、果物(一六五)、銅(一一〇)等を輸出す而して、入船は一千四百餘萬噸なりしが、鐵道(二三九四杆)、電信線(一九五一〇)、郵便局(三〇八〇)等も著しからざるなり。

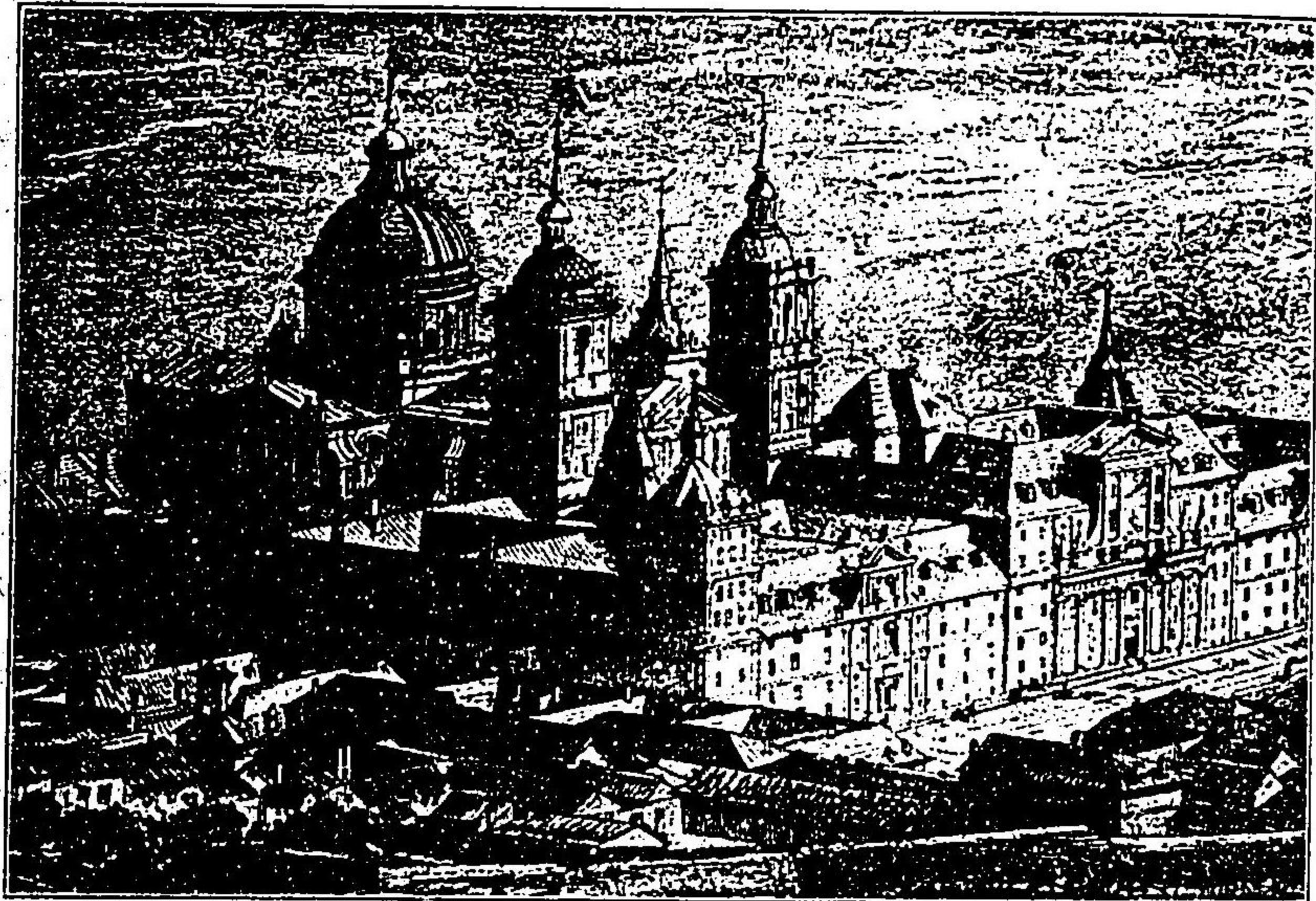


リスボン(Lisbon)三五六〇〇九<sup>北緯三八度四二分三一秒</sup>はリスボン(Lisbon)リスボン(Lisbon)とも云ふ、王國の首府にしてタギス河に瀕し軍港と商港とを兼ね、南アメリカとの交通繁くイギリスの製品及植民地の物産を輸入す、附近にシントラ(Citra)の宮殿あり、ポルト(Porto)一六七九五五即オポルト(Oporto)はツロ河に接し盛に葡萄酒、果實等を輸出す。

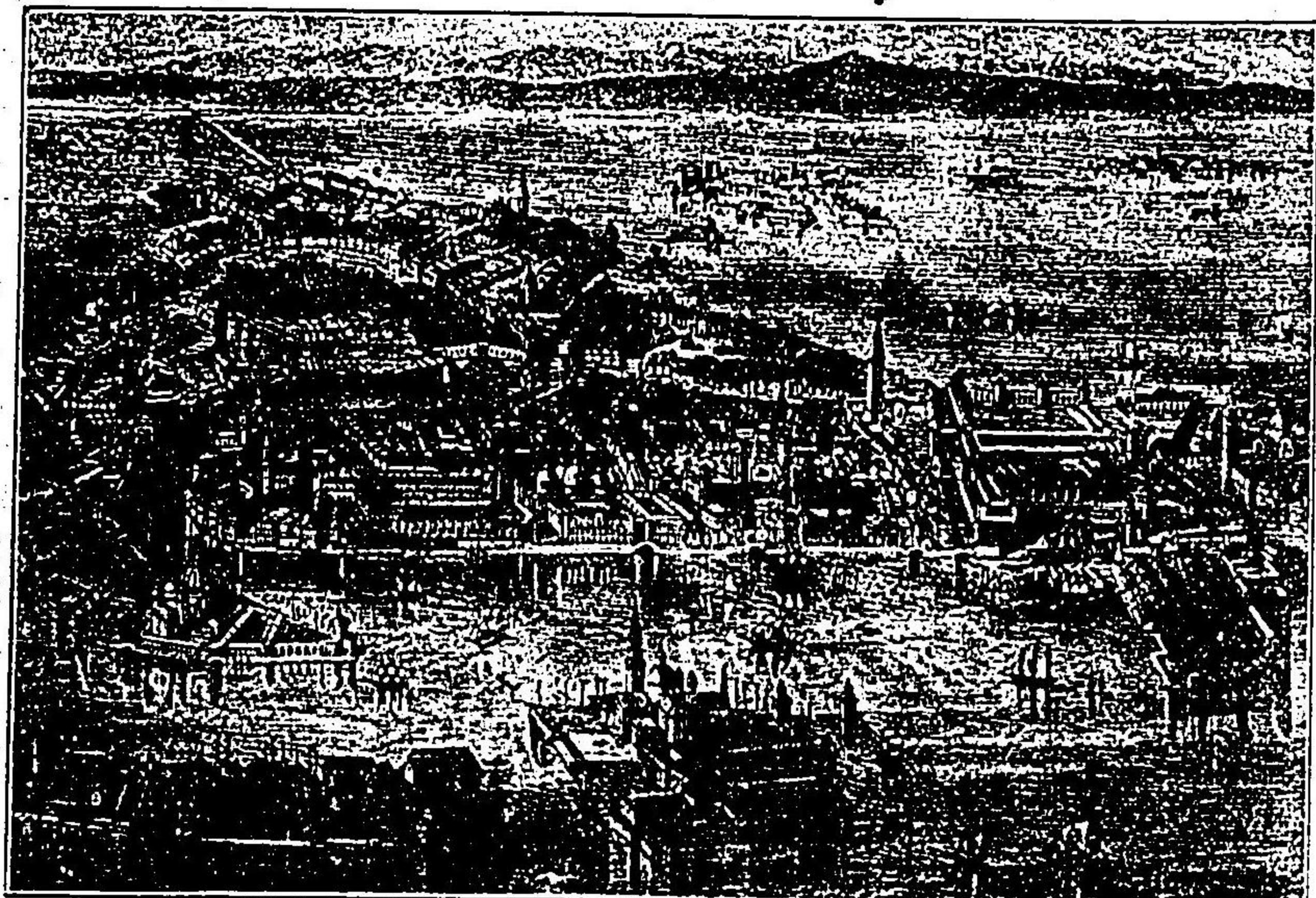
ポルトガル人はヨーロッパの西端に於ける狹隘の地に國を建つるが故に陸上に事を爲すの難きと海上に利を得るの易きを先覺して立ち、商業的植民地を各處に設け一時は盛大を致せしも、本國の微力なると競争國の優勢なるに因りて漸、衰退を來たし、遂にインド、ブラジル等を失ひしが、尙安ゴラ三八〇、〇〇〇人、モサンビク二七六、〇〇〇人を主として三百九萬方軒、七百二十七萬人を有せり。

● イタリア

イタリア(Italy)王國はイタリア(Italy)とも稱せらる、南ヨーロッパの中央部に



エスコリアル(Escorial)宮



ベネツィア(Venezia)



エスコリアル (Escorial) はマドリードの北西約三十軒  
クアタラマ河の畔、一小山脈の麓にあり、附近の地は砂  
礫を以て蔽はれ乾燥に失して無樹不毛なるも宏大無双の  
宮殿を以て知らる、サンロレンソ (San Lorenzo) 宮はフ  
イリツブ二世の建立に係れる花崗石造りにて エスベニア  
人は以て世界七大築造物に次ぐべきものと誇稱す、聖人  
ロレンソの刑具に因みて鐵網形に作られたる本宮は一百  
有餘の堂宇會室の中に僧像、繪額、壁畫、圖書、等を藏  
せり

ヴェネツィア (Venetia) はイギリス人のベニスにして  
アドリア海のヴェネツィア海頭に於けるリアルト (Rialto)  
ギワテッカ (Giudecca) 等の數嶼に亘りて建設せられた  
る龍宮的の市街なり、長さ三千六百米突の鐵路橋は大陸  
との連絡を保ち、縦横に通ざる大小の運河は街衢に代り  
小舟「ゴンドル」は車馬の用を爲す、又建築物の中にて最  
も著しきものはリアルト橋、ドージウの宮殿、サンマルコ  
に於ける寺院、「プロクラチス」の大厦、等なり。

ありて大陸、半島、島嶼の三部より成り、北はエステルライヒ、シツワイツに境し  
北西はフランスに接し、西南、東の三方は悉く海に面せり。地積は二十八萬六千  
餘方軒あるが、北西より南東に至る長は凡そ一千百三十軒にして幅は五百六  
十三軒乃至百三十軒なれども南部に於ては三十二軒に達せざる處あり。  
海岸 海岸線の延長は六千七百八十五軒に達するが、海灣にはリギッリア  
(Liguria) 海、チルレニア (Tyrrhenia) 海、アドリア海、ナポリ灣、サレルノ (Salerno) 灣、  
タラント (Taranto) 灣、ヴェネチア (Venezia) 灣等ありて海峽にはメシナ (Messina) 海峡、  
オトラント (Otranto) 海峡、ボニファチオ、ピオンビノ、等あり、又半島部は別にカラブリア  
(Calabria)、オトラント、ガルガノ (Gargano) 等の半島を形成して、スバルチメント  
(Spulivento)、サンタマリアデレウカ (St. Maria di Leuca) 等の岬崎を以て終れり、而  
して島嶼にはシチリア、サルデニア、リパリー諸島、エルバ島等あり。  
地勢 イタリアの大部は山地に屬するが、廣き平野は北境を爲せるアル  
プ山脈と半島の脊骨たるアペニン山脈との間にありて、ロンバルディア平原  
と稱せらる、アルプ山脈中にはモンテビアンコ (Monte Bianco) 四八一〇、モンテ

世界地理提要 イタリア



ロザ(四六三八)グランバラデン(Gran Paradiso)(四〇六一)ピツペルニナ(Piz Bernina)(四〇五二)を始としケニグヌスピツ(Königsplatz)(三八五七)モンチビン(Monte Viso)(三八四三)ヂヌグラチア(Di Grazia)(三六七八)アダメロ(Adamello)(三五四八)等の秀峰あるが、アペニン山脈中にはグランサッソ(Gran Sasso)(一九一四)チモネ(Cimone)(一一六七)等あり、島嶼部に於ける山岳にも高隆なるものあり、而してイタリアは火山少なからずして、ヴェジッパ(一二〇〇)エトナ(Etna)(三一一三)の如きは殊に著はれ、ストロンボリー島に於ける火山も活動するを以て名あり、而して地震も亦稀ならず。

河湖 河。流は大陸部にポー、アヂッ、あり、半島部にアルノ(Arno)(一三〇)チンレ、等あれども概して長大ならず而も亦有用なるものに乏し。

湖。沼の主なるものはマッジョール(Maggiore)(三九四)方斤、ルガノ(Lugano)ノモ、オノ(一七一)ガルダ(四七五)等のアルプ地方に存するあり、トラシメノ(Trasimeno)ボルセナ(Bolsena)ブラッチャノ(Bracchino)等は中部にあるが、ガルガノ半島附近の低濱にも若干あり。

氣候 北部は陸候を有するを以て嚴寒酷暑を覺ゆ、然れども南下するに従ひて氣候は地中海的と成り、冬季は温暖を覺ゆるが、夏季の温度はメシナとミラノとに大差なし、降雨は夏季に少なく、時にシロコ風の吹き荒びことあり。

沿革 西紀前七五三年チペレ河畔に一市の興りしあり之をローマとす、前五七〇年の頃に至りて王政は共和政と變じ、前四世紀には貴族、平民の内訌既に止み、前二七五年にはイタリア半島の殆ど全部ローマ領と成りしが、前二六四年より前一四六年までにカルタゴを亡ぼしギリシア、マケドニアを取り、國域は發展して、ヨーロッパ南部の三大半島よりアジアの西部、アフリカの北岸を含むに至れり、而して紛争の後に生ぜし第一三頭同盟(前一五三)の時に當り、ケイザルはガリアを鎮定せしのみならず、遠くブリタニア島をも征せしが、第二三頭政治を経て前三一年に至るや、オクタヴィアヌス帝政を樹ててローマの文華最、興りたり、然れども帝の歿後國勢漸く沮衰し、西紀三一四年コンスタンチヌス帝は都を東方に移し、三九五年にはローマ東西に分裂し、東ローマは後長く續きしも、西ローマは四世紀の末頃より移動し始めしドイツ種族の爲に苦しめられしこと多く遂に四七六年に及びて滅亡し、オドリーケルの王國をイタリアに見るに至れり、次で東ゴット、東ローマの領する所と成り、五六八年に來侵せしランゴバルドは半島の大部を有せしも、フランクのシアー



ルマニツの破る所と成り九六二年には神聖ローマ帝國の一部を爲せり。其の後イタリヤは紛争の舞臺と成り十四世期及び十五世期にはナポリ、ミラノ、フィレンツェ、ベネチヤ、法王の五領に分裂したりしが、カルロ五世帝の時よりエスパーニア、エスタラライヒの勢力大に振ひナポリ、ミラノはフィリップ二世の手に歸しエスパーニア繼承戦役はシチリア島をサボイア國に與へたり、アーヘン條約(二七四八)の後サボイア家はサルヂニア、ピエモンテを受け、エスタラライヒはミラノ、トスカナを、ブルボン家はナポリ、シチリア及びバルマを得、法王領は半島の中部に存しベネチヤは一七九七年まで共和國として残り、而してモテナ及びジエノバはフランスの保護の下に立てり、フランス革命の後數多の小共和國はフランスの保護を受け一八〇五年に至りてナポレオンはイタリヤ王の冠を頂きしもウィーン會議は舊狀に復せしめてエスタラライヒにロンバルヂヤ并にベネチヤを與へ一八五九年のフタンス|| エスタラライヒ戦争の結果ロンバルヂヤはサルヂニアに割讓せられトスカナモテナ、バルマ、ローマナも亦同王國に合併せしかばサルヂニアはサボイア及びニースをフランスに譲れり、翌年ガリバルヂの靈力に依りてシチリア、ナポリはサルヂニア王エマヌエルの主權の下に立ちエマヌエルはイタリヤ王と稱することと成り一八六六年のプロイセン|| エスタラライヒ戦争はベネチヤをしてイタリヤ領たらしめしかばイタリヤ統一の目的は達せられたり。

住民 人口は一九〇六年に於て三千三百七十三萬餘にして一方糶に付

き百十八人の割合なるが、其の配布は一様ならずして三十人乃至一千三百十七人の間にあり、人口の増加は平均(一九〇〇—〇四年)約三十四萬人なり而して一九〇五年の往住者は七十三萬人に近くして合衆國(二二、二)アルヘンチナ(八、八)等に向へり、信教上はローマ公教に屬するもの最、多くして三千五百五十餘萬人と算せらるるが、新教に約七萬人ユダヤ教に三萬六千足らずあり、教育は未だ普及するに至らざるも亦振はざるに非ずして大學は二十ニ處に設けらる。

政治 政體は立憲君主國にして王は内閣と共に行政を司り元老代議の兩院より成れる國會は君主と共に立法に従事せり、地方の行政には六十九州の設けあり、兵備は強大にして陸軍は平時に士官一萬三千七百餘人、下士卒二十七萬二千人足らずあるが、戦時には三百三十二萬餘人と成るべし、而して兵艦は三百三隻約四十一萬噸ありて馬力は七十七萬餘、十サンチメートル以上の巨砲五百二十三門、水雷發射管四百八十一、乘組凡二萬四千人なり、財政に就きて歳入は凡二十億リラ、歳出は十九億八千二百萬リラを下らず

政體 兵備 財政



農業 林業

して國債は五億七千二百萬リラを越ゆ。

生業。林業は八千八百萬リラの産類を示し、漁業も亦稍見るべきものあるが農業はイタリア人の生業の主たるものにて王國富力の首位を占め小麦(六五〇〇萬ヘクトリートル)、玉蜀黍(三三三六)、米(九六六)等を産す而して灌溉の利あるポー河の平野にありては寸地の不毛に屬するあるなく米、麥、玉蜀黍等の耕種盛に行はれリギリア、トスカナ、其の他の山腹の階段地は葡萄「オリーブ」等の果樹の栽培に通せり、又南部にありては椰樹生育しシチリア島に於ては草綿の收穫あり、然れども産額の巨大なるは葡萄にして四百一萬ヘクタールの地に栽培せらる、而して南部の牧地は羊、牛を飼養せり、鐵産は鐵、大理石、硫黃等の數種に過ぎざるが工業は非常の盛況を呈すと云ふに非ざるも生絲(五百萬疋)、葡萄酒(三五〇萬ヘクトリートル)、オリーブ油(三二六)機械の製作、造船製鐵等に從事し絹布、羅紗を織出だせり。

貿易は一九〇四年に於て輸入に十九億千三百萬リラ餘、輸出に凡十五億九千七百萬リラありて漸次進歩するが同年の貴金屬輸入高は四千四百萬

工業 礦業

貿易

交通

「リラ」を越え輸出は九百七十一萬リラなりき而して取引先の主なるものを記せば輸入先にイギリス(三一九)、合衆國(二三八)、ドイツ(二五四)、フランス(二〇〇)、エステルライヒ、ウングアルン(一八九)、ロシア(一五八)、イギリス領印度(一一八)等ありて輸出先にシツウィツ(二七〇)、ドイツ(二一〇)、合衆國(一九〇)、フランス(二八二)、エステルライヒ、ウングアルン(一三七)、イギリス(一三三)、アルヘンチナ(二二九)等を得るなり、主要輸入品は綿花(三三三)、穀類(一八二)、生絲(一七五)、石炭(二五〇)、器械(八三)、鐵(七三)、木材(七二)、皮類(七二)、化學品(六二)、獸毛(六〇)、魚類(五一)等にして主要輸出品は生絲(四六二)、綿布(九〇)、絹布(七五)、木材及草製品(六九)、オリーブ油(五三)、麻(四六)、果物(四四)、硫黃(四四)、鶏卵(四二)等なり、又船舶の入港せるものは十萬九千二百四十七隻約三千六百五十二萬噸なるが出港には三千六百四十二萬餘噸ありてイタリア旗出二二七〇を主とす。

交通的機關は商船(一九〇四年)に五千六百五十四隻約百四萬噸ありて鐵路(一九〇五)には一萬六千二百十二軒あるが郵便(一九〇三)は局を設くること八千五百八十七、凡六千九百萬リラの支出に依りて凡七千三百萬リラの



収入を得電信線(一九〇二)は四萬六千四百三十七杆の長と十七萬七千六百  
杆足らずの延長とを有し、三百六十萬リラ近くの支出に依りて一千六百萬  
リラ餘の収入を見るが、電話線は四萬九千七百餘杆の延長を有す。

ローマ

ローマ(Roma) (四六、二七八三) 北緯四一度五三分五秒 東經一十二度二八分五秒 は一にローム

(Rome, Rom) と呼ばる、チベレ河に跨れる市街なるが一八七〇年以來王國の  
首都と成れり、歴史上殊に宗教史上有名なる舊市にしてローマ法王の居住  
處、カソリック教徒の聖地なり、美術的建築に就きては世界無比と稱せられ、  
ローマ時代以後の各種建築物を有せるが、就中コロゼ、パンテオン、サンペトロ、  
ワチカン等を以て著しとす、而して此の地の生業は羅紗、絹布、敷物、蠟燭等を  
製するが殊に寄石細工、彫刻物等の美術品を輸出するを以て有名なり、フイ  
レンツ(Firenze) (二〇、五五八九) はフロレンスとも云ひ、美術史上著名の地なり、  
建築物に富み、絹布、裨帽細工品等の産あり、ピサ(Pisa) (六、一三二二) はアルノ河  
の下流に沿ひ斜塔を以て名あり、ルカ(Lucca) (七、二九七二) はオリーブ油を集  
散す、リフォルノ(Livorno) (九、八三二二) はピサの南西に於ける海港なり、レグホ

ローマ

フイレンツ

リフォルノ

ルンとも呼ばる、アンコナ(Ancona) (五、六八三五) はアドリア海の商港なるが軍  
府の一たり、カララ(Carrara) (四、二〇九七) の附近に大理石の産あり。

ナポリ

ナポリ(Napoli) (五、六、三五四〇) 北緯四〇度五一分四秒 東經一四度一五分二秒 はベジッパ山の麓に

ありてネーブルスとも稱せらるるが同名の灣に瀕す、王國の最大都會又學  
術及工商業の中心として著はる、殊に古物展覽會は世の知る所なり、サレル  
ノ(Salerno) (四、二七二七) はチレニア海に、レグジョ(Reggio) (四、四四一五) はメシナ海  
峽に沿へる商港なり、附近の地に柑類の産あり、タラント(Taranto) (六、〇七三三)  
は同名の灣に瀕し、ブリンデシ(Brindisi) はオトラント海峡に臨めり、バリー(Ba-  
ri) (七、七四七八) はアドリア海の一小半島に於ける工業地なり、ボツジア(Bot-  
sgia) (五、三一五一) はバリーの北西にあり。

トリノ

トリノ(Torino) (三三、五六五六) 北緯四五度四分七秒 東經七度四一分四分八秒 即ち、チッーリンはポー河に

ミラノ

瀕す、舊都の地にして學藝の中心なり、兵器、絹布等を製す、アレクサンドリア(A-  
lessandria) (七、一二九八) はトリノの南東に於ける軍府なり、ミラノ(Milano) (四

九、一四六〇) 北緯四五度二七分三〇秒 東經九度一一分三〇秒 即ち、ミランはポー河の平野、海拔一二三米

世界地理提要

イタリア



ベネチア

ボロニア

ジェノヴァ

シチリア島

突に位せる商業地なるが絹布、綿布、馬車類を製造し王國第二の大都會なり。  
 プレシヤ(Brescia)(七〇六一二)はミラノの東に位し毛織物を製す、ベネチア(Ve-  
 nezia)(一五、一八四〇)は海中に於ける數嶼の上に建設せられたる市街にし  
 て中古の時代には盛を極めしが宮殿、寺院等を以て名を知られ通商、造船、製  
 絲に従事す、ヴェロナ(Venona)(七、二二七二)はベネチアの西に位し亦北部の要鎮  
 たり、ボロニア(Bologna)(一五、二〇〇九)はフィレンツェの北にありて學術の中心とし  
 て著はるるが又商工業に従事す、モデナ(Modena)(六、四八四三)はボロニアの北西  
 にありて絹布を産す、フェララ(Ferrara)(八、七六四八)はポー河の右岩に近く、ラベ  
 ーナ(Ravenna)(六、四〇三二)はボロニアの東に位するが織物の産あり、ジェノバ(Ge-  
 nova)(二、三、四七一〇)即ちジェノヴァは地中海に瀕す、イタリア最要の商港にして軍  
 港を兼ね、コロンブスの生地なり、スペツィア(Spezia)に當國第一の軍港あり。  
 シチリア(Sicilia)島即ちシシリ島は地中海に於ける最大島にして二萬五  
 千七百四十方呎の面積を有し、三角形を爲して深狭なるメシナ海峡を以て  
 半島部と隔れり、北岸及東岸は急峻なるも其の他は低平なり、内部には百五

パレルモ

カタニア

メシナ

サルデニア島

カリヤリ

十乃至五百八十米突の高臺多く平地の稍、廣きはカタニアにして有名な  
 エトナ山(三、二七四)の南にあり、氣候は温和にして變化少なく冬季の平均  
 は七度三、夏季の平均は二十五度なるが、地味最、肥沃にして住民甚だ多し、パ  
 ルモ(Palermo)(三〇、九六九二)北緯三八度二分四秒はシチリア島の最大都會  
 にして島の北岸に位し貿易に従事す、アルカモ(Arcamo)(五、一八〇九)はパレル  
 モの南西にあり、トラパニー(Tapani)(五、九四五二)、マルサラ(Marsala)(五、七五六七)  
 は孰も商港なり、カタニア(Catania)(一四、九二九五)はエトナの麓に於ける商業  
 地なるが亦港を有す、メシナ(Messina)(一四、九七七八)は軍港の一なるが絹布、綿  
 布を製造す、

サルデニア(Sardinia)島(二、四〇七五方呎)はコルス島と相對してボニファチオ  
 海峡を挟む、地勢山岳多く最高點はジエンナルジエンツ(一八三四)にして南西部  
 に於けるカムピダノ平原は島地を二部に分てり、土地肥え天産多きも未だ充  
 分の利用を見るに至らず、首府をカリヤリ(Cagliari)(五、三七二七)と云ふ。

殖民地 アフリカの東部に於けるエリトリア及ソマリーの五十一萬方

世界地理提要 イタリア



料の地を有するも人口は七十三萬餘人に止まれり、蓋、イタリア人の殖民業に於ける成功少なきは事業を企圖するに當り其の方法に慎重を缺きたるの故ならん、然れども南アメリカの移民には見るべきものあり。

◎サンマリノ

サンマリノ(San Marino)はアドリア海の沿岸、チタノ山の麓に於ける一小共和國なり。

◎マルタ

マルタ(Malta)島の二島ゴゾ(Gozo)と共ニイギリスに屬す、地積は三百二十三方呎に過ぎざるも人口は二十萬餘人なり、土地は岩石より成りて耕耘に適せざるがシチリア島より輸送し來れる壤土に依りて僅に柑類草綿を栽培せり、氣温は零度以下に降ることなくして寒氣を覺えざるも、夏季は乾燥に失し冬季は強風屢起る、殊に降雨少なく源泉に乏し、首邑バルレッタ(Valletta)はマルタ島の東岸にあり、軍港は堅固にして地中海艦隊の根據地たり、商港は地中海諸港中の錚々たるものにして百貨の集散甚だ盛

バルレッタ

なり。

◎バルカン半島

境域 南部ヨーロッパの三大半島中にて東にあるをバルカン(Balkan)と名づく、其の大陸に接する部分は廣濶なるに似たれども一帯の水脈は殆ど間斷なく半島の周りを圍繞せり、北にユナ、サエ、ドナウの河流あり、東に黒海、ボスボロス海峡、マルマラ海、ダルダネル海峡、エーゲ海あり、南に地中海あり、西にイオニア海、アドリア海あり、然れども歴史的關係の深きローマニアを加ふれば北境の一部はカルパト山脈と成りて南北九百二十五呎、東西七百呎、面積七十萬方呎の地域を占むべし。

海岸 海岸は屈曲に富めり、海灣に就きては黒海にブルガス(Burgas)灣あり、エーゲ海にサロス(Saros)、エノス(Enos)、オルファン(Orfani)、サロニキ(Saloniki)、ボロス(Volos)等の諸灣あり、イオニア海にマランニミ、エロン、パトラス(Patras)、コリント(Corinth)、アルタ(Arta)等の諸灣あり、海峡にエブリボス(Evripos)、タレント

世界地理提要 バルカン半島



レバンテ、コルフ(Korfu)等あり、半島にガリポリ(Gallipoli)、カルキス(Chalkis)、モ  
 ア(Morea)あり、地角にコロナ、マタパンあり、地峽にコリントあるが、島嶼は  
 其の數甚多くして主なるもののみを擧ぐるも、インブロス(Imbros)島、レム  
 ス(Lemnos)島、北スボラ、デス島、エブリボス島、キラデス諸島、クレテ島、セリ  
 (Cenig)島、ザンテ(Zante)島、ケフ、フロニア島、レフカズ島、イオニア諸島等あり、  
 地勢 半島は山地多く平地少なく、到る處山岳丘陵蟠廻して山脈の趨勢  
 の如きも極めて錯綜せり、北東にあるをバルカン山脈と云ふが其の最高峰  
 をユムルタチアル(二三七四)と云ひ有名なる峠をシプカ(Shipka)(二三三三)と云ふ  
 又ロドス(Rhodos)山脈即、ヘスボタダハのあるあり、北西にチナラアルプあり、  
 又アドリア海の沿岸に於ける高峯をドルミトル(Dormitor)山(二五二八)コム  
 (Kon)山(二四四八)、チルダハ(三〇五〇)、ヤブラニツァ(Jablaniza)(二二八二)とし南部  
 にあるものをカタボストラ(二一五八)、バルナッス(二四五九)とす。  
 河湖 ドナウ河は支流サエドリナ(Dorina)、モラワ(Morawa)等を容れて黒海  
 に往きマリツァ(Maritza)、ストロマ(Surma)、ワルダハ(Wardar)等はエーゲ海に入る

がアドリア海并にイオニア海の斜面に於けるものは顯著ならず、湖沼には  
 スクツリ(Skutarj)、オクリダ(Ochrida)、プレスマ(Prezba)、ベマン(Besihik)等あれども  
 概して大ならず。

氣候 氣候は一樣ならず、ブルガリアの平野にありては寒暑の差甚しく  
 スルビヤ又はマケドニアの山間平地にありては稍、温和なり、而して高山秀  
 嶺の地に於ては冬季嚴寒を覺ゆれども、ボスボロス海峡、マルマラ海沿岸に  
 於ては氣溫和く晴天多く、良候の地と稱せらる。

住民 バルカン半島は數多の種族が集居雜住するの地なるが、殊にマケ  
 ドニアを以て然りとす、ボスニア、ヘルツェゴビナ、モンテネグロ、スルビヤにス  
 ラブ人あり、ブルガリア、東ルメリアにブルガリア人あり、アルバニヤはスキ  
 タル人、占居の地にしてコンスタンチノブルよりサロニキに至るまでの沿  
 海地并にコンスタンチノブル、アドリアノブル、フィリップポリ、サロニキ、モナス  
 チル等の如き都會の地にはギリシア人多し、トルコ人は各處に居住するも  
 其の數は甚だ少なし。



宗。教。には三派あり、ギリシア正教はギリシア人、スルビヤ人、ブルガリア人、南アルバニアのトスク人等之を奉じ、ローマ公教はボスニア人、北アルバニアのゲクへ人等之を信じ、マホメト教に屬するものはトルコ人の全部并にボスニア人、南北アルバニア人の一部なり。

地勢 本半島は從來擧げてオットマン帝國の領せし處にして、スルタンの威權の下に屈服せしが、第十九世期に至りてギリシア、トルコ、ブルガリア、スルビヤ、モンテネグロ、ボスニア、ヘルツェゴビナ等の政治的區分を見るに至りたり。

◎モンテネグロ

モンテネグロ(Montenegro)即ツルナゴラ(Zrnogora)は山間の小國にして、地積は八千四百三十三方軒乃至九千八千方軒を有し、南の方僅にスクタリ湖及アドリア海に瀕す。

人口は二十三萬人に達せざるが種族は南部スラブの一派に屬して愛國心に富み獨立に熱衷するの點に於ては殊勝なるも、亦教育なく學識に乏し

くして半開の民たるを免れず、信教上に於てはローマ公教、マホメト教に各、四五千人の信徒あるの外、其の他は悉くギリシア正教を奉せり、政體は君主專治にして世襲の侯爵は内閣と共に國政を司る、兵備は舉國皆兵の主義に依るを以て戰時には三萬以上の兵を得べし、國內山岳多く到る處岩石にして地味は礫確を極む、従ひて耕種に適するの地稀にして僅に牧業に依りて牛羊を産するのみ、貿易の高は一九〇五年に於て輸入約四百六十五萬、クロネ、輸出百七十一萬、クロネ、足らずに過ぎざりき、交通機關も亦不完備にして車行に堪ゆるの道路なく、鐵道の如きは皆無なり。

ツェチニエ(Cetinje)は當國の首邑にしてアドリア海、カッタロ灣、スコドラ湖を距ること相均しく、海拔一千一百米突の盤地にあり、君主の居住地たるも人口は四千餘人に止まれり。

◎スルビヤ

スルビヤ(Srbija)即セルビア(Serbia)はバルカン半島北部の中央に位して地積は四萬八千餘方軒あり、而して國境附近に於ける山岳は二千米突以上に

世界地理提要 バルカン半島

境域

ツェチニエ



住民

達して樹木蒼鬱たり。

人口は一九〇五年に於て約二百六十八萬ありて概シッゴスラブ種族の一派に屬するが、二百三十三萬はスルビヤ語を使用し、九萬はロマニア語を用ふ、信、教、上はギリシア正教に屬せり、特に記すべきは身體強健にして敢爲不撓の氣力に富めるスルビヤ人はブルガリア、ボスニア、ツルナゴラ、ヘルツェゴビナ、スラボニア、クロアシエン、ガルニオラ、イストリア等を併吞して昔日のゾーシアン帝國を再建せんと熱衷するの一事なり。

政治

此の國は舊トルコに隸屬せしが一八七八年のベルリン條約に依りて獨立を認められ、一八八二年以來は王國と稱し議會を有するが、兵備は十一萬餘人ありて戰時には三十五萬人を下らず。

生業

土地は概して豊饒なれば穀類殊に玉蜀黍を産す、其他果物にはブリウム、葡萄多し、又豚及木材の産ありて鑛業は石炭、水銀、鉛等を採掘す、貿易(一九〇五年)は輸入に凡五千五百六十萬、デナル、輸出に約七千九十九萬、デナルあるが主としてエステルライヒと取引せり、交通に關して道路は多少開け鐵

ベルグラド

道の如きも五百六十二軒の長さを有す。

ベルグラド(Belgrade)は、ドナウ及サエの兩河が相合する處にありて王國の首都たるのみならず、交通上の要區にして軍事、商業の中心として重視せらる、クラグイェワツ(Kragjevatz)一、五三六三はドナウ河に多量の水を輸送するモラワの支流に瀕して兵器を製す。

◎トルコ

トルコ帝國。即ちメマリアイオスマニエ(Memalik-i Osmanije)はヨーロッパ、アジア、アフリカの三大洲に跨れる一大國にして、地積は四百十五萬方軒に近く、人口は四千萬に達せんとす。

新	領	地	積	人	口	方軒三付
直轄地			一六、九三〇〇 <small>方軒</small>		六一三、〇二〇〇	三六
ブルガリア			九、六三四五		三七四、四二八三	三九
ボスニア、ヘルツェゴビナ			五、一一一〇		一五九、一〇三六	三一
クレテ			八六一八		三〇、三五四三	三五
サツス			三九三		一、二一四〇	三一

世界地理提要

バルカン半島

五百六十



ヨーロッパ部	三二、五七六六	一一七八、二二〇三	三
直轄地	一七六、六八〇〇	一六八九、八七〇〇	一〇
モサモス	四六八	五、四八三四	一一七
スキプロス	九六〇一	二二、七〇三二	二五
アジア部	一七七、六八六九	一七一九、〇五五六	一〇
エジプト	九九、四三〇〇	九八二、一〇四五	九
トリポリ	一〇五、一〇〇〇	一〇〇、〇〇〇〇	一
アフリカ部	二〇四、五三〇〇	二〇八二、一〇四五	五
合計	四一四、八〇〇〇	三九八〇、〇〇〇〇	九

政治

一八七六年發布の憲法に依れば帝國議會は元老、代議の二院より成りて國政に參與すべき筈なれども實際に召集を行ひたることなし、されば政體は事實上專政君主國にして君主は大トルコ即チ「スルタン」と稱し「カツフ」を兼ね、内閣は陸軍、海軍、法政、内務、財務、學務、工商等の各大臣より成りて大政を司り、元老院、參事院は各種政務を分擔せり、又ヨーロッパトルコに於ける地方行

生業

政は七ヶ所に總督府を設く、陸兵は戰時に百六十七萬七千を得べしと稱せらるるも實戰に用ひ得べきは六十萬人ならん、兵艦は新舊合はせて七十八隻九萬八千噸許あるに過ぎず、財政に關して歲入に約一千八百五十一萬ポンドトリス、ポンドは百ピアストルにして我が約九圓三十錢に當れり、歲出に約一千八百四十三萬ポンドありて國債は一億二千萬ポンドを越ゆ。

ヨーロッパトルコの地は概して佳良なるが濕氣の充分なる谿谷にありては殊に肥沃なり、然るに現時の如く生産力の強大ならざるは住民の怠惰と官吏の苛政に歸せざるを得ず、農業は穀類、葡萄、煙草等を興へ、牧業は羊を飼ふ、又ロドベ、マクドニア、アルバニアの山地には森林の存するあるも道路の整備せざる爲之を利用するに至らず、工業は不振なるも亦葡萄酒、敷物、絹布、香水、馬具等を製出せざるに非ず、貿易は一八九九—一九〇〇年の輸入二十四億四千九百萬ピアストルを越え輸出は十五億五千九百萬ピアストル餘なるが又輸入品は織物(二四四)、砂糖(一一五)、穀類(一九九)等にして輸出品は蠶絲及繭(二四三)、葡萄(一九四)、モヘール(一〇六)、穀類(一〇二)、阿片(八六)、皮革(六四)等



なり、一九〇三四年の入船は四千九百三十二萬噸に達したるが、當國の商船は二十三萬餘噸を備ふるのみ、鐵路は五千五百十二軒有るが其の一千九百九十四軒はヨーロッパ部に屬せり、此の外郵便局(一四〇七)、電信線(六、八一六九軒)等の設けなきに非ざるも交通は概して不便甚し。

コンスタンチノブル

コンスタンチノブル(Constantinople)九四、二九〇〇(北緯四一度三〇分、東經二八度五八分五八秒)

はトルコ名をスタンブル(Stambul)又はイスタンブルと云ふ、ボスポロス海峡に枕み航通上最要の位置にあるが國都としてオスマニエの一大政區たるのみならず又東方貿易の一大中心たり、殊に宮殿、寺院は壯觀を極むるを以て名を知られ、住民にはトルコ人、ギリシア人、アルメニア人等あり、アドリアノブル(Adrianople)(八、一〇〇〇)は宮殿、寺院に富めるが革敷物、香油を産す、サロニキ(Saloniki)(一〇、五〇〇〇)は帝國第二の商港なるが取引稍盛にして農産を集散し絹布、綿布を製す。

アドリアノブル

サロニキ

附記 南岸に近きサソス(Thasos)島は一八四一年以來エジプトに屬せり。

○ブルガリア

ブルガリア(Bulgaria)はローマニア、スルビヤ、トルコと境を接し、東は黒海に面するが、地積は九萬六千三百四十五方軒あり、而してバルカン山脈の南に於ける三萬二千五百九十四方軒の地は東ルメリア(Rumelia)と稱せられ主としてマリツァ河の流域に屬するも山脈の北面はドナウの流域に含まれて亦平地少ならず。

境域

住民

人口は東ルメリアの約百十七萬人を加ふれば四百三萬人と成るが多數はブルガリア人(二八九にしてトルコ人(五三)、チガヌ人(九)、ローマニア人(七)、ギリシア人(七)等之に次げり、信教上は正教に三百二萬人、マホメト教に六十四萬人、ユダヤ教に三萬餘人あり、此の他に各種のキリスト教徒、異教徒等あり。

政治

トルコ帝國の屬領たるの名目を存するもブルガリア侯國は立憲君主政治の下に置かれ、兵備には五萬三千人の陸兵ありて戰時には十九萬人に達するも海軍は數隻の兵艦を有するに過ぎず。

生業の發達は著しからざるも農業に麥の産あり、牧業に羊の産あり、又香水は東ルメリアの特産たり、貿易は一九〇五年に於て輸入一億二千二百五

生業

世界地理提要

よゝるば洲

バルカン半島

五百七十一



十萬レイ、輸出十億四千七百九十六萬レイあるがエステルライヒルウンガ  
ルン、トルコ、イギリス、ドイツ等と取引す、交通に就きてドナウ河が短からざ  
る航路を興ふる外、鐵道(一五六五)電線(一一一三三)等ありて出船は三百  
二十四萬噸を超えなり。

ソフィア(Sofia)(八、二一八七)はブルガリアの首都にしてイスキエル河に瀕し  
交通上の要衝に當れり、ワルナ(Varna)(三七、一五五)シストリア(Sistia)、ルスタ  
ック(Rustak)(三三、五五二)はシムラ(Simla)(二二、二九〇)と共に四邊形を爲せ  
るが堅城を有するを以て著はる、プレヴナ(Pleven)は魯土戦争の際に名を揚  
げたり、フィリポポリ(Philippolis)(四、五五七二)は東ルメリアの舊都なり。

◎クレテ

クレテ(Krete)島はクリチ(Kriti)、カンヤブ(Candia)等とも呼ばる、東地中海の一島に  
て八千六百餘方呎の面積を有せり、土地の大部は山岳にして中央のイダ山は二四  
五八米突に達す、氣候は良好にして耕種に適する地少なからず、住民は三十一萬に  
餘り、信教上はギリスト教徒(二七)多きを占む、本島は名義上トルコに屬するもイギ  
リス、ロシア、フランス、イタリアの四強國の勢力の下に附近の島嶼と合はせて自治

國とせられ、高等委員(Haut-Commissaire)は議會(Bule)と共に管理の任に當れり。

カネブ(Kanea)(二一、一〇〇〇)は本島の首邑にしてカンヤブ(Candia)即ちヘラクレイ  
オン(Heraklion)(二二、四八一)は北岸に於ける一都會なり。

◎ギリシア

ギリシア即ちヘルラス(Hellas)はバルカン半島の南端に於ける半島國にし  
て古來有名なる土地なるが現時の王國は盛時の帝國に比すれば實に一小  
部分たるに過ぎずしてヘルラド、モレア、島嶼の三部より成り、地積は六萬五  
千方呎に達せず。

海岸は頗る屈曲に富み、島嶼も亦甚々多きが、内部は山岳縦横に走りて起伏  
は錯綜を極め、テッサリア、メッセニア、ペオシア等の平地なきに非ざるも、廣濶な  
るもの更になく又ヘルラド地方に於ける山脈海拔は二五一二米突(ヌコイ  
ア山)を超ゆることなきが、パルナッス(Parnassus)山(二四、五九)は其の名著はる  
而してモレア半島の最高峯はエリア(Elia)(二四、〇九)なり、河流は水量に乏し  
く些少の利便を供するに過ぎず。

世界地理提要 よーろば洲 バルカン半島 五百七十三

境域

土地







アテネ

ピレウス  
パトラス

アテネ (Athens) (一一、一四八六) 北緯三三度五八分二一秒は往古のアテネの地に建設したる市街なるが河流に瀕することなく海岸を距る數里の處にありて近代の市街としては資格に缺くる所多きも王國の首都なるが故に漸次に旺盛に趣けるが如し、又此の地はバルテノン、エレクテオン、セセイオン等の有名なる建築の遺跡あるを以て世に著はる、ピレウス (Piræus) (四、二一六九) はアテネの南西に於ける商港にして盛に百貨の取引を爲せり、パトラス (Patras) (三、七九五八) はコリント灣の入口にあり、乾葡萄の集散地として名あり。

◎ ローマーニア

境域

ロマーニア (Romania) 王國はバルカン半島の北東部に位し、モルダヴィア (Moldavia) フラキア (Wallachia) ドブニチア (Dobrujscha) の三部より成りて十三萬一千餘方杆の地積を有するが山岳地、丘陵地、平低地の間に平分せらる。

山河

山岳はモルダヴィアの東部とフラキアの北部とにありて東西に走り、後シ

氣候

ルバニアアルプ山脈はオム山 (二五〇八) を以て最高峯とし、南より北に趣くカルパット山脈はシアフレウ山 (一九九七) を以て最高峯とす、河流は甚多くして灌溉の利は勿論交通の便を併はせ供する者あり、而してドナウ河はローマーニアの主水脈にして支流にはモルダヴィアに於けるセレス、ブルス等あり、フラキアに於けるジニ、オルチャ、アルケス、ヤロムニツァ等あり。

氣候は大陸的にして寒暑の差著し、平野に於ける夏季の最高温度は三十六度にして冬季の最低温度は零下二十八度なれば寒暑の差は六十四度と成るが山地にありては冬季は一層低温を示して零下三十五度に降ることあり、是平低なるロマーニアが、ロシアの「ステップ」より吹き來る寒風に對して保障を有せざるに依れり、又ブクレシに於ける雨雪日の平均は雨天の七十四日と雪日の十一日にして雨量の三百七十四耗と雪量の七百二十耗なり、又冬季は長きも春季は短くして十五日に達せざることあり、最好の季節を秋とす。

住民

人口は一九〇四年に約六百三十九萬ありて一八九九年の凡て五百九十

世界地理提要 よーろば洲 バルカン半島

五百七十七



六萬人を地積に配付すれば一方千四十五人の割合なり、而して概、ローマニア種族(五四九)に属せるも此の他にユダヤ人、チガヌ人、スラブ人、ドイツ人、マジアル人、アルメニア人、ギリシア人等あり、宗教上に於てはギリシア正教に五百四十五萬人あるを第一とするがユダヤ教徒(二七)、ローマ公教徒(一五)等之に次ぐり。

ローマニアは舊一公國としてトルコ帝國に属せしが、一千八百八十一年以來獨立して王國と稱す、君主は二院より成る國會及び八人の國務卿より成る内閣と共に國政を司れり、兵備は陸軍に平時の六萬六千人、戦時の二十九萬人足らずありて海軍に二十隻、二萬八千餘噸あり、一九〇六、一〇七年の歳出入は各二億三千七百萬、レイに近し。

ローマニアは純然たる農業國にして玉蜀黍、大麥、燕麥等の外に葡萄の産あり、而して山地が木材、鑛産に豊富なるに拘らず工業は極めて幼稚なりとす、貿易(一九〇五年)は輸入に凡三億三千七百五十三萬、レイありて輸出に約四億五千七百十萬、レイあるが入船は八百六十四萬噸に餘り、鐵道は三千百

生業

ブクレシ

プロエヌチ

ガラツ

ブライフ

クライオアラ

ヤツシ

ボトサニ

九十六軒ありて郵便は三千二百七十八局を有するが電信線は一萬八千五百軒、電話線は三萬八千軒に餘れり。

ブクレシ(Bucharest)二八五四四五北緯四四度二五分三八秒東經二六度六分一八秒は王國の首都なり、ドナウ河の一小支流たるダンボビツァ河に瀕し海拔九六米突の地にありてアラキア平野の中央に位せり、街衢は美ならざるも南東ヨーロッパ屈指の大都會として繁榮せり、プロエヌチ(Ploesti)四、七〇〇は交通上の要處たり、ガラツ(Galați)六、四五五四は王國第一の商港にして穀類の集散地たり、ドナウ河の左岸に建てり、ブライラ(Braila)五、八九六五は河港の一倉庫の地として漸次に旺盛なり、クライオアラ(Oriova)四、五七五六は小ワラキア地方より出づる物産の集散地なり、ヤツシ(Jassi)七、八六八七はモルダビアの舊都なり、ブルス河を距ること數里の處にありて商業に従業す、ボトサニ(Botosani)三、三三二〇はモルダビアの北部にありて農業の中心なり。

附記 ドナウの河身改良、航通發達等を企圖せるドナウ公共委員會、羅馬其の他七國の協商并にブルス聯合委員會、羅馬ニアはガラツにあり。

世界地理提要 よーろぱ洲 バルカン半島 五百七十九



# あふりか洲

## ●總論

名稱 アフリカ (Africa) は往昔カルタゴ人の占有せし本洲北部の住民ア  
 フル (Afer) (複数はアフリ) に基づきし名にして遂に全洲をもアフリカと稱す  
 るに至りしなり。

位置 アフリカ洲は塊状的大陸と若干の島嶼とより成れり、アフリカ大  
 陸は舊世界の南西部を占むる一大半島にして回歸帶に屬する地は全洲の  
 三分の二に當り、北端と南端とに溫帶に屬する處あり、茲に其の四極を示せ  
 ば左の如し。

極南	アグリウス (Agulhas) 岬	南緯	三四	五一分
極北	ブラン (Blanc) (白) 岬	北緯	三七	二〇
極西	ベルデ (Verde) (綠) 岬	西經	一四	三五

極東 ラスハーフン (Ras Hafun) 東經 五一 二八

境域 北東の一隅は僅にスエズ地峽に依りてアジア洲に接するも、北東  
 は紅海、アデン灣に枕み、東并に南は印度洋に瀕し、西は大西洋を控え、北は地  
 中海を隔ててヨーロッパ洲と相對す。

アフリカ大陸の北部は東西に長く南北に短く、之に反して赤道以南の地  
 は南北に長く東西に短し、此の兩部を合はすれば極長は南北に八千一百  
 ありて東西に七千五百あり。

大陸部は二千九百二十萬方呎に達するが、之に島嶼部の六十二萬五千方  
 呎を加へばアフリカ全洲の地積は二千九百八十二萬五千方呎と成りて大  
 凡アジア洲の四分の三、我が帝國の六十六倍に當れり。

海岸 海岸線の發達に關してはアフリカは五大洲中、最も不完全なるもの  
 にしてアフリカ大陸は僅に二萬八千五百呎を有するに過ぎず、されば海岸  
 の状態は極めて單純にして、出入は概して顯著ならず、港灣岬崎の如きも其  
 の數甚少なく、半島の如きも寥寥、アトラスの兩地方に不完備のもの

世界地理提要 あふりか洲 總論

廣袤

面積

海岸線







る。又アビシニア地方の火山質山脈に至らば四千六百二十米突の地點を見  
 るべし。南アフリカ高原は海拔二千乃至一千五百米突の地に依りて北ア  
 フリカ高原に接続し、東南西の三面には山脈を戴ける高地を控え、南北に長  
 く東西に狭し、殊に東の方に於ける山岳は急峻にしてコンゴト、ニールの二  
 大河の水源たる大湖地方に蟠廻し、アフリカ第一の高峯も實に此の地方に  
 聳ゆ。西部に於ける山脈は顯著ならざれども連綿として間断なく南端のグ  
 トドホーフ岬地方に達し三千四百米突の山岳を有せり。  
 アフリカの最高山はキリマヌチャロ (Kilima Njaro) (六〇〇〇)にして赤道の  
 少し北に位し、ケニア (Kenia) (五五二〇) はルエンゾリ (Ruvenzori) (五八〇〇) と  
 共に畧々赤道直下に位せり、而して東部、北部、南部にも高峻なるものあるも  
 互に相連絡して山系を爲すものの如きは甚だ稀にして山衆と稱するの適  
 當なるもの多し。

- 北部 アトラス山脈 アヂン (四五〇〇)
- 中部 アスジール山衆 (二五〇〇) チベスチ山衆 (四〇〇)

河流

北アフリカ山岳

南部

アビシニア山衆 (四六二〇) マルラ山脈 (最高峯一八

アダマツ山脈 (二七〇〇) カメルン諸山 (フエ (四〇五五)

チアラト諸山 (最高峯三〇〇) ヨン諸山 (マロ (一三四〇)

ケニア (五五二〇) ルエンゾリ (五八〇〇)

キリマヌチャロ (六〇〇〇)

ムフンビロ (四〇〇〇) キパンガ ガンバラガラ

シエルラ諸山 カラス諸山

ドラケンベルグ山脈 水源山 (三四〇〇) カンツ諸山

ニエウエベルグ諸山

南アフリカ山岳

南部

又島嶼中に於ける山岳にはマダガスカル島にツィハヤボナ (二六三二) フエル

ナンドボ島にシラレンツ (二八五〇) テネリフ島にライド (三七二〇) 等あり

河。湖。河。流。は。著。大。なる。もの。と。雖。航。通。上。の。便。を。與。ふ。る。こ。と。少。な。心。下。流。は。  
 砂。礫。を。以。て。填。塞。せ。ら。る。る。三。角。洲。を。爲。す。に。非。ざ。れ。ば。河。床。に。岩。石。の。階。段。を。爲。  
 す。め。り。て。瀑。布。奔。流。急。流。等。を。現。出。せ。り。中。流。に。至。り。て。再。航。行。に。堪。ゆ。べき。水。

世界地理提要

あふりか洲 總論



脈と成るものなきにしも非ざるも、此處彼處に障礙ありて自由に舟を通ずること能はず、是、アフリカ洲の河流の特徴にして、一大缺點と云ふべし、本洲をして永く暗黒の世界たらしめしも亦故ありと云ふべし、今水誌的に本大陸を分てば千四百八十九萬二千方杆は大西洋斜面に屬し、五百四十萬三千方杆は印度洋斜面に、殘餘は閉塞地に當れり。

斜面	河名	流域	源	流河	長
大	ニール	二八〇、〇〇〇 <small>方杆</small>	バールエルジゼル	五九四〇 <small>方杆</small>	
	セネガル	三六〇、〇〇〇	バボン	一七三〇	
	ニジェル	四四〇、〇〇〇	チンバ	一四三〇	
	オゴエ	二六五、〇〇〇	オゴエ	四一六〇	
	コンゴ	三〇〇、〇〇〇	チンベジ	一一二〇〇	
	クアンザ	一七五、〇〇〇	クアンザ	八五〇〇	
	クネネ	三〇〇、〇〇〇	クネネ	一一三〇〇	
西	オレンジ	二七、七〇〇	センク	八三〇〇	一一八四〇〇
洋		一〇二、七〇〇			

ニール河

地閉	洋度印	閉地	度洋	印洋
クバン	シアリ	クバン	シアリ	クバン
クネネ	クネネ	クネネ	クネネ	クネネ
クアンザ	クアンザ	クアンザ	クアンザ	クアンザ
コンゴ	コンゴ	コンゴ	コンゴ	コンゴ
オゴエ	オゴエ	オゴエ	オゴエ	オゴエ
ニジェル	ニジェル	ニジェル	ニジェル	ニジェル
セネガル	セネガル	セネガル	セネガル	セネガル
ニール	ニール	ニール	ニール	ニール

ニール(Nil)河は、エチオピア(Nio)と云ふ、アフリカ洲第一の長流なり、本流たるバールエルアビアド(Bahr-el-Abiad)即ち白ニールの源流に二派あり、東派はカゲ河と成り、アチソンの湖流を爲し、アルベルトエドワード湖を通過する、西派のキ河と共にルータ(アルベルト)湖に入る、同湖を出づるや山岳水と稱し、五百乃至二千米突の峡谷に入りて、奔流激流を爲して、海抜五百五十米突のゴンドコロに達し、バールエルラドを過ぎり、ジエルの名の下に北流して、一秒間に三百乃至九百立方米突の水を輸送するが、北緯九度のノール湖の地に於て、東方スーダンの河流地方より来る豊富のバールエルアラブ(Bahr-el-Arab)又は水に乏しきジール(Dur)等の水脈を

世界地理提要 あふりか洲 總論



合はせたるバールエルガザル(Bahr-el-Ghazal)に合するや方向を東に轉じ始めてバールエルアビア(Bahr-el-Abiad)と稱す源をカッサ地方に發するソハット(Sohat)を容れ再び北流してハルツームに來りエシオピアのタナ湖より出づるバールエルアズレク(Bahr-el-Azrek)即ち青ニールを受け、清濁の二水は並流して草木繁茂、百獸棲息の地を潤せり、ハルベルに至るに先ちてチケン地方より來るアトバラ(Abarra)河を合はす、アケハルへの瀑布、其の他二十ヶ處の瀑布に依りて階段の地を降り、沙漠の地をS字形に流れ二千八百料の間に一の支流を合はすることなく、水量は大に減ずるも、狭長の谷地を潤すに足る、カイローの附近に至りて數派に分かれ、有名アルタ、即ち三角洲を抱きて地中海に朝す、本河は源委通じて五千九百四十料、四百料の長、を以て二百八十餘萬方料の流域の水を集むるも、沙漠の如き乾燥の地を通過するが故に下流に至れば水量は甚だ多からず、因に記すニール河の増水は毎歲六月二十日頃に始まり、最初は綠色を帯び七月に入りて白色に變じ七月二十日頃に至れば赤色と成り、濁色と成る、八月上旬に増水の半に達し九月二十五日頃に始めて最高に達す、而して減水は十月下旬又は十一月の月上旬に始まり、減退の度は始めに著しきも一月を過ぐれば漸く、遅く六月に至りて最低に達し、肥力に富める土砂を沿岸の地に遺棄してニールをしてエジプトの父たるの實あらしむ。

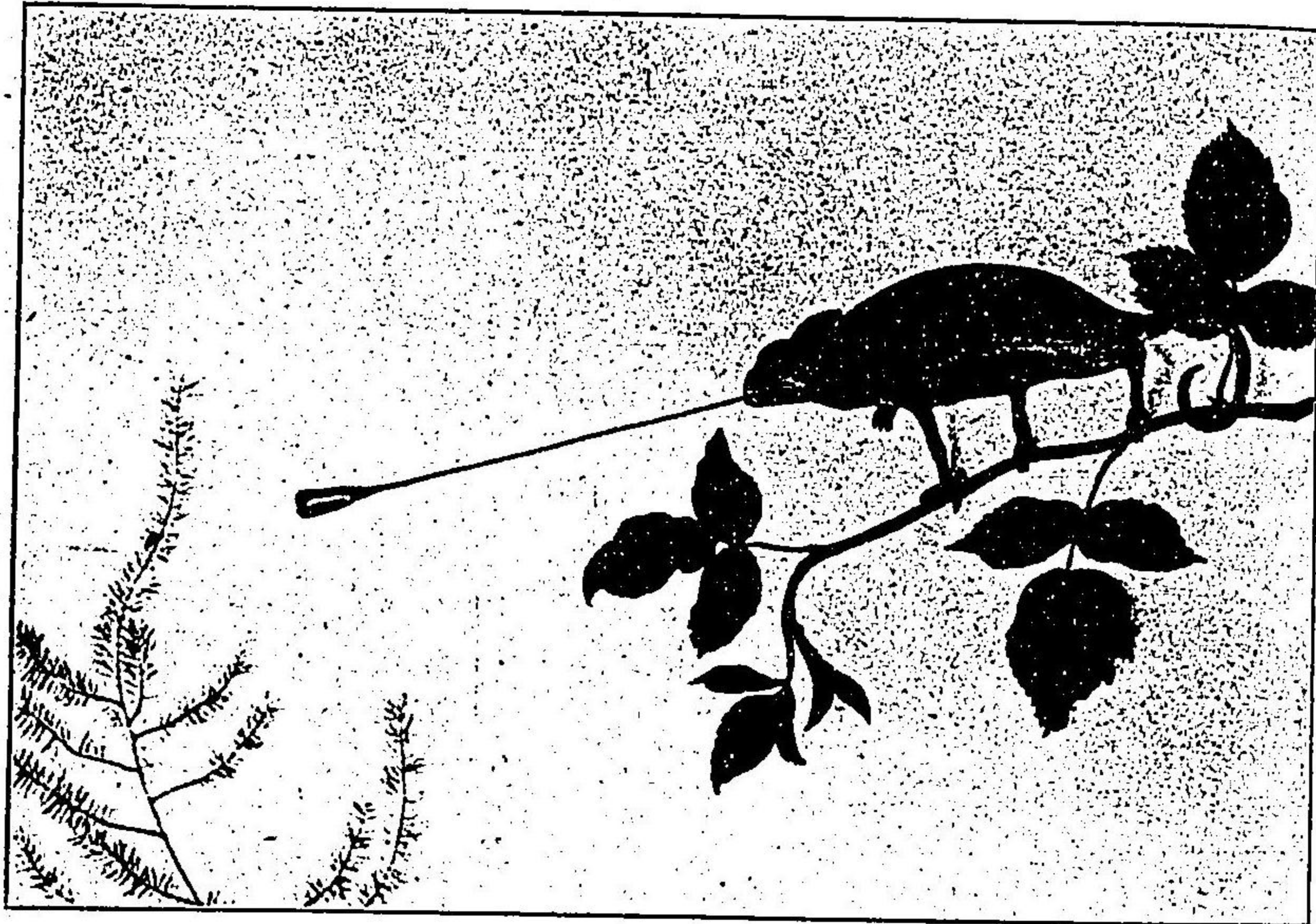
コンゴ河

コンゴ河(Congo)河はアフリカ第二の巨流なり、水源をタンガニイカ湖の南方に當る山岳に發し、上流をチンと云ひ、チンベシ(Chimbesi)と稱す、海拔一三〇〇米突の

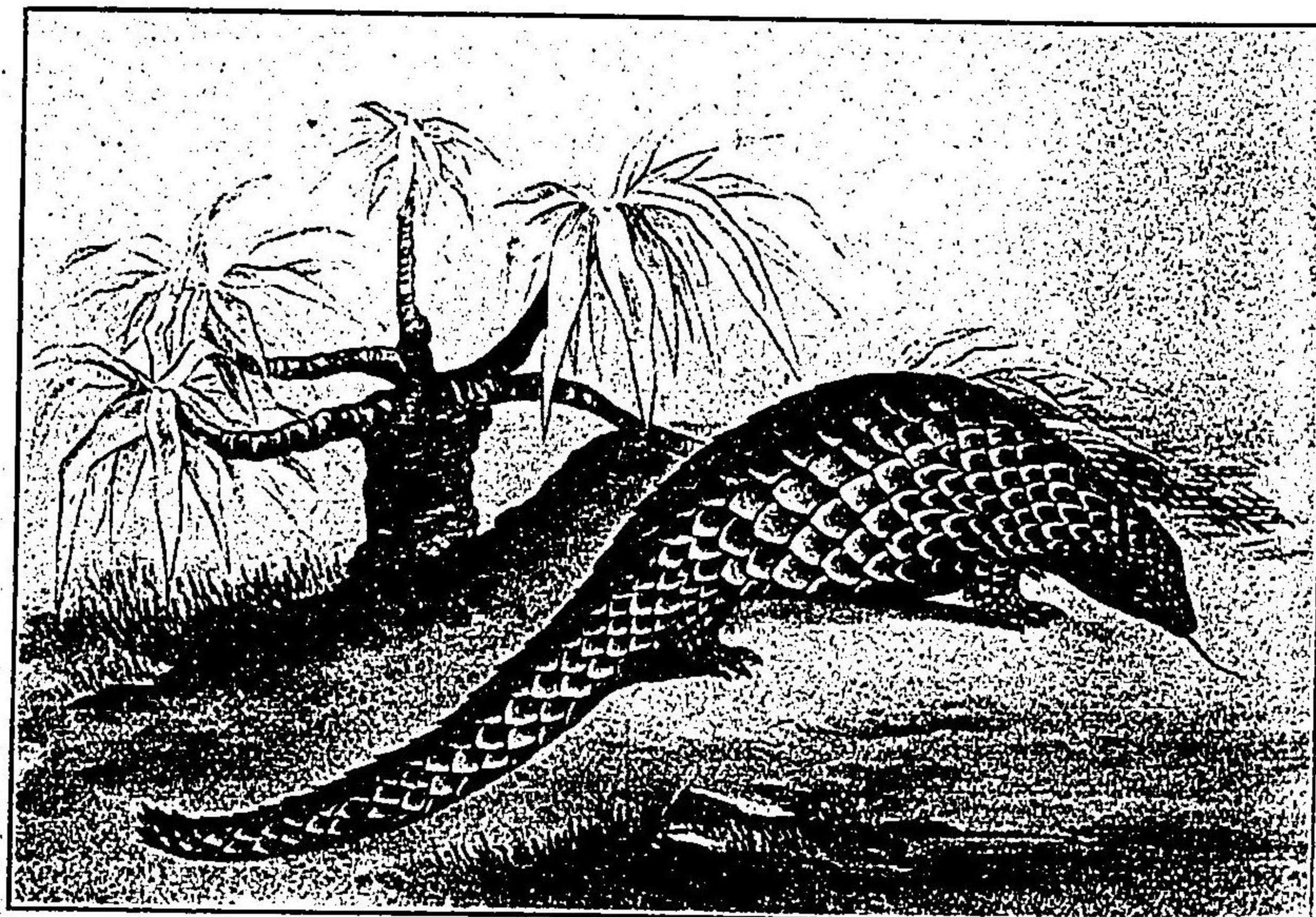
地にあるパンケエオロ湖に入り、幅六七十米突のルアラ(Imanba)河と成り、或は沼澤の地を流れ、或は瀑布を爲して四百五十米突を下り、海拔八五〇米突のヨエロ湖を過ぎりてルアラ(Unaba)河と成る、ランの湖を經西ルアラを容れ、タンガニイカ湖より出づるルクガ(Lukaga)の水を受け、幅一料の巨流と成り、始めてコンゴと稱す、北流して赤道直下のスタンレー(Stanley)瀑布を經て、海拔四三〇米突の地に降り、忽然として巨大の河流と成り、赤道以北の地に入り、一大彎曲を爲し、再び赤道以南の地に戻り、アフリカ陸地の西邊に至るまで一千七百萬料の間は如何なる船泊をも許さず、而して此の中流區に於ける支流は其の數多きも、就中ウバンギ(Ubangi)、カッサイ(Kasai)を以て著しとす、ウバンギ河はニムニム地方より來るムボム(Mbomu)、マクマ(Makua)等の合流にして下流に至れば二料乃至四料の幅を以て、四五千立方米突の水を集むるが、水量はウバンギに劣らざるが如し、而してコンゴ中流の地方はツム(Tumba)、ナオケルム(Leopold)、スタンレー等の沼湖あるが、往古の時代に於てアフリカ内部に存在せし内海の遺跡ならんと云ふ、コンゴ河がリビングストーン(Livingstone)の瀑流と成りて三十二回に二百五十五米突を下るに當りては、河幅は五百乃至二百二十五米突に縮小するも、深きは五十乃至一百米突と成り、速度は一秒時に十二乃至十四米突と成る、最後の瀑流たるイェララ(Yellala)を經過すれば、河流は緩漫と成り、幅は十七料に達することあるも、河口に近づけば再び縮小して六料を有す

世界地理提要 ありか洲 總論





カメレオ 避役 (Chamaeleo vulgaris)



長尾センザンカウ 鱗狸 (Manis longicauda)

湖沼

るに過ぎず、然れどもコンゴリ河が大西津に落し来る所の水盤は一秒時に就きて三萬六千乃至五萬五千立方米突に達し、河口を距る二十浬の沖に淡水海を見、沿岸の地を距る六十浬の海上に於ても水色に異常ありと云ふ、是ハ本河の流域が赤道の南北に亘りて其の一部が常に降雨期にあると沼澤叢林の地に富みて雨水流失を緩慢ならしむるとに因れるならん。

湖沼には大なるものあり、就中東部の地には世界第二の淡水湖たるビクトリアニアンザを始としタンガニイカ其他若干の著しきものありてニール、コンゴリ、ザンベジ等に依りて外海に通ずるが、此の外に排水口を有せざるものもありて存せり。

湖沼	面積	海抜	湖沼	面積	海抜
ビクトリア	八三三〇〇 <sup>方浬</sup> 六八五〇〇	一一〇〇 <sup>呎</sup>	パングエロ	二、二二五〇〇 <sup>方浬</sup> 五二〇〇〇	一一三〇〇 <sup>呎</sup> 一〇〇〇
アルベルト	四四五〇	七〇〇	ニヤツナ	三、五二四〇〇 <sup>方浬</sup> 一、六五〇〇〇	四八〇
アルベルトエドワ	三九〇〇	八八〇	タナ	二、九八〇〇〇 <sup>方浬</sup> 三〇四〇〇	一七五五
キフ	?	一四八〇	チャード	三、四〇〇〇〇 <sup>方浬</sup> 三、九〇〇〇〇	二四四
タンガニイカ	三、一四五〇〇 <sup>方浬</sup> 三、五〇〇〇〇	七八〇〇 <sup>呎</sup> 八四〇〇	レオポルド	?	三四〇



カメレオ「遊役」(Chamaeleo)はアフリカに多し、其

の普通種 (Ch. vulgaris) はヨーロッパの南部にも棲む、  
形醜くしと雖も、克く人に馴れ、蠅を捕食するが故に、家養す  
ることあり。

ゼンザンカウ「穿山甲」「鱗鱗」(Manis)に三種

あり、其の長尾種 (M. longicauda) はアフリカのギニア  
に産す、體軀は三十五種に過ぎざるも尾長は七十種に達  
す、其の廣尾種 (M. laticauda) は南印度、セイラン、  
スマトラ、臺灣等に産し、體軀九十種、尾長四十種あり、  
肉を食料又は藥料に供し堅固なる鱗皮を被覆に用ふるを  
主とす。

メル (モエロ)	五〇〇〇	八五〇〇	七〇〇	九四〇
ムカダ	五二五〇〇	九七〇〇	ニアミ	

氣候 アフリカ洲は概して熱帶的氣候を有せり、北緯十五度と南緯三十  
度との間に於ける地にありては溫度甚だ高く、強雨屢降りて空氣は濕潤を極  
む、而して極暑の地は紅海沿岸、マッサラは及東スーダンのハルツムにあり  
て溫度の最高はギニアの海岸及び大湖地方にあり、此の廣濶なる熱帶地の南  
端に氣温中和にして冬期に降雨を見るの地あり、即ちアトラス地方、他  
をケープ地方とす。

天産 アフリカ大陸の地積二九二〇を各種の土地に配付すれば耕種地  
(六三七)濕草原六二五、乾草原五八〇、不毛地一〇六、湖沼地二〇の順を得るが、  
北部一帯の地に於ける植物はヨーロッパの地中海沿岸地に見る所のものに  
類し、紅海の兩岸に於ける植物はアジアにあるとアフリカにあるとに拘ら  
ず全く同一なり、此等の植物帯の南又は西に於けるサハラ并にリビヤの地  
方は僅に椰樹の一種を有するのみにて、眞のアフリカの植物たる「バオバブ」

植物



(*Adansonia digitata*)、*「ゾーン」*(*Hyphaena crinita*)、其の他各種の椰樹の繁茂するは  
 スーダン地方なり、殊に著しきは種類の單純にして混淆の至りて少なき  
 あり、同種の草木のみより成る森林、草原を見ること稀ならず、然れども常に  
 植物の茂生するあるは河流の沿岸、ベニン、ダホメイの海岸の如き高温にし  
 て濕潤なる土地に限れり、其の他の土地にありては草木の榮枯常ならずし  
 て降雨季來れば到る處綠葉たらざるなく、百樹蕪鬱たりと雖、乾燥季と成れ  
 ば草木は活氣を失ひて殆ど枯死せるの狀を呈す、尙ほ進みて南緯二十度以上  
 至れば再、荒蕪不毛の地に入るべし、即ち南アフリカのザハラにしてカチハ  
 沙漠と稱す、之を越ゆれば地味稍、豊にして葡萄の栽培に適する處あり、ゲ  
 プ地方は殊に耕種に適せるが如し、而して南アフリカの植物は北アフリカ  
 の植物に多少類似せるも、椰樹類は席をアカシアミモザ(*Acacia mimosa*)、*「マ  
 キ、チ」*(*Welwitschia*)等に譲ると云ふ。

動物

アフリカは猛獸奇獸の生産地として名を知らるる所なるが、獅子の棲息  
 地は漸次に南方に退却して地中海沿岸にありては僅にマロッコの一小区

に限れるが如し、ジブラルタルの岩上に飼養せらるる獼猴と同種の四手獸  
 はカベリア地方の森林に多し、古代に生存せしと稱する巨大の厚皮獸はサ  
 ハラ以南の地に退きて、其の領土を駱駝、驢馬、犬、牛、羊等の家畜に譲りたるが  
 「ツエツエ」蛇の類にて家畜の領域は廣大にして殆ど熱帯アフリカの全部に跨り、北  
 はバールエルガザル、センナアルより起りて南はザンベジの河畔に達せり、  
 又蝗蟲は時に襲來して穀類に非常の損害を與ふ、而して南アフリカの動物  
 は象、犀、河馬(*Hippopotamus*)、麒麟(*Camelopardalis giraffa*)、斑驢(*Hippotigris*)、水牛、各種  
 の「アンチロペ」等なり、此の外に「ジゼル」(*Antilope dorcas*)はサハラ、スーダンに多  
 く、「猩猩」は西岸に居り、駝鳥(*Struthio camelus*)は漸減少するも、鱷は赤道アフリカ  
 の河流に群棲す。

礦物

鐵産の富力は推知するに難しと雖、キンバレー附近に於ける金剛石并  
 にトランスバールの産金地の發見は他の鐵産地の存在に對して有望なる  
 豫告に外ならざるべし、鐵の生産には多少の疑なきにしも非ざれども、銀、銅、  
 石炭、石油の存在は確乎たる事實なりとす。



住民 人口は確知するに苦むも二億と爲すもの或は眞に近からんか、それと之を地積に配付すれば平均一方糶に付き七人と成りてアジアの平均人口の三分の一強に當り我が帝國の平均人口の十七分の一たるに過ぎず、而して人口の配付は極めて不平均にして海岸河口沿河の地にありては密なれどもサハラカラハリ等の如き地には殆ど人類の生存せざる處あり。

種族に就きて一言せんにハム派はニール河畔のフェルラー(Fellahs)人、地中海沿岸のヘルベリア人、中央サハラの上ツング(Tung)人等を包括し、セム派に屬するものはアラビア人、アビシニア人等にして北部并に東部に最多し、黒色種に屬するものはスーダン及南アフリカの各地に居住せり、其のニグリチア(Nigeria)派はスーダン人、ハウッサ(Haussa)人、マンデング(Mandingo)人等に分かれてサハラ以南赤道近傍一帯の地を占む、其のバヌツ(Bantu)派はブング(Bung)と稱し、ルンダ(Lunda)と云ひ種々なる名稱の下に南アフリカの全部に生息せり、就中カプル(Cape)人、スワール(Swazi)人は最上に位せり、其のネグロ派は身長の低きを以て知られ平均は百四十一種なりと云ふ。

ニグリチア派は黒大陸の中央部を占めて員數九千萬人最多く、アフリカの黒人と云へば本派を想起す、皮膚は黒しと概言すれども赤、帶藍、眞黒の三種あり、身丈高く頭骨長く髪は黒くして或は縮緬的或は羊毛的なり、髪は少なく額は突出し目は水平にして頭骨突出し、唇厚く鼻低く四肢長く脚蓋著しからず、更に小別して東方、中央、西方、ギニア(沿海)の四群とす、而して東アフリカは元來の黒色人と他の侵入人とを混和せるものありてアラビア的侵入の結果はニグリア人、アビシニア人、カルフ人等と成り、マライ的侵入はマダガスカル、ホバ人、サカラブ人を生ぜり。

バヌツ派は東西南の三群に分かるるが文化上より見ると、腦蓋の多きより見ると、稍、優等の地位にあり、額は廣く鼻高く頭骨は突出せず、智力も亦前派に優れり、而して遊牧を好まざるに非ざるも定住を厭はず。

此の外アフリカ最舊の住民なるボッシュマンはカラハリ沙漠に住し極めて下等なるが、南アフリカの南西部に居るホッテントット(Hottentots)は稍之に優れり、又雜種はサハラの東部にベルベリア人とニグリチア人との混合より成れるデダス人あり、ベルベリア人とアラビア人との混種なるモロス人あり、東岸にアラビア人とニグリチア人との雜種なるスハハリ人あり、南部にブーア(Bours)とホッテントットとの雜種なるグリクアス(Grikwas)人あり。



マホメット教は最勢力を有せるが殊に赤道以北に於て盛なりとす、本教の北アフリカに於ける傳播は西紀六六〇乃至七一〇年に亘るアラビア人の來侵に始まり一〇四八年乃至一四〇〇年のアラビア侵略時代に大成せしは事實なれども、以前より開けありしイスラムの根據地たるアラビアとアフリカ東部の沿海地との交通的便利は布教上與りて大に力ありしならん、而して其の一度東部に渡るや大湖地方、上流コンゴ地方に入り、延ひてスタンレー瀑布の近傍に達したり、且又イスラム教の傳播の初期にありては腕力強迫に依りしは争ふべからざる事實なるも、元來本教は土地の人情風俗に適ふの傾ありしを以て容易に多數の信徒を得るに至りしのみならず、現にスーダン地方以南に著大なる進歩を爲しつつありと云ふ、多神教は最劣の形状の下に現出し、拜物宗と成りてギニア地方、南アフリカの内部に行はるるが如し、而してキリスト教は未だ盛ならざれどもアルジェリア、チュニジア、アンゴラ、モザンビク等の移住者中に天主教徒を有し、エジプト、アビシニア地方にコプト派の信徒を有し、トランスバール、オレンジ、ケープ、ナタル、其の

他ギニア、南アフリカ、マダガスカル等の傳教區に新教信者あり、又ユダヤ教の信徒は北岸の地、サハラの泉地、スーダンの各地等に散在せるも、本洲内何れの地にも群居することなし。

探検 本大陸の海岸は出入屈曲に乏しきのみならず、危険にして健康に適せざる處多く、ザンジバルよりマサウィに至る間には暗礁充滿し、ギニアの沿岸には沙洲の横はるあり、回歸帶地方に於ては河流の搬じ來れる泥砂の積堆より成れる平低の沼地に、マンゴローブの繁茂するありて、惡疫屢流行し、極めて不健康なる處とす、加ふるに印度洋上には颶風の起ること稀ならずして被害少なからず、是古來アフリカの沿岸に海洋的生活を營める住民の僅少なりし所以ならんか、而して内部に關しては行旅の妨害を爲せし特殊の地方的事情の外に、當大陸大體の地貌は根本的支障なりしなり、蓋しアフリカの主要部は臺地を爲して其の外縁は絶崖を爲すもの多く、河流は瀑流激湍に據らざれば外海に達する能はず、從て交通上の便益を呈供すること極めて微弱なりき、されば本大陸が暗黒世界より脱せしは全然之を各



國の地理學會の幫助と探檢旅行家の膽智とを先驅と爲せる殖民事業の効果に歸せざるを得ず。

アフリカ洲の沿革探檢は頗る興味あるが今左に最著名なる二三の旅行者に就きて略記する所あらんとす。

バルト (Heinrich Barth) (1821-1865) はドイツのハンブルクの人なり。アルジェリア、チュニジア、トリポリ、エジプト(一八四五-一八四八)を訪ひサハラ、ホルヌ、アダマラ、カネム、バギルミ、ソコト、ナムブクツ、等(一八五〇-一八五五)を検しスーダン地方に就きて少なからざる光明を興へたり。

スタンレー (Sir Henry Morton Stanley) (1831-1904) はイギリスエールズに生れし人なり。新聞通信員としてアビシニア(一八六八)に至り或はリビンググストン探察の爲、ザンジバルを發し(一八七一)ウジシ(Usisi)に於て彼を發見(一八七一)せることあり、又ビクトリアニアンザ湖の周航(一八七五)、アルベルトニアンザ、タンガニイカ兩湖の探察、アルベルトエドワード湖の發見、コンゴ河を下れること(一八七六-七七)、等ありてコンゴ地方に於ける地學上の疑問を解決し遂にコンゴ國の建設あるに至らしめたり。

リビンググストン (David Livingstone) (1813-1873) はスコットランドの人なり、宣教師としてケープに赴任したる後、漸次に北上してニギミ湖附近を視察し(一八四九)、ザンベジの上流を溯りてロアンダに出で(一八五一-五三)、ザンベジの流域、ニヤッサ湖地方、等

に旅行せしがニールの水源を探究する際、不幸にして病没したり、博愛主義の人として、大に黒奴廢止に力を致し探檢者としては南アフリカの内部を世に紹介したり、實に有数の人傑なり。

カメロン (Verney Lovett Cameron) (1844-1894) はイギリスの人なり、リビンググストン探察隊の長と成りて一八七三年マサモ(Bagamojo)を發しタンガニイカ湖を周リ、ルカガ(Lukuga)を發見しルンバ、南ルンバを経て一八七五年ロアンダに達し、南アフリカの横断旅行に先登第一の名譽を得たり。

分國 本洲には二三の獨立國ありと雖、其の他は概々フランス、萬方料、三萬一六〇イギリス、四三三三トルコ、一〇八二ドイツ、一二三〇五ポルトガル、六七七イタリヤ、六八、エスバニア、二九、等ヨーロッパ諸國の勢力の下にあり、コンゴ獨立國、一九〇〇の如きもベルジック領と見るを得べし。

部	地方	邦	土地	積	人	口	方料
北	北東	トルコ領 エジプト トリポリア	九、四三〇〇	一〇五、一〇〇〇	九八二、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	九

世界地理提要 あふりか洲 總論







部	部		
	南端	東岸	中央
島	イギリス領 ナタル バストランド ケープ	ポルトガル領	イギリス領 ローデシア 中央アフリカ
			フランス領 イギリス領
嶼	イギリス領 ナタル バストランド ケープ	ポルトガル領	トランスバール オレンジリバー
			フランス領 イギリス領
大西洋	イギリス領	ポルトガル領 エスパーニア領	ポルトガル領
			イギリス領
合計	三〇四、四七五	一、四二二、七三六	六六二

北 部

● 北東地方

◎ エジプト

エジプト (Egypt) は一にシスル (Mis) と云ひ、アフリカ洲の北東隅を占むるが、ワデハルハ (Wadi Halfa) 以北の地はニビアと稱せられ、之にアジア洲のシナイ半島、ミヂアン (Midian) 地方を加ふれば、地積は一百万方杆に達せんとす。然れども耕種に適する地は三十分一に過ぎざるべし。

エジプトは地中海并に紅海に瀕するが、前者の沿岸地は概平低にして沙洲多く、後者に沿ふ處も亦屈曲に乏し、地角にラスベナス即ラスエルアンフ、ラスエチネブ、エルバ岬、ラスラウアイ等あり、海にはスエズ及アカバの二灣あれども、島嶼には著しきものなし。

エジプトはサハラの一部即其の東端たるに外ならず、リビヤ沙漠とアラビア沙漠とに挟まるるニールの河谷は、恰綠色の帯の如く南北に亘れるが、

世界地理提要 あふりか洲 北東地方

地勢

地積

境域



河湖

カイローの附近に至れば沖積の平野と成り下ニールの數派并に運河は之を潤して國內第一の肥沃地たる下エジプトを形成せり而してリビヤ沙漠中にはシウアー(Siuh)ハリーエー(Fahurieh)等若干の「オアシス」あり又ニール河の西に於ける一帯の凹窪地はフアエム地方に最低くニールの河床より低きこと八三米突なりとす國內は平低にして山岳に乏しきも紅海沿岸の花崗岩質山脈(最高處カムデルフ)は稍著しきが如し。

河流は唯一のニール河あるのみなりエジプトに入りたる後は一の合流を受くることなく國を南北に縦斷せり河口に近き處に於てニールは扇の骨の如く數派に分かる就中東派のダミニット(二二〇)并に西派のロゼット(二一九)は著しうして其の河口間の海岸線一四五と共にギリシア文字の「デルタ」に似たる土地即ち三角洲を爲せり又河口の沿海地には湖潟多くしてメンザレー、ブルロス、エドク、マリウル等の潟を見る。

氣候

氣候は佳良にして寒暑の差は極めて少なく氣温の年平均はアレクサン  
ドリアに於ける二十度カイローに於ける二十二度ケネーに於ける二十六

住民

度、セベスの二十八度なるがカイローの最低温度は三度にして最高は四  
度に達すと云ふ降雨は稀にして量に乏しきも降雪は強くして殊に下エジ  
プトに著しとす。

住民の總數は約九百八十二萬人男四四九三なるが其の居住地は殆どニール  
の河谷并に三角洲に限れり從て此等の土地の面積と住民とを對比すれば  
方籽に就きて三百三十八を得るなり而して種族にはフェルラー(Fellahs)約七  
百萬人、コプト(Coptic)約六十萬人、ベドイン(Bedouins)三十萬人、トルコ人、ユダヤ人、  
アルメニア人等あり又西人は約十一萬三千人ありてギリシア人、イタリア  
人、イギリス人等を主とす宗教はマホメット教最盛にして一八九七年に於て  
は八百九十八萬人許の信者を有せしがキリスト教徒は七十三萬餘人に過  
ぎざりき。

政治

政體は君主專治にして君主を「ケーデフ」(Khedive)副王と稱するが名義上は  
トルコの主權の下に置かる然れども一千八百八十二年の事件以來監督權  
はイギリスに屬するを以て同國は百般の政務に干涉せり政府は首相、内務



農業

財務、法務、軍務、工務、教育、外務の諸省の長官より成り地方は八總督府十四州に分れる、兵備には陸兵凡一萬八千人あるも海軍は數隻の小艦を備ふるのみ、又財政に就きて一九〇六年の豫算に依れば歳入は一千三百五十萬餘「エジプトポンド」我が約十圓四十錢にして歳出は一千百七十五萬五千「エジプトポンド」なるが、國債は一億百二十八萬「エジプトポンド」に近し。

住民中の百分の六十一内外は農民にして約三萬三千方杆の耕地を有せり、而して此の地の農業的の一年は三季に分かれ、冬作播種十一月收穫三月、夏作播種五月收穫八月、秋作播種七月收穫十月、米、綿、甘蔗を産し、秋作收穫九月十月は米、玉蜀黍、黍等を生ず、然れども此等は自然的又は人工的灌漑の便を得るの地に止まりて氾濫の際にのみ濕さるるが如き地に於ては黍を得るに過ぎず、綿花の産額は一九〇三—〇四年に於て六百五十萬「ケンタル」「ケンタル」は九十九磅餘なりとす、貿易は一九〇五年に二千百五十六萬餘「エジプトポンド」を輸入し二千三十六萬「エジプトポンド」を輸出せるが、取引先はイギリス輸出一〇六九三を第一とし、フランス二七三〇、トルコ四三〇七等之に次げり、主要輸出品は實總一五

貿易

八〇）綿子（一七一）、卷煙草（五五）、砂糖（四〇）等にして此の他に葱類、アラビヤゴム、油糟等あり。

交通

一九〇五年アレクサンドリア港に於ける出入船舶は凡三百二十萬噸づつなりしが、同年の鐵道は三千九百九十七杆にして此の外スーダンの軍用鐵道は一千二百四十九杆ありたり、又郵便は一千八十一の局所を備へ、電信線の延長は一萬八千三百餘杆、電話線は八百八十杆あり、水路には有名なるスエズ運河あり。

スエズ運河

スエズ運河に就きて記さんに一八四九年フェルデナンレセップ(Ferdinand Lesseps)はスエズ地峽の開鑿を始めんとしてスエズ運河會社を起し資本の一部はヨーロッパ諸國に求め、殘半部はエジプトの「ケーデブ」に仰げり、此の如くにして一八五九年四月二十二日工事に着手し一八六九年十一月十七日に至り竣工せり、ポトセッド(ポールサイド)よりスエズに至る長百六十九杆、水面の幅七十乃至百十米、水底の幅三十八米、水深九米、突乃至九米、突半を有す、一九〇四年に於ける會社の支出は三千七百四萬フランクに近

世界地理提要 あふりか洲 北東地方



くして収入は一億一千五百七十九萬餘フランクなるが、一九〇五年に通過せる船舶は四千百十六隻、一千三百十三萬餘噸にて、次年の収入は一億一千三百八十三萬フランクに達せんとせり、而して其の主要なるものを噸數順に示せば、イギリス(八三五)、ドイツ(二一一)、フランス(八四)、オランダ(五七)、エスタルライヒ(四五)、イタリア(二八)、ロシア(一七)、トルコ(一一)、ノルゲ(一一)等を得。

カイロー(Cairo) (五、六、五、一、八、七) 北緯三〇度一七分一三秒 即ちケールはエジプト人のカイロー (El Kahira) にて當國の首府、アフリカ第一の都會なり、アラビア人の建設(九七〇年)に係れる當市はニール河を距ること一千八百米突の地にありて有名なるハサン寺院、ブラク博物館等を有す、ピラミッド、メムフィス等の舊地は此の府の近傍にありアレクサンドリア (Alexandria) (三、一、五、〇、四、七) 北緯三一度五三分三〇秒 是はマームチエー運河の端にありて當國第一の商業地、史上有名の舊地なるが居民の四分の一はヨーロッパ人なりと云ふ、往古の隆盛を見ざるも市況稍快復して一九〇五年の貿易高は三千七百萬、エジプトポンドを越えたり、タンタ (Tanta) (五、七、二、八、九) はロゼッタ、カ

カイロー

アレクサン  
ドリヤ

タンタ

イロー間に位し、當國第三の都會たり、ザガジク (Zagazig) (三、五、七、一、五) は交通上の要區にして農産を集數す、マンズラー (Mansurah) (三、三、五、八、〇) ダミエタ (Damietta) (三、一、二、八、八) はニールの東派に沿へる都會なり、ポールサイド (Port Said) (四、二、〇、九、五) はスエズ運河の北端に、スエズ (Suez) は南端にあり、何れも半アラビヤ的、半ヨーロッパ的の市街なり、シウト (Sint) (四、二、一、〇、一、一) は上エジプトに於けるニール鐵道の一驛にして商業地なり。

◎ トリポリ

トリポリア即ちトリポリ (Tripoli) は一ニトリポリターヌ (Tripolitaine) と稱せられ、トルコに屬す、トリポリ、ガダメス (Ghadames) 泉地、バルカ臺地、フェザン (Fezzan) 地方、ガート (Ghat) 泉地等より成りて、面積は百五萬一千方軒と算せらる、然れども其の大部は不毛の地なり、人口は百萬人と稱せられ、多數はベルベリア人に屬するが、ユダヤ人も少なからずして、マホメット教行はる。

産物は農牧的のものに止まりて、其の量多からず、輸出品は象牙、駝鳥羽、山

生業

住民

土地

シウト

ポールサイ  
ド

世界地理提要 あふりか洲 北東地方



羊皮、其の他を含み、隊商に依りてスーダンより齎らさるるもの多し。  
トリポリ (Tripoli) (三〇〇〇〇) はトリポリビラエットの首都にして地中海に  
瀕す。ベンガジ (Benghazi) (二五〇〇〇) はムテサリフの駐在する處なり。

● ベルベリア

ベルベリア地方は一にアトラス地方と云ふ境界明確にして約百五十萬  
方呎の面積を有するが、アフリカの北西にありて東と北とに地中海を控え、  
西は大西洋に瀕し、南はサハラに境す。海岸は西部に絶壁多く、東は砂濱に富  
む。屈曲は乏しからざるも、港灣の陸中に侵入することなく、當地方に吹き荒  
む北西風に對し充分なる保障を有するもの如きは、全く之を缺如せり。地  
角の著しきものにはボンブラン等あり。

地勢上、特殊の情態を呈し、小アフリカの稱ある、ベルベリア地方はアトラ  
ス山系之を東西に縦斷せり。本山系は南北二派より成りて、其の北派をテラ  
アトラス (Atlas Tellien) 最高處二三一九米 突と云ひ、其の南派をサハラアト

境域

山岳

河湖

地勢

ラス (Atlas saharien) 最高處はタムシクル(四五〇〇米) 突なり と唱ふ。此の兩山脈は西方にありては  
相距ること百五十乃至二百呎なるも、斷續して各處に小山彙を爲し、又は並  
行せる若干の小山脈と成り、東に越くに從ひて漸く接近し、チニシアに至  
り、チニス灣を抱きて、ラスエルクリ及ボン岬に於て海中に没す。而して海  
岸に近き處に多少の起伏を見るも、何れも北アトラス山脈の餘派たるに過ぎ  
ざれば、海拔は顯著ならず。

山脈の趨勢此の如くなれば、大河巨流の存在するを許さずして、大西洋に  
入るものに、テンシフト (Tensift) セン (Sen) あり。地中海斜面にムルヤ (Mulya) シ  
エリフ (Sheif) ルーメン (Roumen) メシホルダ (Mejorda) 等なきに非ざるも、恒に流水を  
運ぶもの殆くなく、冬季に於て激流を爲すに過ぎず。沼湖の如きも、間斷なく水  
を蓄ふる能はずして、所謂シオト (Oiof) を爲し主としてアトラス山脈の南に  
存在す。シオトメルギール、シオトジュリダの如きは、其の大なるものなり。

平地は山脈と海岸との間、并に山間に存し、當地方の最肥沃なる部分たり。  
而して地中海、大西洋に面する丘陵の斜面は、樹木繁茂するも、南の斜面は漸

世界地理提要 あふりか洲 ベルベリア



氣候

天産

次にサハラの不毛地に推移せり、之を要するに山脈の趨勢、氣温、降雨の配付等はベルベリア地方を三帯に區劃す、其のテル(E)の一帶は沿海の地、テルアトラスの北面より成りて耕種に適し、其の臺地の一帶は兩山脈の間にありて七百乃至一千米突の海拔を有し、シット(Chotts)多く「アル」を産し、牧畜に適す、其のサハラの一帯は最南山脈の南にありて若干の「オアシズ」の外は水なくして植物の生存極めて難し。

氣候は沿岸の地に海候を有し、最低温度は三度乃至二十五度にして、最高温度は三十五度乃至四十度を示し、又平均は二十二度内外なるも、兩山脈の間に於ける臺地は寒暑の差烈しく、年平均は十九度なるが、降雨は稀ならず、而してサハラ地方にありては、寒暑の差は一層激しく、最低零下六度より最高四十五度乃至五十度に達して、降雨は皆無なり。

礦物には、テルアトラスに多き鐵の外に銅、大理石、岩鹽等あり、植物には、テル地方の温和帶的草木并にサハラ地方の椰子樹あり、動物に、獼猴、鹿、アンチロペ等あるも、猫類は漸次減少するものの如し。

分國

増城

住民

政治

生業

ベルベリア地方は天然的状态より見れば、單一地域にして分離すべからざるものなるも、政治上は現にチュニジア、アルジェリア、マグリブの三部に區分せらるるを見る。

◎ チュニジア

チュニジア(Tunisie)はベルベリアの東部にありて北及東は地中海に瀕し、南はトリポリ、西はアルジェリアに隣接せり、東西約百六十軒ありて面積は十六萬七千四百方軒あり。

人口は百八十二萬人ありて土人は百七十萬人あるが、最、多きはベドイン(Bedouin)、カビル(Kabyles)等とす、此の外にイタリア人、ユダヤ人、フランス人等あり、宗教の中、最、流行するはマホメット教なり。

チュニジアは一八八一年の條約に依りてフランスの保護の下に置かれ、目下君主として、ベイ(Bey)を戴き、自治體を備ふるも、フランス政府の派遣に係る統監、外務、大井に九人の委員より成る監督官の合意を俟たざるべからず、主要なる生業は農業にして、小麦、大麦、オート麥等を産し、中部には「オリ」

世界地理提要 あふりか洲 ベルベリア



ブ」の栽培あり、南部には「デートバーム」あり、其の他アルヘ、葡萄種々の果物、コルク等の生産あり。

貿易は一九〇五年に穀類、獸類、アルヘ、オリーブ、油、海綿等の五千八百二十七萬七千「フランク」を輸出せるが、主として取引するはフランスなりとす、而して入船は三百四萬餘噸にして、鐵路(九六二軒)等も存す。

チュニス(Tunis)一七、〇〇〇(北緯三六度四七分、四秒、東經一〇度一〇分、一秒)は同名の湖に瀕し、外港ラグレート(La Goulette)に依りて海に通ず、又鐵路はアルジェ、スズ、并にステップ地方に連なり、ローマ人の遺物の一たる水道(四〇軒)は、ザクアンの水を流送す、古來有名なる土地にして、現時にありても、アフリカ洲中屈指の都會なり、住民中には四萬のヨーロッパ人と、ムール人、アラビヤ人、ネグロ、ユダヤ人等ありて、商業盛なり、ビゼルタ(Bizerte)は北岸に於ける要港なり、スサ(Susa)は(五、八〇〇)は小港を有す、カイルワン(Kairwan)はチュニスの南に位して、當地の宗教的首府なり、スフ、マクス(Sfax)四、五〇〇)は良港を有し、海綿を産するケルケナー諸島と相對す。

チュニス

境域

住民

政治

◎ アルジェリア

アルジェリア(Algeria)はフランス人のアルジェリー(Algérie)にして、北の方地中海に面し、東はチュニジアに隣し、南はサハラに接するが、西はマグレブと境せり、長は約一千軒に達し、幅は凡そ四百軒あり、面積は南部に於ける六十九萬方軒の領土を加へて八十九萬方軒と算せらる。

人口は四百八十萬餘人あり、フランス人は三十五萬八千餘人にして、殘餘はアラビヤ人、ベルベリア人、ユダヤ人等に屬せり、宗教に就きて、土民はマホメット教を奉ずるも、ヨーロッパ人はキリスト教を信ず。

アルジェリアは一八八一年の法律を以てフランス本國に合併せられ、總督は高等政務會議の補助に依りてアルジェリア全部を總轄するも、事務の種類に依りては本國各省の直轄に屬するもの、少なからず、行政上は三縣を設け、兵備上は第十九軍管に屬せり、政費は一九〇六年の豫算に依れば、九千五百五十餘萬「フランク」の收入ありて、九千五百四十餘萬「フランク」の歳出あるが、南領土に對する歳入は約三百七十七萬「フランク」にして、歳出は三百十三

世界地理提要

あふりか洲

ベルベリア

六百十五



生業

萬フランクに近し。

生業は農、牧を以て主とし耕地は凡三百十七萬ヘクタールあり、穀類、煙草、果物等は主としてテル地方に産し棗椰子はサハラ地方にあり、森林は約二百八十二萬ヘクタールありて、コルク櫛、其の他を産す、又羊(八七二萬頭)、山羊(四二六、牛(一〇七)、驢馬、駱駝等は多く臺地に養はる、鐵業は未だ盛ならざるも既に鐵、亞鉛、銀、銅、殊に燐鐵(六四二萬フランク)を産し、錳物の總産額は九百四十萬フランクに達せり、貿易に就きて一九〇四年の輸入は三億六千七百四十萬フランク、輸出は二億七千二百二十萬フランクなるが輸入先にはフランス(三、一〇九二)、イギリス(八七二)、エスパニア(六八七)、チニス(六六二)等あり、輸出先はフランス(二、一四五九)、イギリス(一一八八)、ベルジック(一一〇八)等を主要とし、重要輸出品には葡萄酒(九八四二)穀類(三六〇二)獸類(三二〇六)コルク(一二七六)の外に生毛、皮革、亞鉛、燐鐵、食卓果物、アルヘ、鐵、煙草等あり、入船は約三百三十三萬噸にして出船は三百三十五萬噸弱なるが、鐵路には三千百四十軒郵便局は五百九十四、電信線は三萬四千八百二十三軒あり。

アルジェー

オラン

境域

アルジェー(Alger) (九、六五四二) 北緯三三度四七分五〇秒 は地中海に瀕し鐵路に依りてコンスタンチヌ、オラン等に通ず、總督府軍團司令部等の所在地にして軍府の一たるのみならず、商工業共に稍盛なれば繁華の點に就きてはアルジェー第一と稱せらる、ムスタファ(Mustapha) (三七、一八六)はアルジェーに接す、官舎、別荘等の所在地なり、ブリダー(Bidah) (二九、〇五七)は柑類、オリブの産地にあり、コンスタンチヌ(Constantine) (四、八二四三)はルーメル河畔の農業地にありて一小軍府を爲せり、ボーム(Bone) (三六、九九三)はアルジェー唯一の航河たるセイブスの河口にありて商業稍盛なり、オラン(Oran) (八、八二三五)はアルジェーの西方三百五十四軒に於ける要港にして商業繁昌す、トレンセン(Tlemcen) (三二、三三八二)は舊都の地にして氣候佳良なり。

○ マグレブ

マグレブエルアクサ(Maghrab el akhsa) 及び マロコ(Marocco) 又は モロコ(Moroc) と云ふ、バルバリアの西部を占め、東はアルジェーに接し、北は地中海三九〇軒に臨み、西は大西洋(八五〇軒)に瀕するが、サハラ方面に對する南界は明

世界地理提要 あふりか洲 バルバリア 六百十七



住民

沿革

政治

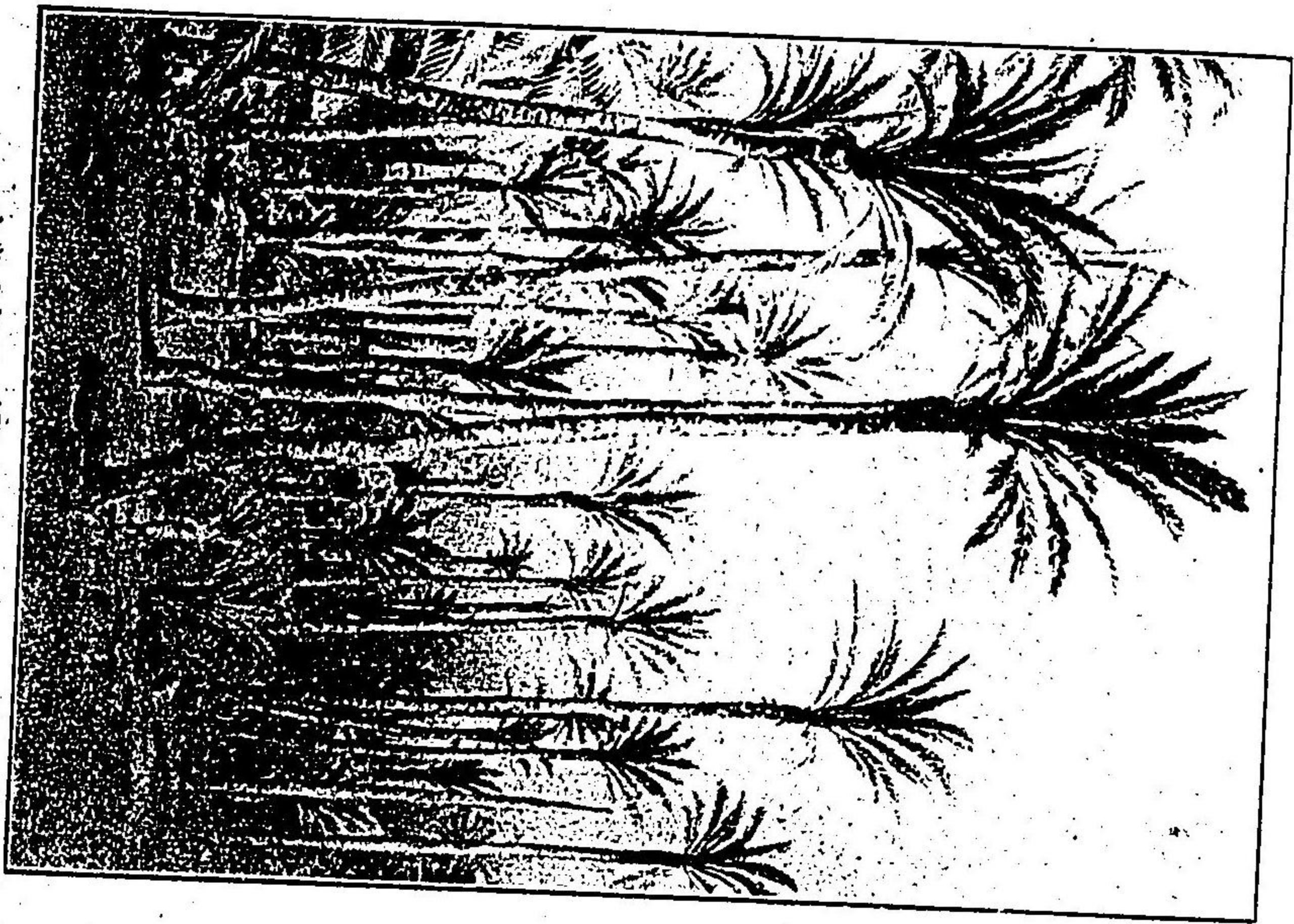
生産

確ならず、地積は約四十四萬方軒ツアト地方并にあり。  
 人口は多きは八百萬と概算せられ、少なきは五百萬とするが、一八八九年の調査に依れば九百四十萬にして、人種別にすれば、ベルベリア及ロッテレグ人最多く、ムール、アラビヤ人、ユダヤ人、グナツイ(Gnani)の義奴等も存す。

此の國は屢騒亂を生じて、國家強固ならず、遂にヨーロッパの數國の干涉を招き、一九〇四年のイギリス、フランス協約は亦フランス、スペイン、ア條約に依りて承認せられ、マダグレプの政務は益、フランスの指揮に屬するもの如くなりしに、ドイツ政府の異議を唱ふるありて、アルヒュシラスの協商（一九六）と成りし、〇が開放主義の下に、フランスの優越權を認むるに至れり。

君主、スルタンは政教の權を一身に集めて、専政を行ふも、政治上の統一は有名無實なり、大官は大「ブシール」(Bisil)、外務、内務、軍務、宮内、財務の六人に、別に外交代理官あり、兵備に關しては平時に三萬人を備へ、戦時には七萬以上に達すべきも、海軍には數隻の小船艦あるに過ぎず。

土地肥沃にして、耕種、牧畜に適するもの少なからざれば、小麦、大麦、玉蜀黍、



フェニクス (Phoenix dactyloptera)



バナナ 香蕉 (Musa sapientum)



**ナシメヤツ** (Phoenix dactylifera) は「メルクシアナシメ」とも云ふ、北アフリカ、ペルシア、アラビア、等の如き高温にして乾燥なる地即ち「オアシス」的の地に栽培せらる。樹幹は一米突の直径を有し二十米突の高さに達するが其種は毎年六十乃至百二十疋の收穫を興ふ。生果又は乾果を食用に供するが殊に北アフリカの住人に對しては重要な食品にして實に彼等の主食物たり。

**バナナ** (Banana) 「香蕉」 「甘蕉」 (Musa sapientum) は回廊帯の原産なるが、栽培せらるるものには品種甚だ多く、澱粉に富める美味の果實は生食若しくは焙煎に供せらる。アフリカ西岸に於ける一派の黒人は木菓を以て主食物と爲す。

果物、生毛、皮革等の産なきに非ざるも交通の便なきと警察の不整頓なるが爲に發達を妨碍せられ、貿易の如きも輸入に約六千二十五萬フランクありて輸出に約三千七百三十萬フランクあるに過ぎず、主なる取引先はイギリス(三一・二六) フランス(一七・二二) ドイツ等なりとす、商港の主要なるものはタンジール、ダルエルベイダ、マザガン、モガドル等なり。

**フランス** (Fes) 一四、〇〇〇 北緯三度一度一分二〇秒 即ち **フランス** (Fes) は **エッパ** (Eppa) の谷地にあり、**マグレブ** の首府にして聖地なるが、皮革毛織物を製す、**マロコ** (Morocco) 〇〇〇 北緯三度七度三六分二〇秒 は一に **マラケシュ** (Marrakesch) 及び南部の首都にして製革に従事す、**メキネス** (Mequinez) 即ち **メクネス** (Meknes) も亦内部の一邑にして離宮の地たり、**タンジール** (Tanger) はジブラルタル海峡の西部に於ける港にして各國使臣の駐在地なるが王路の起點たり、**モガドル** (Mogador) は當國の主港たりしことあり。

◎ **エスパニア** 領

**マグレブ** の北岸に於て **エスパニア** は **セウタ** (Ceuta) ・ **メリリヤ** (Melilla) ・ **ジリヤン** (Ziryan) 等あり

世界地理提要

あふりか洲

ベルベリア



ion) アルセアム (Alhucemas) 并にチアフェリナス (Chafarinas) 諸島を有す。

● サハラ

サハラ (Sahara) てアラビア語に即ち北アフリカ大沙漠は北アフリカに於ける廣大の地域にして西は大西洋岸に起り、東はニールの河谷に達せるが、北はトリポリ、ベルベリアに接し、南はスーダンの諸國に接せり、當地方は舊大陸の中部に横はれる一大缺雨帯の一部にして其の成因は主として氣候に歸せざるを得ざるが、乾燥を極むる荒蕪の地なり、然れども南方に於ては多少の降雨を見るが故に半乾半濕の土地の存するあればサハラの境界は甚だ不明なりとす、従て地積は測算者に依りて異同ありて少なきは五百五十萬方、多きは六百二十萬方とす。

サハラは平坦なる砂原に非ず、又附近の海面より低き凹窪の地にもあらず、殊に乾燥したる海底なりとするは非なり、サハラ内部の状態は普通の陸地に於ける如く丘陵あり、山岳あり、谿谷あり、河床ありて、トリポリア、チアフェリナスの南には凹窪地あるも、平均の海拔は三百五十乃至五百米突に達すべし、

ベネチ (Tibesti) 南北のタシリ、アハガール (Ahaggar) アヒン (Ahin) 東西のアドラル (Adrar) 等の山脈、山嶽は主要なる隆起帯を爲し、乾燥せる幾多のワジはサハラ表面を縦横に通過するが、涸失したる河流の遺跡たるやを疑はしめ、湖沼の跡も少なからずと云ふ、此の如くにして平坦なる土地、砂礫の臺地並列せる砂丘の地等はサハラ全部に比すれば其の半を占むるに過ぎず。

氣候は變化し易く、暑氣強く乾燥を極むるも人類の生息に甚しき妨碍を爲さざるが如し、晝間の高温は樹蔭に於けるも四十五度乃至五十度を示し、夜間の冷氣は零下二度若しくは五度に降り、降雨は甚だ稀にして一滴の雨水を見ざること數年に亘ることあるも露は多量なり、空氣は動搖し易く、風力も亦強し、殊にシムウン (Simon) は砂塵を巻き上げ空氣の乾燥を來たし、行旅者をして渴死せしむるに至るは敢て奇しからず、然れどもサハラを通行する處の商隊が「シムウン」の爲に砂塵の下に埋没せらるゝ爲すは事實ならず、而して壓氣樓的現象が乾燥不毛の砂地をして清涼なる泉地若しくは滾々たる湧水の地たるが如き觀あらしむること少なからず、要するにサハラ



のサハラたる所以のものは、往古の海底なるが故に非ず、地味礫確にして耕牧に適せざるに非ず、活物の生存に必要缺くべからざる一大要素たる水の缺乏は實にサハラを現出せしめたる主因なり。

サハラ地方を以て天産皆無の地なるべしと思考するは非なり、清水に乏しからざる泉地若しくは冬季に降雨を見る乾燥原には多少の草木の生存するありて野兔、羊、牛、各種の「アンチロペ」等を養ひ獅子の如き猛獣の生育をも見るなり、殊に泉地にはサハラ植物の長たる椰樹の繁茂するありて、果物、蜀黍、小麥、牧草を保護し無水海の各處に綠嶼の點在するが如き美觀あらしむと云ふ、獵物の中殊に注意すべきは食鹽なりとす。

人口は其の數不明にして二百萬とするあり五十萬とするあるが、ツァング人、テグ人（一にチツとも云ふ）、マウレス人、アラビヤ人等より成りて或は泉地に定住し或は沙漠の地に遊居せり、而してヨーロッパ人の居住來往するは主として大西洋の沿岸地方なり、又住民の生業が盛況を呈し得ざるは勿論なれども亦案外の發達を爲し居り、耕牧に従事するの外、衣服、器具等を製する

天産

住民

分國

領域

を以て簡單なる生活には事を缺かざるが如し、貿易は食鹽、羽毛等を輸出してヨーロッパ産の雜貨を輸入するが商業は商隊に依りて行はる、隊商路の主なるものは西部にマロコ、チュムブクツあり、中部にアルジェー、ガルダヤ、インサラーあり、東部にベンガジ、ジッロ泉地、クフラ泉地あり。サハラ沙漠の北東部はエジプトに屬し、北部はトリポリア、アルジェリア、マダラ、等に領せられ、西部ブランコ岬以北はエスパンニアに屬するが、フランスの勢力範圍内にある處最、宏大なり。

中部

● スーダン

スーダン (Sudan) 即、ネグリチア (Neghria) はアラビヤ人の所謂ブラドエススに接する北境は氣候的にしてサハラの終る處はスーダンの始まる處なりと云ふの外なく、北緯六度乃至十八度に亘り東はニール上流の河谷に達

世界地理提要 あふりか洲 スーダン



し西と南の一部とは大西洋とギニア灣に瀕するも、其の他はコンゴの流域、大湖の臺地に隣接せり。

土地は三百乃至四百米突の平均海拔を有し、外觀は概同様なも起伏の情態には差異の存せざるに非ず、西の方フータタロン山脈を始めとしギニアの沿海地に若干の階段の連続せるあるも所謂コンゴ(Kongo)山脈を形成することなくニジェール河とベヌエとの間にはアダマヤ山脈あり、バダイ及ダグル(Darfour)には海拔一八〇〇米突を超過する火山質の山脈を見、パールエルガザルを組成する河流は臺地を潤して幾多の豁谷を現出せしむ。

東部にはニール河の流るるあり、中部にはチャード(ツアード)湖、ニジェル河あり、西部にはセネガル、ガムビアの二流あり、此等は多少内部との交通に利用し得べし、而してチャード湖はシアリ、其の他の河流を容るるも水淺し。

ニジェール(Niger)河は土人のザオリメ(Doula)河にして水源をシエラレオネの北境、海拔八百五十米突の地に發するが、水盤の漸増大するや通舟の便を供するも、北東に流れてサハラに入るや河幅は六百乃至二千米突に達するに拘らず、水層淺くして徒渉すべし、而して流向を東又は南東に變じてスーダンに復歸したる後數ヶ處に溢流を呈しベヌエ河を合はせ南流して草木蒼蔚たる地を潤し三角洲を爲してギニア灣に入る。

當地方はサハラと異なり氣温高きも降雨多く(セネガルよりオイル(Oil)河に至る地方は二五四〇耗乃至四〇六四耗の降水量あり)植物の繁茂盛にして熱帶的動物の棲息に適せり。

スーダンの住民はアラビヤ人、チブ(Chib)人、ツアレグ人、フラ人、ネグロ、等より成りてフラ人(Fula)即、フルター(Fulata)はチャード湖附近并にニジェールの東に多く、純粹のネグロは該河の西にあり、當地方の主産物たる砂金、象牙、駝鳥羽はサハラを横ぎりて隊商之を地中海岸に運搬す。

土地廣大にして各地の狀態同じからざれば東方スーダン、中央スーダン、沿海スーダンの三部に分ちて記載せんとなす。

◎東方スーダン

東方スーダン即、イギリス、エジプト領スーダンは北の方エジプトに接し、東はエリトリア、アビシニア、南はイギリス領東アフリカ、コンゴ獨立國と境するが、西はフランスの勢力圏に隣接す、南北は凡、一千九百耗ありて地積は約二百四十六萬方耗なりとなす。

世界地理提要 あふりか洲 スーダン



住

ハルツーム  
オムツルマ  
ン

地勢

分國

ワダイ

東方スーダンの住民は二百萬人と算せられ、黒人とアラビア人との雑種多きを占むるが、マホメット教を奉じアラビア的の言語を用ふ。

ハルツーム(Khartoum)は南ニールの合流の地にあり、イギリスエジプト領スーダンの首邑なり、オムツルマン(Omdurman)(四、八〇〇〇)はハルツームの對岸にあり、マーヂの舊都なり。

◎ 中央スーダン

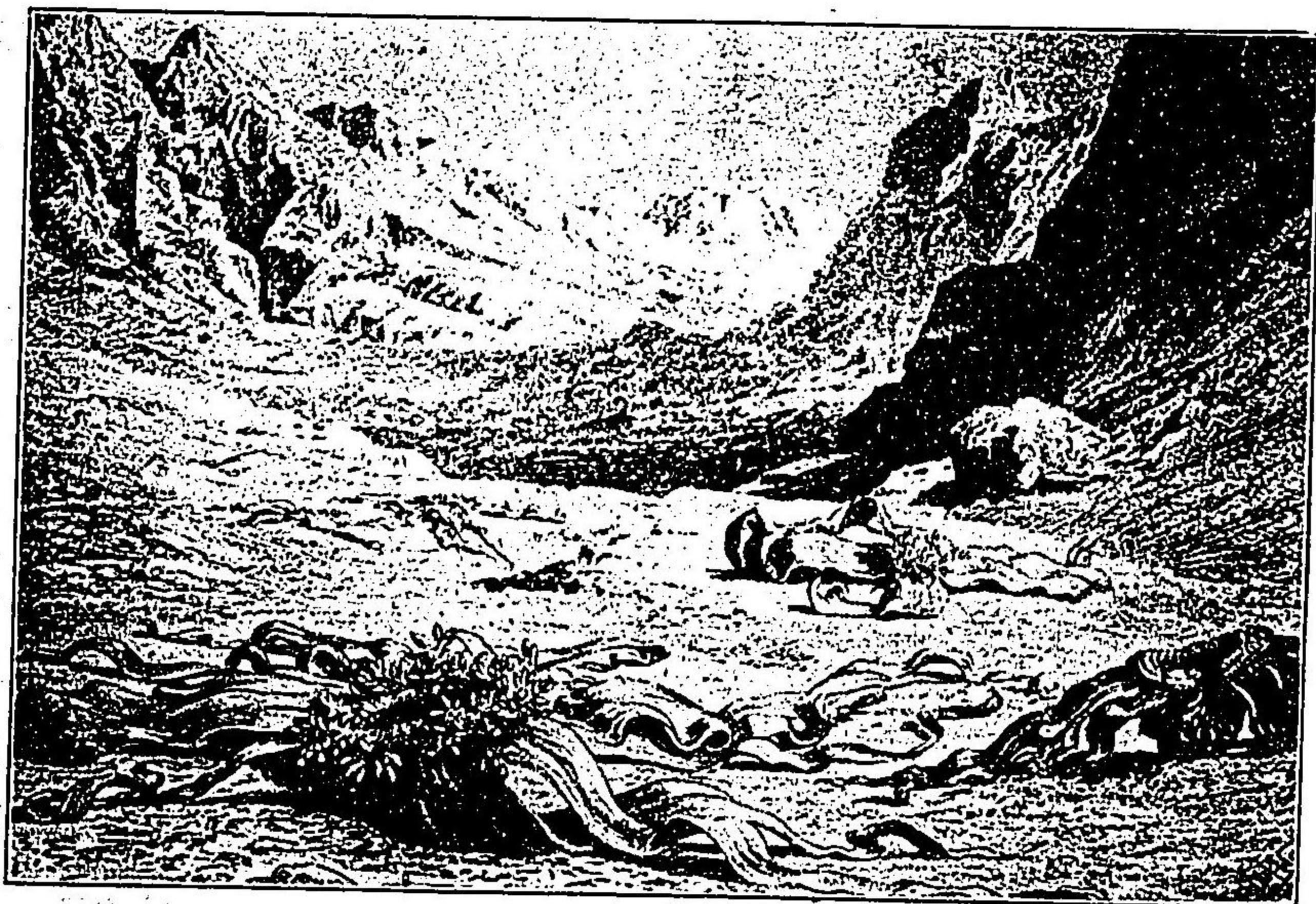
中央スーダンに於ける山河の状態は未だ充分の探検を経ざるを以て明確を缺けり、平均の海拔はサハラ地方と殆同様に於て六百米突を超えざるべし、而して中央に於ける土地の隆起は一千八百米突の海拔を有するに過ぎざるもチャード湖、ニジール河の二大水域を區劃せり。

中央スーダンはマホメット教を奉ずる若干の黒人國より成り、チャード湖ニシール河等の如き自然境界の存する處の外は國境明確を缺けるが、土地の大部はフランスとイギリスとの間に分領せらる。

ワダイ(Wadi)はカネム(Kanem)バギルミ(Bagirmi)等の屬地と共にダルフル



熱帯アフリカに於ける「サバンナ」



エルネツシア ミラピリス (Welwitschia mirabilis) [ナマクアランド]







チンブクツ

八百二十は上流セネガルの谿谷、ニジェル流域の大部等を含みて東はチャード湖に達す、行政上は西アフリカに属せり。

軍政地方は西アフリカ軍司令官の管理の下にあり、チンブクツ(Timbuktu)はニジェル河の北約十四軒、海拔二四五米突の沙原にありて商業及交通上の要路に當り、サハラ横断鐵道は此の地に至る豫定なり、附庸港カバラ(Kabala)はニジェル河に沿へり。

民政地方はセネガル河の支流たるフランメ(Falme)に依りて東西の二部に分たる、サンサンデグ(Sansandeg)はニジェル河に沿ひ三萬乃至四萬の住民あり、金、食鹽、織物等を集散し市街般賑なり。

◎沿海スーダン

沿海スーダンとは大西洋并にギニア灣に瀕する一帯の海岸を云ふ、而してセネガル河以南、椰子樹岬までを西岸地とし、同岬以東カメルンとフランス領コンゴとの境界までを南岸地、即ち眞のギニアとす。

第一 西岸地にはフランス領、イギリス領、ポルトガル領及びリベリア共

西岸地

和國あり、而してフランス領のセネガル(Senegal)及びギニアは南岸地の象牙岸、ダホメイ等と共に行政上はフランス領、西アフリカ一七三、七四〇〇〇方人を形成して總督の管理に屬し、各殖民地に副總督を置きて之を支配せしむるも、セネガンビア及びニジェル領土は總督に直隸せり。

セネガル

セネガル 殖民地 一〇、一五〇〇〇方人はニジェル河の下流に位す、

住民はヨロフ人、ムール人、マンデンダ等の黒人にしてマホメット教を奉じ、主要輸出品は落花生なり、鐵道はスーダンに於けるものを合せて七百三十七軒あり、ダカル(Dakar)は綠岬の附近に位し、フランス領西アフリカ總督の駐在地なるが、良商港を控え、ゴリー島の砲臺に依りて保護せらる。

ダカル

ガムビア

ガムビア(Gambia) 殖民地 一、九六〇〇方人はガムビア河に跨り

てイギリスに屬し、首邑バサースト(Bathurst)はセントメリー島にあり。

ポルトガル領ギニア

ポルトガル領ギニア 一七、三九〇〇〇方人はビスゴ

ス(Bissagos)群島等を含めり、首邑ボラマ(Bolama)は同名の島にあり。

フランス領ギニア

フランス領ギニア 一四、五九〇〇〇方人の輸出品は

世界地理提要 あふりか洲 スーダン

パサースト



「ゴム、牛、椰子等なり、首邑コナクリー(Konakry)は航通の便を有す。

シエラレオネ シエラレオネ(Sierra Leone) 殖民地一〇七、〇〇〇方料はイギリスに屬して首邑フリータウン(Freetown)(二四四六三)は西アフリカに於ける良港に瀕す、石炭貯蓄所として重きを置かる。

リベリア共和国

リベリア共和国(Republic of Liberia)は九萬五千餘方料

の面積を有して、胡椒岸に於ける海岸線は約五百六十杆に達するが、實際政府の治管する處は幅三十乃至百三十杆の狹長なる沿海地に止まれり。

住民は百五十萬人と概算せられ、開化黒人と土着黒人とより成れり而して此の國はアメリカ合衆國に於て解放せられし奴隸の收容を目的として殖民會社の起りしに始まり一八四七年を以て共和國建設せられ憲法はアメリカ合衆國に則れり。

土地肥沃なるも耕種を等閑に附し、良林あるも自然の儘に放置せられ、金鐵等の採取も未だ發達せず、貿易の如きも遅々として椰子油、椰子、珈琲、カウチラック、象牙等を輸出す。

首邑モンロビア(Monrovia)は約五千の人口を有して小港を有す。

第二ギニア地方はカメルン地方を隔るの外、土地概々平坦にして海岸に於ける沙洲は數多の潟を形成せり、政治上はフランス、イギリス、ドイツ等に分屬す。

象牙岸

象牙岸(Cote de l'Ivoire)一、九五、〇〇〇方料はフランスに屬し、

コンゴ(Kong)王國を含めり、玉蜀黍、バナナ、アナス、マホガニー等を産し珈琲も有望なり、ビンジービエム(Bingerville)は政廳のある處にして、グランバッサム(Grand Bassam)は良港を有せり。

黄金岸

黄金岸(Gold Coast)一、四八、八七〇方料はイギリスに屬し、

海に瀕すること五百六十杆なるが、土民はフランス、アシヤンチ等に分かる、當地方には金を産し椰子、椰子油、カウチラック、木材等を主要輸出品とす、鐵路(二七〇杆)電信線(一六六一)ありて道路も次第に發達しつつあり、アクラ(Akers) (一、四八四)は當地の首邑にして主港なり、ケープコーストカッセル(Cape Coast Castle) (二、八九四)は舊首邑たりし處にしてクーマシーより内部に通ずる



大路に當れり。

ロメ

トゴランド (Togoland) 一五〇、〇〇〇方料は奴隸岸に於けるドイツの殖民地なるがロメ(Lome)は首邑にして又主港なり。

ダホメイ

ダホメイ (Dahomey) 一〇六、九五〇〇〇方料は奴隸岸の一部に當りてフランスに屬し土人は純粹の黑人にしてエエ族に屬し農業に勤勉なり椰子椰子油等を主要輸出品とすポルトノボ (Porto Novo) (五、〇〇〇〇)は政廳の所在地にして商業の中心なりニトヌ (Kotonu)は主商港にして未來の首府と囑目せらる。

ラゴス

ラゴス

ラゴス (Lagos) 一三〇、〇〇〇〇方料はイギリスに屬し首都ラゴス(四、一八四七)は港を有し商業益盛なり。

南ニジェリア

南ニジェリア (Nigeria) 二四〇、〇〇〇〇方料はイギリスに屬し住民はイジョ (Ijoe) イボ (Ibo) シンブリ (Sinker) シニ (Bani) 等より成り多少人肉を啖ふ

オールドカ  
ラバル

の風ありと云ふ椰子油椰子「ラッバー」象牙等を輸出す、オールドカラル (Old Calabar) は當殖民地の首邑にして税關植物園等を有す。

ズンゲル

北ニジェリア

北ニジェリア 一八〇、〇〇〇〇方料も亦イギリスに屬し南ニ

ジェリアより北の方中央スーダンに達し住民は多くマホメット教を信じて椰子油椰子落花生象牙皮革等を産出す隊商はトリボリ、マングレン、サハラ等と往來すること少なからず、ズンゲル (Zanger) は行政及軍事の首部を有してカヅナを溯ること約百三十軒にあり。

カメルン

カメルン (Kamerun) 三九、五〇〇〇〇方料はドイツに屬し住

民には沿海地にバヌツー派、内部にスーダン派の黑人あり、カウチック、椰子、象牙椰子油木材等を輸出す、ビクトリアールソンカ鐵道も多少開通し電信電話等の便をも有す、首邑をフエア (Fuea) と云ふ。

アヒア

● アビシニア ソマリー

アビシニア

アビシニア (Abyssinia) 詠傳より來る (Habesch) と稱する地はニビアの南スーダンの

東にありて北東は紅海に瀕し南東はソマリー地方に接し、南はイギリス領東アフリカに隣せるが面積は明確ならず。

世界地理提要 あふりか洲 アビシニア ソマリー



沿海地には平低なる處あれども内部は平均海拔二千米突以上の臺地を爲して四方に緩斜するが火山質の山岳は數脈を爲して峻嶮を極む就中アブヤン<sup>Abba-Yared</sup>(四四六〇)ラスダシヤン<sup>Ras-Dachan</sup>(四六二〇)アブナヨセ<sup>Abuna Yosef</sup>(四一七三)ラヤタ<sup>Ras-Guna</sup>(四二八〇)アジオス<sup>Agiosftra</sup>(四一五〇)を最著しとす。

三千方呎の面積を有するタナ湖は海拔一七五五米突の高處にありて幾多の奔流激流の水を容れバールエルアズラク<sup>Baer-el-Azrak</sup>即青ニールと成りて多量の水をニールの本流に注ぎラスダシヤンの南タナ湖の北東に當る山麓に水源を發するタカセ河はタナ湖の西に於ける山脈より出づるアトバラ河と成りてニッビアニールに入る。

夏季の降雨及山上の積雪より生ずる山量の水は臺地の表面を流過して峽江<sup>Angaba</sup>卓地<sup>Angaba</sup>屹立せる卓状の土地を現出せ彙め交通上極めて不便なり而して沿海の山脈と臺地の東縁山脈との間に於ては北のアサリ<sup>Asali</sup>海<sup>海</sup>面<sup>面</sup>下<sup>下</sup>六<sup>六</sup>ハ<sup>ハ</sup>ソ<sup>ソ</sup>シ<sup>シ</sup>ニ<sup>ニ</sup>河<sup>河</sup>を受くるアサ<sup>Asal</sup>海<sup>海</sup>面<sup>面</sup>下<sup>下</sup>七<sup>七</sup>四<sup>四</sup>米<sup>米</sup>突<sup>突</sup>との兩窪地あり。

當地方は赤道を距ること遠からざるも土地高隆なるを以て気温は概冷涼なり然れども海拔を同じうせざる階段を形成するが故に熱地温地冷地の三帯を現出せり海拔一八〇〇米突以下の熱地即コルラ<sup>Kolla</sup>にありては気温高く濕潤に過ぎ人生に適せざるも森林蒼鬱として巨大の獸類は盛に繁殖せり海拔一八〇〇—二五〇〇米突の温地即ボイナ<sup>Voina</sup>は氣候温和にして柑類葡萄其の他の耕種に適し海拔二五〇〇—三五〇〇米突の冷地即デガ<sup>Dega</sup>は穀類を産し馬牛羊等の畜類を養ふべくデガを過ぐれば積雪の地と成りて生物を見ること稀なるが紅海の沿岸に於ける最低の地サムハラ<sup>Samhara</sup>は炎熱灼くが如し。

エシオピア國 エシオピア<sup>Ethiopia</sup>國は一にアビシニアと稱せられ三十八萬九千乃至五十四萬方呎の地積を有するが住民は三百五十萬乃至八百萬と算せられ多數はコプト派のキリスト教を奉ずるもマホメット教徒、エ<sup>E</sup>グ<sup>G</sup>イ<sup>I</sup>プ<sup>P</sup>ス<sup>S</sup>教徒も少なからず。

政治上は封建的專制君主國にして主權者はネグスネグスチ<sup>Negus Negesti</sup>世界地理提要 あふりか洲 アビシニア ソマール 六百三十五



王の王と稱し、ゴジヤム(Godjam)、シヤア(Sheha)、ヂムマ(Dschimma)、カッソフ(Kaffa)、ワラモ(Waramo)の諸王國を統轄す、其の兵力は凡十五萬人なりとす。

住民の主要は牧畜にして、牛、羊、山羊を飼養するが綿、甘蔗、ナツメヤシ、葡萄等の産あり、一九〇二年の輸出は珈琲、皮革、象牙、其の他の約百三十一萬「ドル」にして輸入は凡百六萬「ドル」なりしが其の七割は綿布なりき、而して鐵道、郵便はアデン灣に沿へるヂブチと通じ電信の線條は八百軒と註せらる。

アヂスアラム(Addis Alam)は君主の居住地にして首府アヂスアラム(Addis Ababa)は五萬の定住人口と約三萬の浮住民とを有すと稱せらる、アツア(Adua)はイタリア軍が敗戦(一八九六)せし地とす。

イタリア領 エリトリア(Eritrea)紅海の古名(三三三〇〇〇方軒は北緯十八度二分のカサル岬より同十二度半のツメイラー岬に達し、紅海に面すること約一千八十軒、牧畜は盛に行はれて駱駝、牛、羊、山羊等を與へ、眞珠の採取はマサウアー及アターラク群島に於て行はる、而してマサウアーに於ける一九〇四年の輸出は皮類、珠母、蜜蠟、ゴム、タバコ等の二百八十一萬「リラ」なりし。

アヂスアラム

エリトリア

が鐵道(七六軒)電信線七〇〇等も存す、政廳はアスマラ(Asmara)にあるが、小島にあるマサウアー(Masauah)の名は却て著はる。

ソマリー(Somaliland)地方はアフリカの絶東部を占む、グアダルフイ岬を頂點としアデン灣と印度洋とに挾まるる尖形の地にして、パンナロク地溝帯の東にありて約六十萬方軒の面積を有せるが北部は東のノガル(Nogal)地、西のハウド(Haud)地、石とに分かれ、降雨は多からずして河流の海に達するもの少なくガナナ即ヂッバ(Djibba)の如きも僅に少量の水を注ぐに過ぎず、而して住民には東部にありて牧畜に従事するソマリー并に西部に居りて農事を務むるガルラを觀るが何れもマホメット教を奉じて外人と交際するを好まず、土地はフランス、イギリス、イタリアの權域に屬するもの多し。

フランス領 フランス領ソマリー 五、〇〇〇〇〇方軒は殖民地と屬地とより成り、西端にありてタヂラー灣に瀕す、住人は主としてソマリー人なり、象牙、蜜蠟、畜類を輸出しヂブチ、ヂラーダ、ワール、ハラル(Harar)鐵道は三百六軒の長を有す、ヂブチ(Djibouti)一五〇〇〇〇は當地の首邑にしてオボク(Ohol)及

ソマリー

ヂブチ



タチアラ (Tadjirah) は小港を有す。

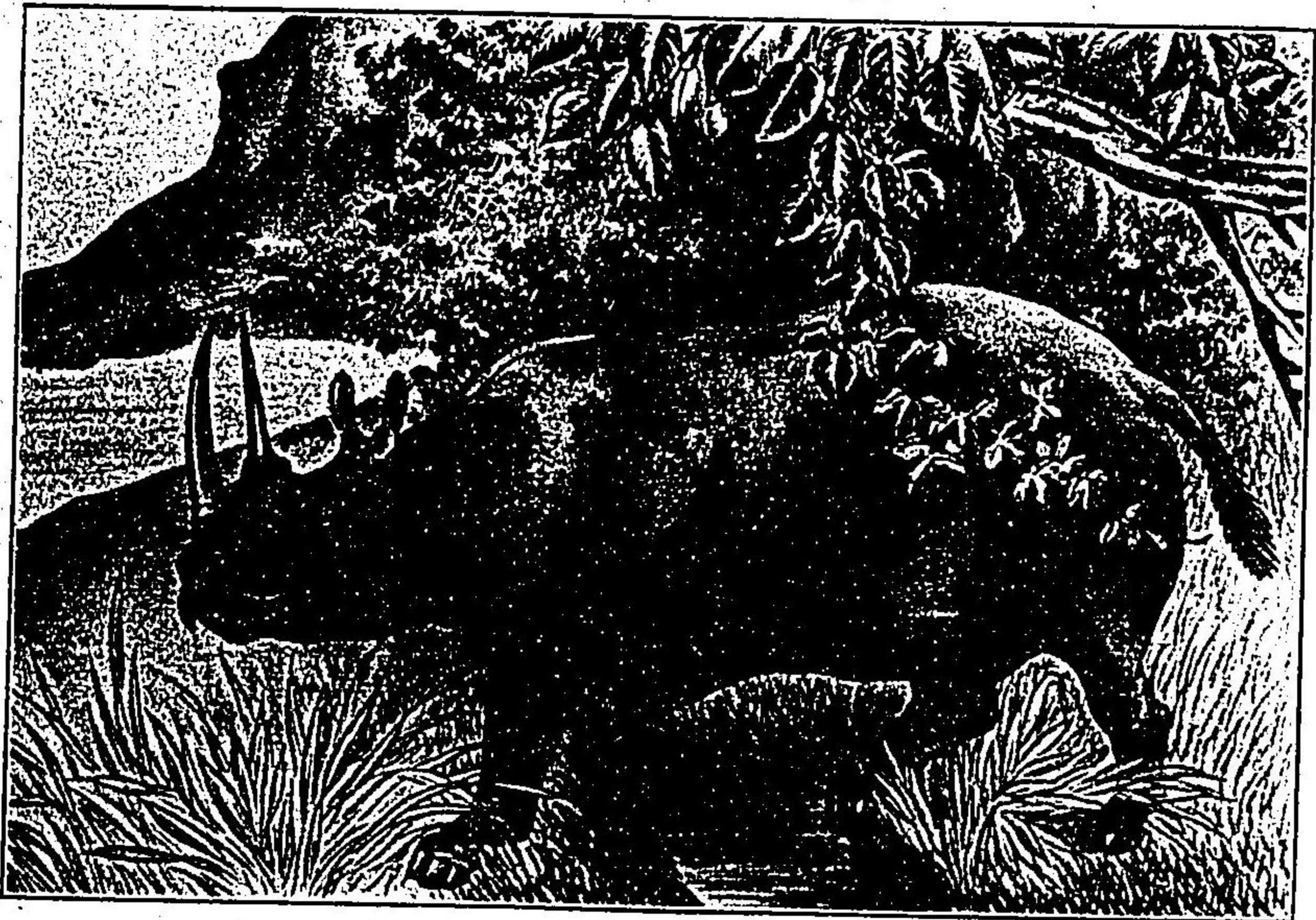
イギリス領 イギリス領ソマリーリ 三〇、五、〇〇〇人 方料はアデン灣に瀕す、住民はマホメット教を奉じて、多くは遊牧に従事し、總領事に管理せらる。輸出品には皮革、駝鳥羽、ゴム、牛、羊等あり、バルベラ (Barbera) は商業季に於て約三萬の住民を有し、ゼイラ (Zeira) (一五〇〇〇)、バルハル (Balhar) (一二〇〇〇) と共に商業に従事し、孰も鎭地を有す。

イタリヤ領 イタリヤ領ソマリーリ 四〇、〇〇〇、〇〇〇人 方料はハナヂル (Banadir) 海岸及内部より成れり。

● 東アフリカ

東アフリカ地方と稱するも其の實は東アフリカの一部を占むるに過ぎず、北東はジッバ河を挟みてソマリーリ、アビシニアに接し、東は印度洋に瀕し、南はロブマ河、ニヤッサ湖を隔てて、モサンビク、ザンベジアと接し、西はタンガニイカ湖、アルベルトエドワード湖等に依りてコンゴ地方に接せり、北部

東アフリカ地方と稱するも其の實は東アフリカの一部を占むるに過ぎず、北東はジッバ河を挟みてソマリーリ、アビシニアに接し、東は印度洋に瀕し、南はロブマ河、ニヤッサ湖を隔てて、モサンビク、ザンベジアと接し、西はタンガニイカ湖、アルベルトエドワード湖等に依りてコンゴ地方に接せり、北部



サイ 犀 (Rhinoceros africanus)



「マキ」 (Maki) (Lemur) [マダガスカル]



サイ「犀」(Rhinceros)は體軀豐肥にして皮膚堅厚

なり、印度種及びツアバ種は鼻頭に一角を有し、アフリカ産の二角種及び「カムス」種并にスマトラ種は二角を有す、何れも強靱なる皮革を興ふるの外、肉脂を食料に供す。

マギ (Maki) 「狐猿」(Lemur) はマダカスカル及び

其の附近の島嶼并にセイラン島に棲む、犬又は狐に似たる所ありて尖口、短耳、繁毛、長尾を有するが前肢は後肢より長きこと僅少なり、性溫和にして能く人に馴る、種類甚だ多し就中最も世人に知られたるは「モロコ」(Microco) (L. mureco) (L. vutius) 「ネノ」(Marmoset) (L. coltu) 等なり。

ビクトリア湖

はイギリス、南部はドイツの領する所なり。

ビクトリア湖は土名をニヤンザウケレエ(Nyanza Ukereve)即ケレエ(Kerewe)湖と云ふ、一八五八年スピーク之を發見し一八七六、七七年スタンレー之を探検せしがスーペリオル湖に次げる大淡水湖にして海を抜くこと一千二百米突なり、面積に就きては少なきは六萬九千方、多きは八萬三千餘方、湖とす、湖岸は無数の島嶼に蔽はれて測定し難きも約一千五百方と爲すは眞に近きが如し、湖水はソマーセット河白ニールの源流と成りて流出するが、本湖に入る河流中の最要なるものカゲラ河を以てニールの東の源流と認むべき理由あり。

タンガニカ湖

タンガニカ湖はスピーク及バートンの發見に係れり、三萬方、面積を有し南北に長く六百五十方に達するが平均の幅は約五十方に過ぎずして湖岸は概、絶壁を爲し接觸に便ならず、水面は海拔八百二十米突にありて湖岸は六百四十七米突にあれば、當洲最深の湖と稱すべし、湖水が少しく鹹味を帯ぶるが故にや附近の植物は沿海的の特徴を呈せり。

世界地理提要 あふりか洲 東アフリカ



◎イギリス領

イギリス領東アフリカは東アフリカ、ウガンダ、ザンジバルの三保護地に  
分かれて總地積は六十九萬方呎に餘れり。

東アフリカ

東アフリカ保護地 四〇七、七五〇〇〇方呎はウムバよりジッバ

河に至る間を占めて大陸に於けるザンジバルスルタン領を含めり、沿海地  
には多少のマホメット教徒を見るも概して異教を奉ず、低地の農産物には米、  
玉蜀黍等あり、高地には馬鈴薯、珈琲、小麥、大麥あり、牧地に利用すべき處は甚  
廣し、此の他に木材あり、鐵の如きは前途有望なり而して鐵道はモンバサよ  
りビクトリア(ウガンダ)に達し九百四十呎の長を有す、モンバサ(Mombasa)二、  
五〇〇〇は當保護地の首邑なり、同名の島にありて良港を控え水陸の便を  
有せり。

ウガンダ

ウガンダ(Uganda)保護地 一六四、九八〇方呎はウガンダ王

國、アウコン(Aukole)王國、トロ(Toro)王國、其の他より成れるが、土地はルドルフ  
地方の外甚だ肥沃にして、象牙、皮革等の産あり、ニール河航行の汽船は當地の北

モンバサ

部に達し鐵道はビクトリア湖岸より印度洋岸に達す、エンタベ(Entebbe)はイ  
ギリス委員の駐在地たり。

ザンジバル

ザンジバル(Zanzibar)保護地 二〇、四〇〇方呎はザンジバル

島(一五九〇方呎)バムバ島(九六〇)ラム島(九〇)大陸部等を含めり、主として黒  
人より成る住民中にはイギリス領印度の人一萬ありて商權を握り、マホメッ  
ト教徒最、勢力あり、スルタンはイギリスの駐在官に依りて監督せらる、貿易  
に就きて一九〇四年の輸入は約千二百四十萬ポンドにして輸出は丁香、コ  
ブラー、象牙等の百廿二萬餘ポンドなり、而してアデン、マルセイユに對して  
は定期航路あり、ザンジバル(二〇、〇〇〇)は東アフリカ第一の市街にして  
交通上の要區たり。

ザンジバル

◎ドイツ領

ドイツ領東アフリカ 六九四、六五〇〇〇方呎はウムバ河口より南緯十度四十  
分に至り、海岸線は約一千呎に及べり、沿海地に於ける人民にはアジア的分  
子多く、輸出品には、カウチック、ニゴブラー、珈琲種子、象牙、皮革等あり、主要なる

世界地理提要

あふりか洲 東アフリカ



港はタルエルサラアム(Dar-el-Salam)(113000)バガモヨ(Bagamoyo)(113000)キルワ(Kilwa)(10000)等なるが巨船の接觸を許すもの稀なり。

● コンゴ

コンゴ(Congo)地方と稱するはコンゴの流域并にオゴエクアンザ等の沿岸諸流の流域に属する廣大なる土地にして北はスーダンと境を交え東は東アフリカと境し南東はザンベジアに隣し南は南西アフリカに接し西は大西洋に瀕す政治上はコンゴ獨立國、エスパーニア領、フランス領の三部に分かる。

◎ コンゴ獨立國

コンゴ獨立國(Etat Independant du Congo)はコンゴ流域の四分の三を占め地積は二百三十八萬方呎あるが僅に三十七呎の海岸を有するのみ。沿海の地は平低なるが廣漠たる臺地の縁邊を形成する海拔二五〇米突の階段の麓にあり内部は未詳ならざれども顯著なる起伏を呈せざるが如

境域

土地

住民

沿革

し、河流の著しきは一のコンゴあるのみなるも航河の延長は一萬五千呎に達せり氣候は暑熱強く濕潤の地多く殊に沿岸の地は不健康なるが内部の臺地は概吾人の生存に適するが如し而して西部はサバンヌ的して河流の沿岸に多少の樹木を觀るのみなるが東部には森林蒼蔚たり。人口は一千九百萬人と概算し或は三千萬人と計上するあるも多數はバヌツ派の黒人に屬し若干姓に分かるが上流の地にはアラビヤ人、ザンジバル人あり白人は約二千五百人にして其の一千四百餘人はベルジック人なりとす宗教は拜物教大に行はるるも新舊キリスト教の傳播にも見るべきものあり。

コンゴ獨立國は一八八三年ベルジック王レオポルド二世に依りて設立せられたるコンゴ萬國協會に基づきて起りし中立國にして一八八五年のベルリン會議はレオポルドに其の主權を與へしが一八八九年レオポルドは主權の全部をベルジックに遺與することとし一八九〇年にはコンゴ邦土の賣讓を禁じ同年ベルジック、コンゴ兩國間に成立せし條約は十年の

世界地理提要 あふりか洲 コンゴ



政治

後、前者に後者を併合せしむるの權を授けたり、而して一九〇一年の條約は此の關係の繼續を確認したり。

中央政府はブリックセルに置かれ國務大臣の統轄の下に外務及法務、財務、内務の三局長を置き總督府をボマーに設けて總督、副總督を置けり、地方は十四區に分たれ、各區に委員を置く、陸兵の數は約一萬四千人ありて、海軍には九隻の汽船を下流コンゴに備へ、三十二隻を上流に浮ぶ。

生業

主産物は「カウチック」象牙、椰子、椰子油等にして、珈琲は自由に生じ、「ココア」、煙草等の栽培も望みあり、貿易は漸次進歩しつつありて、一九〇五年には輸入二千七萬餘フランク、輸出には五千三百三萬餘フランクありて、主としてベルジック輸入一三八八と取引し、主要輸出品は「カウチック」四三七五、象牙四八三、椰子二五二、椰子油二一五等なりとす、又一九〇五年バナナ及ボマーに入りし船は五十二萬六千餘噸なるが鐵路には六百五軒あり。

ボマー

ボマー(Boma)は總督府のある處にしてバナナを以て附庸港とし、コンゴ河に沿ひ鐵道の便を有す、マタヂは河口より百六十軒に位す、鐵路三九八軒

は此の地よりも起りてレオポルドヴィユ(Leopoldville)に至る。

○ エスバニア領

エスバニア領。地積二、五七〇〇方料。人口一三、九一〇〇人。はギニア海に瀕するが、ムニ河サンフランシス等の地方を含めり。

○ フラレス領

フランス領コンゴ一八五〇、〇〇〇方料。はウバング河、コンゴ河を以て獨立國と境し、西は海に瀕せり、輸出品には、ゴム、象牙、木材、椰子油、椰子、珈琲等あり、首邑リールビエヌ(Libeville)は三千の住民を有して船舶の接近するを許す。

南部

● 西岸地方

〔西岸地方〕はコンゴ河以南、オレンジ河以北にありて大西洋に瀕する地を云ふ、政治上はポルトガル、ドイツに屬するも、ワルフィッシュの一小區はイギ

世界地理提要 あふりか洲 西岸地方



リスに屬せり。

◎ポルトガル領

ポルトガル領即チアンゴラ(Angola)三八〇、〇〇〇人方料はコンゴリとクネネとの間に於ける地とコンゴリ以北の飛地とより成る。海岸は一千四百軒の長さに達するも屈曲に乏し、沿岸の地は平低にして丘陵の地は八百乃至一千米突の海拔を有する内部の臺地の麓に連接せり。氣候は沿海の地に炎暑を感じ内部には温和の土、寒冷の地あり。住民はバヌツィ派の黑人、ポルトガル人、雜種人等より成り、珈琲、ガウチック、蜜蠟、砂糖、ニコヤン、象牙、牛魚類等を出す。鐵道(三九三軒)も多少備はれり。ロアンメ(S. Paulo de Loude)はアンゴラの首邑にして一萬五六千の人口を有す。此の他にモサメリス(Mosmedes)等あり。

ロアンメ

◎ドイツ領

南西アフリカ保護地ニ〇、〇〇〇〇〇人方料は一千六百軒の海岸線を有するも屈曲少なく良港灣の存するあるなし。沿岸の地は平低にして砂礫多く荒蕪不毛の地なり。内部は漸次に隆起するも最高處を過ぐればカラハリ沙漠

サントフラン

に向ひて緩斜せり。氣候は寒暑の激變ありて人生に適せず。降雨は西方に多きも東方に稀なり。住民はホッランドト、ブシマン、バヌツィ、ゲマラ等より成れり。主なる生業は牧畜にして、羊、山羊等を飼養し、鐵道(三八二軒)電信、電話の便は存す。キンドフーク(Windhoek)は政廳のある處なるが、海岸のヌワコンムン(Swakopmund)港と鐵道を通せり。

◎イギリス領

ワルン、シッ(Walfish)灣附近の地二千百十四方軒はイギリス領にして行政上はケープ殖民地に屬せり。住民は一千十五人に過ぎず。

●中央地方

中央地方はベチアナランド、ローデシア、中央アフリカの三部に分かるるが皆イギリス勢力の下にあり。

◎ベチアナランド

ベチアナランド(Bechuanaland)保護地一四、七五〇〇〇人方料は南にモロボ河北

世界地理提要 あふりか洲 中央地方

六百四十七



マフエキン

にザンベジ河を以て境とす、行政はケレブ殖民地に屬し、マフエキン(Mafeking)は當地の首邑たり。

○ローデシア

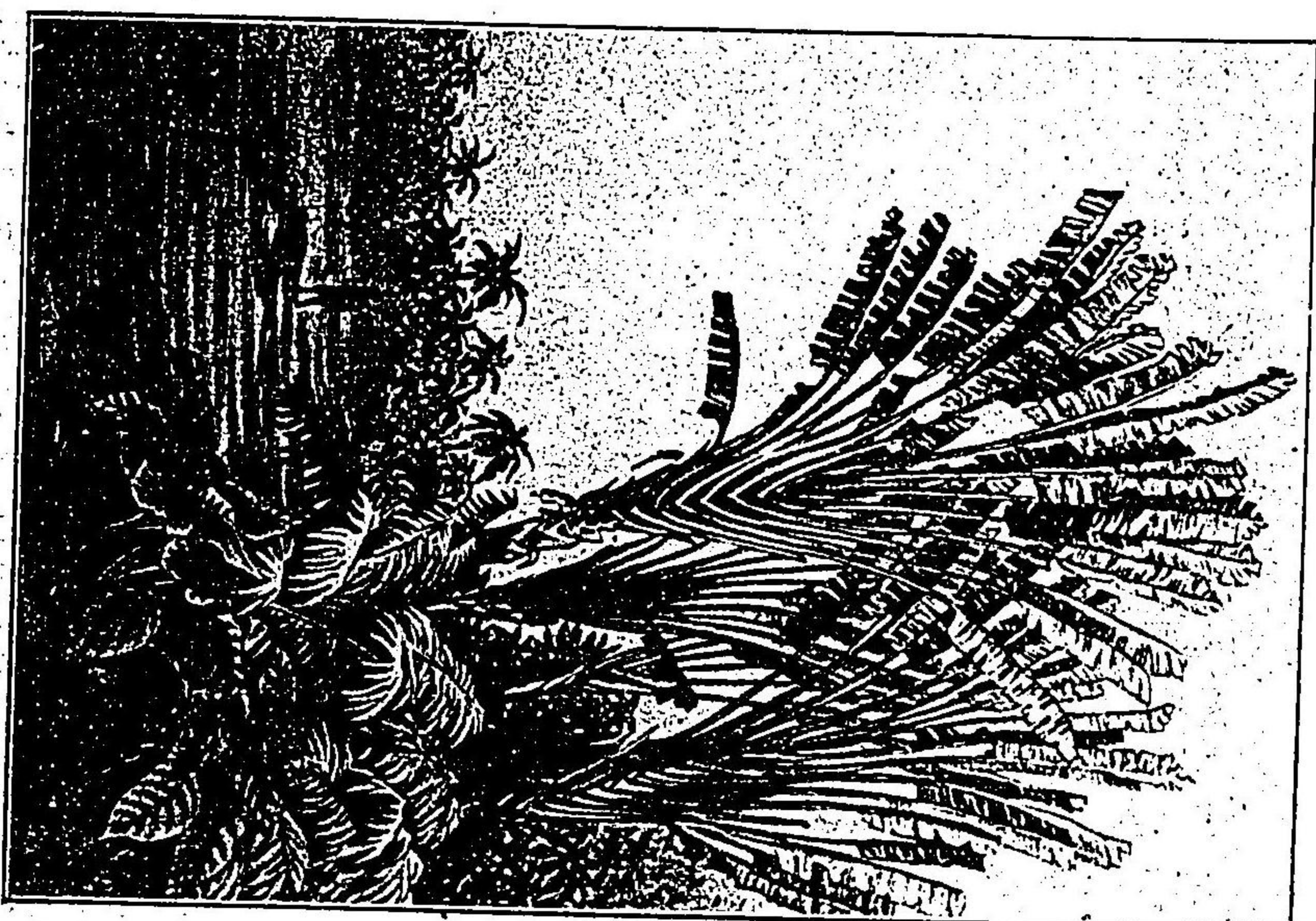
ローデシア(Rhodesia)一〇九、五〇八、〇〇〇方村は偉傑セシム、ローン(Oceil Rhodes)に基づける名なり、當地は南アフリカ特許會社の管理に屬し、行政上は北東北西南の三部に分たる、鐵物は金、銀、銅、アンチモニー、鉛、石炭等あるが殊に金は約一萬三千六百方村の地に包含せられ、石炭の産出は、ワンキー地方に多し、交通に就きてローデシアはアフリカ縦貫鐵道并に電信の通するあるが、此の外に印度洋岸のベイラに至るもの等あり、サリスベリー(Salisbury)は南ローデシアの首邑なり、フォートジームソン(Fort Jameson)は北東ローデシアの管理者の駐在する處にして、ニヤサ湖の西に當れり、カロモ(Kalomo)は北西ローデシア即ちバロツェランド(Barotseland)政廳のある處なり。

○中央アフリカ

イギリス領中央アフリカ七九三、二〇七方村はニヤサ湖の南岸及西岸に



バオバブ (Baobab) (Adansonia madagascariensis)



アウキバセオ (Urania speciosa)



バオバブ (Baobab) (Adansonia) [木綿科] に三種あり、セネガル種 (A. digitata)

はアフリカの西岸に於ける熱地帯にセネガル地方に多し、高きは種には二十米突に達するものあるが樹幹の太さは三十米突を超ゆ。果實は食料に供すべく木材、葉、花、等も利用し得くし、其の他にマダガスカル種 (A. madagascariensis) オーストラリア種 (A. gregorii) あり。

ウツギスヤオ 「烏蕪」 (Urania speciosa) [蠶繭科] は「ラビナラ」 (Ravinara)

として昔に旅人絹と稱せらる、マダガスカル島の特産にして用途少なからず、葉を數物に製し麻紙を造るに用ふ、其の他器具を作るに適す。

沿ふ住民の多くはマホメット教を奉じ、綿、煙草等を輸出し、ニヤサ湖、シレ河の上流等には數隻の小汽船を浮ぶ。ゾムバ (Zomba) はシレ河畔にありて政廳の所在地たり。

### ● 東岸地方

ボルトガル領。東アフリカ七六、〇〇〇方人即ちモザンビーク (Mosambique) はゴア灣に達し東は海に面し西はイギリス領と隣接す。

ザンベジ河は上流をババと稱す、マロロ湖附近の沼地を經流しカボンガを容れたる後コンサエの瀑布、ピクトリアの瀑布等に依りて階段を下りカフエ、ロマンガを受けボルトガル領東アフリカに入りてはナテの附近に於て二千五百米突の幅を有するも再び峡谷に入りて四十米突に縮少す、然れどもセナの附近に於てニヤサ湖より出づるシレ河を合はせたる後は河幅は愈増大して十三料に達し、海に入るに先ち數派に分かれ三角洲を抱きてモザンビーク海峽に朝す、源委通じて二千六百六十料に亘るが流域は百四十三萬方料を有せり。

此の地はモザンビーク、ザンベジ、マレンシ、マルタス (Lourenço Marques) の三

世界地理提要 あふりか洲 東岸地方

ザンベジ河



區に分かれ尙ガザ(Gaza)イムハンベネ(Imhane)テテ(Tete)を含めり又マニカ  
(Manica)ソソラン(Sofala)地方はモサンビック特許會社の支配の下にありてニヤッサ  
特許會社はロブマ河、ニヤッサ湖、ルリオ(Lurio)の間に於ける地を管理す。

主要輸出品はカウチック、銅、蜜蠟、象牙、等とす、鐵道にはデラゴア線(九二軒)  
ありてブレトリアに伸び、ベイラ線(三五七)はブラワヨに至る、電信線には約  
三千軒あり。

モサンビックは總督府の所在地にして七千の住民あり、ベイラ(Baila)も亦港  
を有し住民は七千二百餘あり、ルレンソマルケスはデラゴア灣にありて水  
陸交通の便を與へ當地の諸港中貿易最盛なり。

●南端地方

南端地方にはトランスバール、オレンジリバー、バストランド、ナタル、ケー  
プ等の諸殖民地あるが皆イギリスに屬す、當地方の主要なる山脈をドラケ  
ンベルグとし、河流をリンボボ及オレンジとす。

ルレンソ  
マルケス

オレンジ河

オレンジ(Orange)河はドラケンベルグ山脈の水源山に起リバストランドを經、カ  
レドンを容れオレンジリバー殖民地とケープ殖民地との境を爲し、トランスバ  
ールより來れるバール河を受くるも、乾燥の地に入りて水量を損失するが故に航  
行に堪ゆるに至らざるのみならず、微々たる小流の姿を以てケープ殖民地の北境  
を爲して大西洋に注ぐ、バールを母流とすれば河長は二四七〇軒と成り、流域の面  
積は百三十萬方軒に達するも、降雨の盛なるに非ざれば巨流の稱を實にする能は  
ずして乾燥期には水流は河床の五十分一たるに過ぎず。

●トランスバール

トランスバール(Transvaal)殖民地の地積は二十八萬八千方軒あり、ドラケ  
ンベルグ山脈は南北に貫きて當殖民地を東西の二部と爲し、東の斜面は急  
峻なるも西の臺地は西に向ひて緩斜せり、河流は概してリンボボ河に屬せ  
るが、南境を爲せるバール河はオレンジの流域にあり、氣候は概して良好な  
り、高處にありては晝暑く夜寒く激變するの患あるも健康に害なく、低處に  
は温和の地あるも亦炎暑を覺ゆる處なきにしもあらず。

一九〇四年の人口は約百二十七萬人ありて白人は凡三十萬あるが、土人  
世界地理提要 あふりか洲 南端地方 六百五十二

土地

沿革



住民

は九十五萬足らずありき。教上は一八九五年に於てキリスト教徒十二萬人、ユダヤ教徒に一萬人ありたり。教育にも稍見るべきものあるが殊に近年農學校は著しく發達せり。

當地に殖民せしは一八三六―三七年にケープ殖民地より來りしブリア人なりしが、一八五二年トランスバールの獨立はイギリスに依りて認められ、一八七七年イギリス領に變せり。然るに一八八〇年獨立を圖りし結果遂に翌年の條約はイギリス女帝の主權の下に自治を許し、一八八四年の條約に依りて外交のみはイギリスの手に残りしも國名は南アフリカ共和國と改まりたり。然るに黄金の發見、收入の増加、參政權に對するイギリス人の要求、等各種の原因よりして衝突を來たし、大統領クリッゲルは一八八九年オレンジ自由國と共にイギリスと戰を交ゆるに至れり。而して共和國は後に至りて衆寡適せず、一九〇〇年トランスバール殖民地としてイギリスに合はせられしが、兩國の兵は一九〇二年に至りて始めて熄み、目下知事の管理の下にありて地方は十六區に分れる。

生業

土地は農牧に適するが、農産は未だ當地の需用を充すに至らず。牧業は牛馬、羊等を飼養す。採鑛業に就きて黄金は各處より産するが殊にキトワールスランド(Witwatersland)及バルベルトン(Barterton)を主とす。而して一八九九―一九〇四年の産額は一千百三十七萬オンスを下らず、一九〇五年の産額は四百八十九萬七千オンスを超え、一九〇五年には約十六萬四千餘人の工夫ありたり。石炭はバルベルトン、ミッデルブルグ(Middelburg)、ビレールスブルグ(Biervensburg)等の地方に産し、一九〇四年には八百八十五萬圓に達せり。又プレトリア地方には約六十三萬圓の金剛石を産し、プレミール(Premier)坑の如きは最、有名なり。此の外に鐵錫、銅等有望なるものあり、一九〇五年の貿易は輸入に約一千五百八十二萬ポンド、輸出に凡二千二百八十萬ポンドありしが、輸出の殆ど全部は金(二〇六三)にして、金剛石(一一〇)之に次びり。鐵道は各地を連絡して既設に一千四百七十三軒、未設に二百八十八軒あり、電信は三千九百三十軒の線條を有せり。

プレトリア

プレトリア(Pretoria)(三六七〇〇)は海拔一三六〇米突の地に位す、トランス

世界地理提要 あふりか洲 南端地方



ヨハネスブルグ

スワジラン

バール殖民地の首都にして白人の在住するもの二萬一千餘人あり、ヨハネスブルグ(Johannesburg)一五、八五八〇はキトワールスランド産金地の中心にして當殖民地の最大都會なり、住民の過半は白人なりとす。

ムベマン(Manama)はトランスバールの南東に隣接せる屬地スワジランド(Swasiland)一、六九二八方呎の首邑なり。

◎ オレンジリバー

オレンジリバー(Orange River)殖民地は舊オレンジ自由國(四十六年)と云ひし處なり、トランスバールの南にありてバール、オレンジ、カレドンの三河の間に挾まるる地なり、面積は十二萬五千二百方呎ありて平均海拔は一千三百乃至一千四百米突の臺地を爲し、南と東とに山脈を控え西に向ひて傾斜せり、水脈に乏しからざるも巨大なるものは邊境にあり、氣候は温和にして健康に適するが乾燥に失する患あり。

住民

人口は一九〇四年の調査に依れば白人は十四萬三千餘人、有色人は二十四萬一千餘人ありて總計は凡三十八萬なり、而してキリスト教を奉ずるもの

生業

のは十二萬人を超ゆ。

土地は牧畜に適して羊(八二)を第一として約百十三萬頭の家畜を養ひ又鑛業は金剛石、石炭等を興ふ、一九〇四年の貿易に關しては輸入に三百八十四萬餘ポンドありて輸出は凡百四十一萬ポンドに達し、其の百十七萬ポンドは主として生毛、金剛石より成りてケープ殖民地に向けられたり、交通上は凡八百八十五呎の鐵道、二千三百八十呎の電信線等を有せり。

ブルームフォンタイン

首邑ブルームフォンタイン(Bloemfontein)三三、八九〇は海拔一三七七米突の地にありて住民の過半は土人なり。

◎ バストランド

バストランド(Basutoland)二、六六五八方呎はドラケンベルグ山脈に依りて産地を爲し、而して西に傾くが水利多く氣候良好にして農業、牧業に適せり、首邑イセバ(Maseru)はカレドン河に近し。

◎ ナタル

ナタル(Natal)殖民地は九萬三千六百七十六方呎の面積を有し海に面する

土地

世界地理提要 あふりか洲 南端地方



生業

こと五百八十軒なり、海岸は平低にして樹林に富むのみならず、ダルバン港の如き良港を有す。土地は二三の階段を爲し漸次に隆起してドラケンベルグ山脈に達するが、河流多くして灌漑に缺乏を告ぐるとなく、地味肥沃にして耕牧に適せり。氣候は海拔に依りて多少の差異あるも概々人生に適せり。住民は凡そ百四萬人ありて、カプフル人は凡そ八十八萬人を占む。

生業は農牧を主とし、石炭も亦豊富なるが、一九〇四年の海路貿易は輸入に約一千六十七萬ポンドありて、輸出に貴金屬、石炭、生毛、砂糖等の二百十七萬ポンド餘ありき。鐵道は一千二百四十九軒ありて、ダルバンに起れる主線はヨハネスブルグ(七七七軒)、プレトリア(八二三)に達し、入船は約二百十萬噸にして、出船は二百十五萬噸を超過せり。又郵便(三五九局)、電信線(二八八五軒)、電話線(九四三)等もありて、交通の便稱はれり。

ピーターマ  
リツブルグ

ピーターマリツブルグ(Pietermaritzburg)三、四六七六は常殖民地の首府にして、海拔六五二米突にあり、ダーバン(Durban)三、九二五〇即、ナタル港は盛に貿易に従事す。

境域

ケープ

ケープ殖民地(Cape Colony)は喜望岬に基づける名なり、北及北東はベチウアランド保護地、オレンジリバー殖民地、バストランド、ナタルと境するが、西は大西洋、南は印度洋に面す。地積は七十二萬方軒に近きが、長は一千二百九十軒、幅は九百七十軒に達すべし。

海岸

海岸は二千一百軒以上に達するも、屈曲に乏しく、海にアルゴア、モッセル、シモン、フオース(Enslin)、テールブル、サルダナ、セントヘレナ等を見、地角に暗礁岬、セントフランシス岬、アグリウス岬、喜望岬(Cape of Good Hope)、セントマルチン岬等を見るのみ。

地勢

沿海の地は階段を爲して内部に越くに從ひて高を増せり、沿岸一帯の地は灌漑の利ありて地味も亦極めて豊なるも、其の背後にランゲムレン(Lange Berge)の名の下に南岸に並行せる山脈あり、次にツワルテベルグ(Zwarte Berge)山脈ありて、廣濶なる乾草原大カール(Karoo)臺地の外邊を爲せり、而して第三の山壁はドラケンベルグ、ストームベルグ(Storm Berge)、メネウアンズ(Meneuws)

世界地理提要 あふりか洲 南端地方



河流

Berge, ロングフェルド (Roggeverd) 等の諸脈より成りてオレンジ河と印度洋諸流との分水界を爲せるが東より西に趣くに從ひて漸く低下し西部の最高峯はスノウベルグ山脈のコンパス(二五九二)なりとす而して此等の山脈の北にある臺地はアフリカ内部の廣大なる臺地の一部にしてオレンジ河に向ひて緩慢に傾斜せり。

當地の河流は航行上の便を供するもの多からざるが印度洋斜面にケイ (Kei) ケイスカンマ (Keiskamma) ガンツース (Gantoes) ガウリツ (Gauritz) ハリード (Haried) あり大西洋に入るものにオリファンツ (Olifants) オレンジあり。

氣候温和にして健康に適するが地方に依りて差異あり沿海の地は温暖にして濕氣少なからず變化乏しきも内部は冬季に寒冷乾燥の度を加へ夏季に炎熱を覺え山岳地方に進めば晝夜に於ける温度の差著し此の如くにして時々旱魃を見ることあるは實に大なる障害なり。

人口は一九〇四年には凡そ二百四十萬六千と成れり而して白人は五十八萬足らずにして其の他の有色人はホッテントット、カプフル、ベチアアナ、フィンゴ(Bo-

氣候

住民

政治

Boers, マライ、雜種等より成れるもの如し、而して來住者は一九〇五年に三萬四千足らずありて往住者は約三萬四千五百人なり、宗教に就きては一八九一年の調査に從へば新教徒に七十三萬餘、舊教徒に一萬七千餘ありて、ホメット教徒は約一萬五千、ユダヤ教徒は凡そ三千と計上せられしが此の他に七十五萬餘の異教徒あり、教育は未だ普及せざるが大學の設あり。

行政權は知事及び行政會議民政、拓殖、財務、法律、農務、工務の各長官に委ねらるるが立法權は上院公議議員及下院公議議員の握る所なり、而して地方の行政に關しては殖民地本部を七十七部に分ち屬地を三十區に分ちて各部に民政委員を置く又殖民地の代表者をロンドンに派遣せり。

地	方	地	積	人	口	方	方
殖民地本部						方	方
トランスケイ			五三、五七四六	一四八、六二六一	二、八		
ランブランド			六六〇九	一七、七六四七	二七		
ポンドランド			一、〇六六二	一三、一一五一	二二		
ポンドランド			一、〇一四七	二〇、二八〇九	二〇		
世界地理提要	あふりか洲	南端地方				六百五十九	



東グロリアランド	一、九六六八	二二、二四五九	一一
ベチアナランド	一三、三四四二	八、四二一〇	〇、六
ワルフィッシュベイ	一一一四	一〇二五	〇、九
ケープ殖民地	七一、七三八八	二四〇、五五二二	三

兵備

兵備に就きて八千四百餘人の兵あるが一千八百餘の警官も亦防備に當り得べく、シモン灣には堅固なる砲壘ありて海軍の根據地なり、財政に關して一九〇四—〇五年の歳入は凡一千三百八十六萬ポンドにして歳出は一千九十一萬ポンドに餘り公債は四千二百十萬ポンドを超えたり。

生業

住民は耕種を主とし小麦、オート麥、大麥、葡萄、果樹等の栽培あり養畜業は牛(一九五萬頭、馬(四二)羊(一一八〇)、山羊(七一六)、豚(三九)、駝鳥(三六)等を有するが此の他に林産あり、鑛産あり又蒸溜、醸造、製革等に従事す、貿易は進歩しつつありて一九〇四年の特別貿易は輸入に約二千一百八十六萬ポンド、輸出に二千七百四十一萬ポンドありて主としてイギリス、輸出二五三〇、合衆國、オ

イストラリア等と取引せしが翌年の輸入は二千萬ポンド、輸出は金(二〇七三)金剛石(六七五)生毛(一八八)駝鳥羽(一〇九)家畜(八二)銅(五七)等の三千三百八十一萬餘ポンドなりき而して一九〇五年の入船は一千二百二十四萬餘噸出船は一千二百二十七萬餘噸なるが、道路は殖民地本部のみにて一萬二千軒以上ありて鐵道は五千餘軒、電信線は四萬九千九百軒に近く電話線は八千四百軒に達せんとす。

ケープタウン(Cape Town)(七、七六六三)南緯三三度五六分 東經一八度二二分 四〇秒は當殖民地の首府にして地方屈指の都會なり、テーブル山の麓にありて市街はオランダ人の創建に係れり、港形は佳良なるに非ざるも交通上の要處として商業繁榮せり、ポートエリザベス(Port Elizabeth)(三、二九五九)はアルゴア灣に瀕し商港を有せり、キンバーレー(Kimberley)(三、四三三二)は西グロリアランドにありてバール河とリート河との間に於ける海拔一二二三米突の地に位し金剛石の産を以て名あり、ビーコンズフィールド(Beaconsfield)はキンバーレーに近くして亦鑛業地なり。



●島嶼

アフリカ洲は島嶼に豊富ならざるのみならず、多くは離島にして成因上は大陸に關するもの少なし、分ちて二部とす、其の一は印度洋にありてソコトラ島、セイシール諸島、アミランテ諸島、コモロ諸島、マスカレニアス諸島及マダガスカル島より成り、其の二は大西洋にありてアソレス諸島、マデイラ島、カナリア諸島、綠岬諸島、ギニア海諸島、アスセンション、セントヘレナ、トリスタンダクニアより成れり。

◎印度洋島嶼

マダガスカル (Madagascar) 島は土名をヒラネヒ (大地) と云ふ、アフリカ大陸の南東印度洋中にありて、西はモザンビーク海峡に依りて大陸と離隔せらる、北北東より南南西に亘りて長一千六百二十五軒、平均の幅四百七十軒あり、面積は約五十九萬二千方軒あるを以て、實にアフリカ洲の最大島なるのみ

マダガスカル島

ならず世界第四の大島たり、海岸線は四千八百三十軒を下らざるべきが、東岸は概直線的にして西岸亦著しき出入を呈せざるも北西隅には佳良なる港灣の存するを觀る而して、屬島にはセントマリー、ノジベ、等あり。

山岳は五脈に分かるるが概北北東より南南西に走りて、ツィアフォジャボナ (二五九〇)、ツィアカフ (二五四〇)、アンカラトラ (二五三〇) 等の諸山を著しとす。

河流は著大なるものなきも其の數乏しからず、然れども概灌溉の利を供するに止まりて航行の便を呈せざるに似たり、今主なるものを記せば海峡、斜面にベツボカ (八〇〇)、ツィイボヒナ、マンゴカ、等あり。

内部の高臺は平均五百乃至八百米突にして全島の約二分の一の面積を占むるが、高臺を圍繞する低處は地味肥え樹木の繁茂を見るも南部は不毛の地あり、又沿海の地方には沼地少なからず。

マダガスカルの大部は熱帯に位するが、故に海拔高き内部の臺地は稍温和にして健康に適するも、海軟風が瘴氣を運び來りて人命を害する處少なからず、殊に沿海の地は温帯人に對して適良ならずしてヨーロッパ人の墓地

世界地理提要 あふりか洲 島嶼



なりと唱へらる。

植物は盛に繁茂し北東部の海岸地方には殊に發達せり。動物には既に他の地に於て絶滅せるものも存在し「レムム」(Lemur)、「チロムヤ」(Chiromys Madagascariensis)等種々あれども象、獅子、シラフ、「アンチロペ」等を缺き、本島がアフリカ大陸より分離せしは甚だ古代にあるを證せり。礦物は鐵、石墨、方鉛礦、銅、金等の中部に、石炭の北部にあるありて硫黃の量も豊富なり。

人口は二百六十四萬餘人なり、土人は二百六十二萬七千九十九人にして其の八十五萬は「ホバ」(Hova)に屬して内部にあるが、西部に「サカラヤ」(Sakalava)あり、沿海の都邑にはアラビア人の商業に従事するあり、アフリカ大陸より來れる黒人も多少あり、宗教は新教最、流行するがローマ公教には四十萬人の信者あり。

マダガスカルはフランスの殖民地にして共和國殖民省の管理に屬するが、總督は民政各般の事務を統督し、東アフリカ守備兵司令長官は軍務を司れり。

農業は土人が重ずる所の業務にして主食品たる玉蜀黍を始とし「セゴ」米、馬鈴薯等を興へ、牧畜は盛に行はれて牛、豚、綿羊を養ひ、林業は木材、カウチクを産す、鑛業は鉛、銀、金(一三二萬圓)を採掘す、而して一九〇四年の貿易は輸出に金、カウチク、皮類、ラヒア、肉類等の一千九百三十六萬フランク足らずあり、主として本國と取引せらる。

首府アンタナナリボ(Antananarivo)はアンタナリボ(Antanarivo)又はタナナリボ(Tananarivo)とも稱せらる、イメリア高原にありてタマタン港より三百二十ニ軒、海拔一四二〇米突に達する山地急峻なる丘陵の斜面に位す、氣候佳良にして飲料水に饒なるのみならず、四近の地は穀類、野菜を供給す、住民は約五萬人にしてヨーロッパ人は一千人内外なり、タマタン(Tamatave)(一五〇〇)は本島の主港にして交通上の要處なり、フィアナランソア(Fianarantsoa)(一六〇〇)はマンゴカ河の上流、海拔一一九〇米突に位す、ヘツィンネオ人の首邑にして本島第二の市街と認めらる。

世界地理提要 あふりが洲 島嶼 六百六十五



セントマリー島  
コモロ諸島

は南岸にありてノジツタム島との間に廣濶なる錨地を有せり。  
セントマリー (St. Marie) 島即ノジツタム島は東岸にありて島形狭長なるが面積は百六十六方呎あり、ポールセントマリーは錨地を有せり。  
コモロ (Comoro) 諸島 八、五〇〇〇人はフランスに屬す、マダガスカルとアフリカ大陸の東岸との間にありて火山質なり、行政上はシヤニオン知事に屬す。  
附記。セントポール (St. Paul) 島、新アムステルダム島は南極地に屬するケルゲラ

マスカレニ  
ノズ諸島

マスカレニウス (Mascarihus) 諸島はブルボン、マウリシアス、ロドリグエス等より成りてイギリス、フランス兩國の分領する所なり。

レウニオン島

フランス領 レウニオン (Reunion) 島 一七三、一九二は一名をブルボン (Bourbon) 島と云ひ、マダガスカル

の東六百七十六呎にありて首府をセントDenis (St. Denis) (三二、一〇〇) と云ふ、土地は火山質にしてピトンドフルネーズ (三〇、五二) の如き高山を有し砂糖、珈琲等を産す。

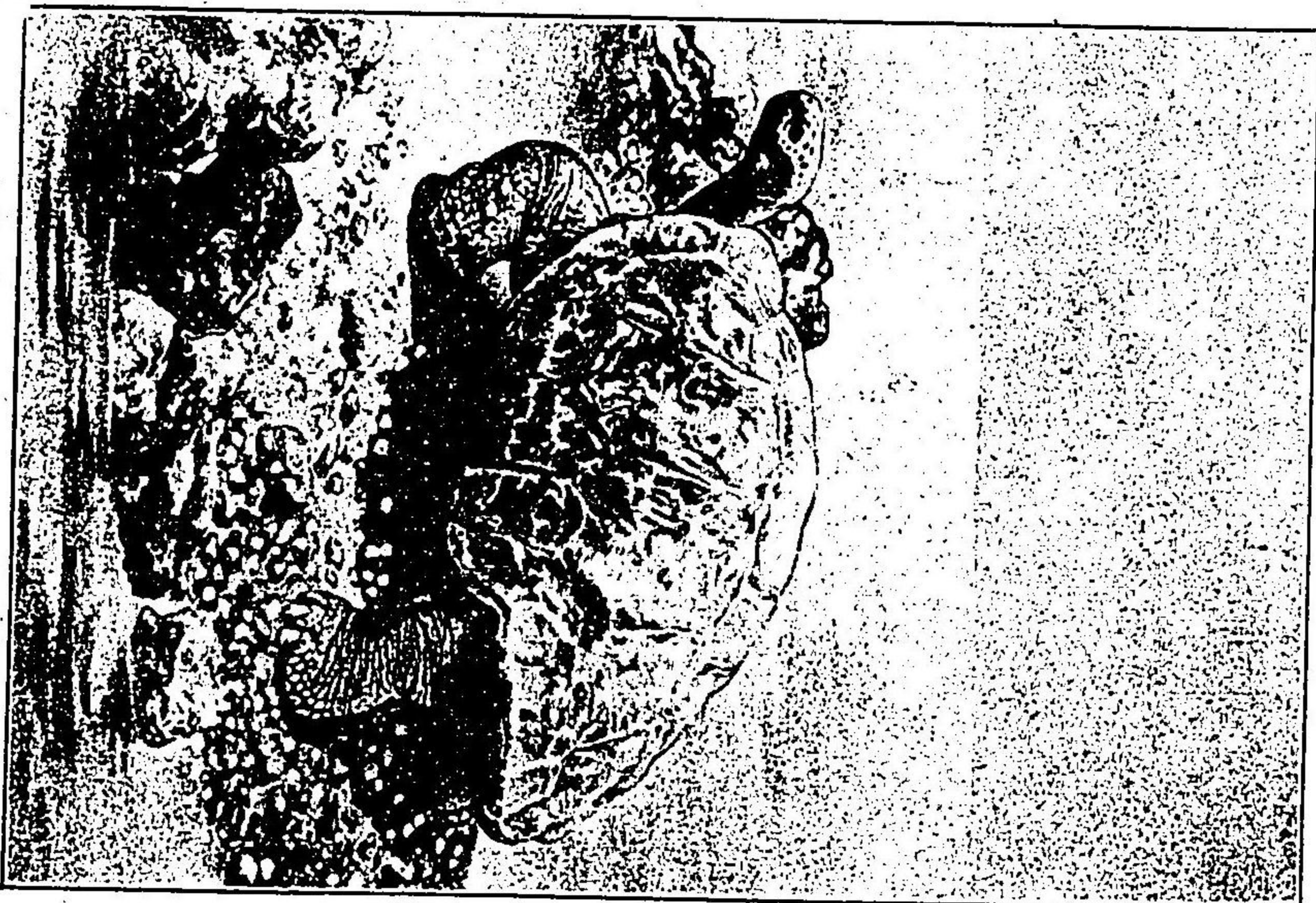
マウリシアス島

イギリス領 マウリシアス (Mauritius) 島 一七、八二六方呎はマダガスカル

の東八百呎に位し、土地は風色に富み地味豊沃なり、住民の三分の二はア



マコノキ (Pandanus utilis) [マダガスカル]



象龜 (Testudo elephantina)



カバノキ「桑樹」「林檎樹」(Pandanus) [桑樹科] は同緯度地方に産し約五十種を算するが、其の一種く *P. odoratissimus* は我が小笠原島、琉球、等にありて其の「アラロ」(*P. ntilis*) はマダガスカル島にあり、葉を編みて敷物又は袋に製し、糠草及び草質を食料に供す。

象龜 (*Testudo elephantina*) はマダガスカル島の島嶼に産す、箇中の最大なるものにて長さ一米突三十程、重量二百斤あり。

リカ人支那人、雜種白人より成り、ヒンド教徒は二十一萬に近し、砂糖、ラム、ニ、椰子油、等を産し、輸出は三千二百十四萬七千「ルービー」なるが、鐵道には百六十九軒あり、首都ポートルン (Port Louis) は島の北西岸にありて良港を控ゆるが住民は近郊を合はせて五萬三千人に達せんとす。

ロドリゲス諸島  
セイシヤル諸島

ロドリゲス諸島 長二九軒は海魚の漁獲を主業とするがセイシヤル諸島、ブミランタ (海將) 諸島、オウゴン (Ongos) 諸島、最大島はサ、セイシヤル諸島、ブミランタ (Caradus) 諸島、イーゲン (Eagle) 諸島等と共にイサリシブス知事の管轄に属す。

セイシヤル (Seyshelles) 諸島 四九〇方軒 九九七二はマヘ (Mahé) 其の他の屬島を合はせて八十軒在する處なるが、錫蘭領土にして船舶の出入少なからず。

ソコトラ (Sokotora) 島 三五七九方軒はグアドルヌイ岬を距ること二百五十軒の沖合に於ける花崗岩質の島にして最高處は一千四百二十米突に達す、地味礫確にして物産に乏しきも軍事上の要區として、一八三四年以來イギリスに屬せり。

◎ 大西洋島嶼  
世界地理提要 あふりか洲 島嶼







(一一〇〇〇)はサンチアゴ島にありて當地の首邑なり、ポルトグラント(Porto-Grande)はサンビンセント島にありて佳良の鎭地にて飲料水及石炭貯蓄處あり。

ギニア海諸島は著大なるものなく其の數も多からざるが地理學上純然たるアンリカ島嶼にしてニスパニア或はポルトガルに屬せり。

ニスパニア領

フェルナンドポ( Fernando Po)島 一九九八方料は諸島中の最大なるものにして地味肥え灌漑の便あるも氣候不良にして温帯人の生活に適せず、首邑サンタイサベラ(Santa Isabela)はクラレンス峯(二八五〇)の麓にありて約一千の黒人と若干のヨーロッパ人の住する處なり、屬地アンノボ(Annobon)島 一七方料はサントメ島の南東にありて氣候は比較的佳なるが、オリソ(Orisco)島は海岸に接す。

ポルトガル領

プリンシペ(Principe)島 八五二方料は實利に乏しくサントメ(S. Thomé)島 一四七方料は丘陵多く土地は火山質にして樹木蒼鬱たり、シダサントメ(Cida de Sao Thomé)は當地の首邑なり。

アスセンシオン島

アスセンシオン(Ascension)島 八三方料は火山岩より成れり、イギリス水師提督の管理の下にありて守兵を北東岸のジョージタウン(Georgetown)に置くが、石炭貯蓄處として南大西洋航行の要區たり。

セントヘレナ島

セントヘレナ(St. Helena)島 三二〇方料はイギリスに屬す、アフリカ大陸を距ること一千九百三十料に位する小島にして沿岸は峻險、土地は火山質なるが、海底電線はクープタウン及サンビンセントに通せり、ジームスタウン(Jamestown)は本島の北西岸に於ける首邑なるが石炭貯蓄處として重要視せらる、ロングウッド(Longwood)はジームスタウンを距ること四千八百米突にあり、ナボネオン一世の居住せしを以て名あり。

トリスタンダクニオン島

トリスタンダクニオン(Tristan da Cunha)諸島 一六方料はイギリスに屬し喜望峯を距ること三千料に於ける火山質の島嶼なり。

あふりか洲終

世界地理提要 あふりか洲 島嶼



あめりか洲

● 總論

新世界

名稱 アメリカ(America)なる稱呼はイタリアの探検家アメリカゴベスプチ(Amerigo Vesputci)に因みてワルド・ゼーミッセルが一五〇七年に出版せしエスモンダスに始めて用ひたるに起れり。一に新世界又は新大陸と爲すは單に發見の時代に依りしものにて他に深意の存するあるに非ず。又西世界とも稱するは全ヨーロッパ人の慣習に基づけり。海陸の關係、地勢の狀況等に據るときは東世界と稱するの反りて適切なるを見るべし。

アメリカと云ふ名稱の起源に關するフランス人ジュール・マルグー(Jules Marcou)氏の論説は巴里地理學協會報文に前(一八七五年後)一八八八年(二回掲載せられたり。同氏の考證に依ればアメリカなる語はニカラガア地方の土語にして黄金に富める地又は風の國と云ふ發を有せるが、コロンプスが第四回の旅行(一五〇二-一〇三)於てコロンビアのチリキ(Chiriqui)灣に到達せし際、土人が裝飾に用ひ居りし粒金

の出産を尋ねたるに内部の産地即チアメリカより來ると答へしに基づき、エヌマミア人は此の名をエドワード(El Dorado)の黄金國 同様にヨーロッパ人間に傳へしならん。然るにセント・サント(St. Die)ノランメの香肆に博學なるヒラコミラス(Hyacomylus)なるものありてラチン語(一五〇五)又はドイツ語(一五〇六)にて刊行せられたるアルベリクス・ヴェスプチウス(Albericus Vesputius)の遠征紀行を閲讀したる後、自、小冊子を著述したるが(一五〇九)人名のアルベリクス(Albericus)と地名のアメリカ(Americ)とを混同して遂に誤謬を世に遺すに至れり。而してエドワード・シャルトン(Edouard Charlon)氏に依ればアメリカ(Americo)なる小名はイタリア人の知らざる所なれども、アメリカ(Americo)又はアメリカ(Americ)なる稱呼はドイツに行はれしものなりと云ふ。

位置 アメリカ洲は南温帯より北寒帯に達するが、大陸の四極を示せば

- 極北 マーチソン岬の北端 北緯 七一・五〇
  - 極南 フロワード岬の南端 南緯 五三・五四
  - 極東 プランコ岬の東端 西經 三四・四六
  - 極西 エールズ公岬の西端 西經 一六七・五九
- 又ラブラドルのチャールズ岬は西經五十五度三十七分に位するが、島嶼部に就きてはモリス・イスブ岬は北緯八十三度二十分、西經三十三度十八分に當



り、ホルン岬は南緯五十五度五十九分なりとす。  
 境域 北は北極洋に臨み東は大西洋を挟みてヨーロッパ、アフリカの二大  
 洲と相對し、南は狭小なる地角に依りて南極洋に接近し、西は太平洋を隔て  
 て遙にアジア、オーストラリアの二大陸と相對せり、而して新舊兩世界の間  
 に於けるベーリング海峡は僅に四十米突の深きを有するに過ぎざるのみな  
 らず、其の幅は五十五軒にして快晴の日に當りてはアジアの東端よりアメ  
 リカの西端を觀望し得べしと云ふ、殊に冬季にありては結氷の爲に海峡は  
 變じて氷原と成り兩世界の間に連絡を見ること數月に及ぶ、又シベリアと  
 アラスカとの間にはアレウト列島の鍵鎖を形成するあり、而して此の接近  
 點を遠かるに從ひてアジア、アメリカの二大陸は漸く離れて一は南西に走り  
 一は南東に走るが故にコシエンシーヌの河口と中部アメリカのパナマとの  
 間は一萬五六千軒に達し、平均距離に相當する清國の海岸とカリフォルニア  
 との間は殆ど百二十度を算す、然るに北アメリカとヨーロッパとの平均距離は  
 二千五百軒内外に過ぎず、是、ヨーロッパ人がアメリカを利用するに至りたる

一大原因たらずんばあるべからず。

太平洋		五
ベーリング海峡對岸間の距離		五〇〇〇
横濱サンフランシスコ間		九〇〇〇
メルベライツ(チレ)シドニー(オーストラリア)間		一、三〇〇〇
イスタンブール(ギリ)シドニー間		四〇〇〇
アツレス諸島ニアフランド間		二〇〇〇
サンロウク岬(ブラジル)シエラレオネ間		三〇〇〇
大西洋		

本洲は殆ど同一の形状(三角形)を有する南北二箇の陸地より成れり、而して  
 此の南北二部の間を連絡する陸地に二派あり、其の西派は中央アメリカと  
 稱する山岳多き狹長の地にして、其の東派はアンチル列島と稱する數多の  
 島嶼なり、此の如くにして大陸部は南北に長く凡そ百二十八度、約一萬八千軒  
 に達するが、東西の幅は北部にありては六千軒に達するも中部にありては  
 僅に四十五軒と成り南部にありては五千軒を有する處あり。

本大陸を北中南の三部に區分するは地勢上極めて適切なるも、從來の慣  
 習は南北の二部と爲すにあり、其の北アメリカにはグリーンランド、圓極地の

世界地理提要 あめりか洲 總論

廣表

面積

北アメリカ



一部、メキシコ、中央アメリカ、アンチル諸島を加ふるを以て地積は二千三百五十萬方呎に達するも、其の南アメリカは一千七百八十四萬方呎を有するに過ぎず、而して兩部を合すれば總地積は四千三百三十萬方呎と成りて殆ど我が帝國の九十二倍に當れるが或は約四千二百十萬北二四三五、七七〇〇方呎と南一七七四、四九〇〇方呎と計上するもあり、要するに南北二部の比は一と一、三餘なり。

海岸 北アメリカの北岸及東岸は西岸より出入多く、西岸は急峻なるも東岸は平低にして海岸線の總延長は四萬八千呎なるが南アメリカは南半球に於ける他の大陸に共通せる缺點即ち土塊的形狀を有するが故に沿岸は單調にして海岸線は二萬五千呎に過ぎず、而して海岸線一呎に對する方呎數は北部に四百七にして南部に六百八十九なり、又島嶼に富めるは北部及中部なるが其の地積は四百二十九萬三千方呎(百分の十)にして半島は二百二十萬方呎(百分の五)を占むと云ふ。

- 北極洋(マッケンジー海) フランクリン海 メルビル海 プーシア海  
 (バフィン海) ハドソン海 セントローレンス海 ファンデー海

海峽

大西洋

- チサピーク海 メキシコ海  
 アンチル(カライブ)海 ホンサウラス海  
 サンタロザ海 リオデラプラタ海 サマチアス海  
 サンジョージ海

太平洋

- グアヤキル海 パナマ海 フォンセカ海 テウアンテペック海  
 カリフォルニア海 バリストル海  
 バンクス(Banks) 海 バロー(Barrow) 海 ランカスター

海峽

- 北部  
 ロビンソン スミス グービス ハドソン  
 東部  
 ベルアイル(Belle Isle) カボット フロリダ ユカタン  
 南部  
 マガリヤネス(Magallanes)

半島

- 北部  
 プーシア タルビル  
 東部  
 ラブラドル ノバスコシア フロリダ ユカタン  
 西部  
 カリフォルニア ケナイ(Kenai) アラスカ

世界地理提要 あめりか洲 總論



地峽

ラウアンテペック、ホンデッラス、コスタリカ、パナマ、ダリアン

地角

北部

地角東部

チアールス、サプル(ノバスコシア)、サプル(フロリダ)、カトーチ(Cutoche)、グラシアスアデオス(Gracias a Dios)、サンロッシ、フリオ、コリエンテス、ビルシネス(de los Virgenes)、デエゴ、ホーン

西部

アグジ(Aguja)、サンルッカ(San Lucas)、フラタリー(Flattery)、ネエ、ンハム(Newenham)、エールヌ公

北部

パリ諸島パトリック公、メルセル、バサー、バンクス島、フランストン島、キリアム王島、エールヌ公島、北ンマーセット島、バフィン島、北ザザンブトン島、グリーンランド島

島嶼東部

ニューファウンドランド島、アンチコスチ島、エドワード公島、ブレントン岬島、ベルムダ諸島、バハマ諸島、大アンチル列島キウバ、ジャマイカ、ハイチ、プエルトリコ、小アンチル列島

南部

チエラデルフェゴ島、パタゴニア諸島、ガラパゴス諸島、バンクローバー島

西部

シローット女皇群島、アレクサンダー群島、カチアク(Kadlak)諸島、アレウト列島、ヌニバク(Nunivak)島、セントローレンス島

山岳

アメリカ洲に於ける山脈の趨勢は極めて單純なり、南北の兩部にありては殆ど同様にして概南北の方向を有せるが、中部にありては東西に走るもの多し而して山脈は東西の二脈より成りて其の西派山脈は高嶺秀峯に富める隆起帯を爲して大陸の西岸に沿ひ、其の東派山脈は斷續常なくして顯明を缺けるも二千乃至二千五百米突に達することなきに非ず。

西派山脈

アラスカ山脈、マッキンレー(六二二三七)

エリアス山脈、エリアス(五五二二)、ローガン(五九四七)

カスケード山脈、ライニ(四〇七五)

北部

シエラネバダ山脈、シヌタ(四三七〇)、ホイットネー(四五四〇)、ロッキーマウンテン、ソーカー(四七八〇)、フランカ(四四〇九)

世界地理提要 あめりか洲 總論















れば本流の水勢は漸く増水の際には一秒時に四萬乃至四萬二千立方メートルの水を流下するとあるも、濁水の時には四千立方メートルの水を有するに過ぎず、又河幅は三千八百乃至二千二百米突ありて水深は八米突以上、七十米突に達する處あり、ハイオの河口よりニッパールリアンズ附近に至るまで兩岸には壯大なる堤防を築きて河水の暴溢に備ふるが、ニッパールリアンズに於ては、ミシシッピの幅は一、千米突内外にして深きは四十米突に達せり、河口に至れば三派に分かれ、異様の三角洲を爲してメキシコ灣に注ぐ。

アマゾン河はアマゾン川(Rio Amazonas)とアマリコン川(Marathon)とアマリコン川(Solimcens)とアマリコン川(Parana Tinga)とアマリコン川(Paranaassu)と唱へらるることあり、源をメルリーのアンデス山脈に發し、右岸よりエカヤリ、ユカヤ、ブルス、マテイラ、タペロ、ス、クシエンクを受け、左岸よりヤブラ、リオネグロを容れ、河口に至り、數個の島嶼を擁して海に注ぐ、長きは五千五百料に過ぎざるも、七百萬方料の流域、八萬立方メートルの平均水量を以て南アメリカの地中海、世界第一の巨流と稱せらる。

湖沼 北アメリカの北東部には著大なるもの密集せるが殊にセントロレンスの流域に於ける五大湖中のスーペリオルは淡水湖の王たり、南アメリカの湖沼は概して小なりとす。

湖沼	面積	積	海拔	長	闊	最深水質
----	----	---	----	---	---	------

アマゾン河

湖沼表

湖沼	面積	積	海拔	長	闊	最深水質
大熊	二、四〇〇、〇〇〇	六、五〇〇、〇〇〇	一一九	?	?	淡
大奴隸	三、二五〇、〇〇〇	一、一五八	一五八	四八〇	八〇	淡
アサバスカ	二、一〇〇、〇〇〇	二一〇	二一〇	三七〇	四八	淡
キンニベグ	二、二〇〇、〇〇〇	二〇〇	二〇〇	四五〇	九二	淡
マニトバ	五、〇〇〇	二一五	?	?	?	淡
キンニベゴジス	五、〇〇〇	二二三	?	?	?	淡
スーペリオル	八、三〇〇、〇〇〇	一八三	一八三	六六三	二六九	淡
ヒューロン	六、一三〇、〇〇〇	一七七	一七七	四二三	一六九	淡
ミシガン	五、九〇七、〇〇〇	一七五	一七五	五三九	一四二	淡
エリエ	二、五八〇、〇〇〇	一七二	一七二	三八六	九七	淡
オンタリオ	一、八七五、〇〇〇	七五	七五	三〇六	八九	淡
大鹹	六〇〇、〇〇〇	二二八	二二八	一一九	五二	鹹
ニカラグア	七七〇〇	三二	三二	一八五	七二	淡
マラカイボ	一、六八〇〇	〇	〇	一七七	?	鹹

世界地理提要

あめりか洲

總論

六百八十七



スーペリアル

チチカカ

八四〇〇

三八〇〇

一六三

六百八十八

二二八 淡

ミシガン

ヒューロン

スーペリアル(Superior)湖は世界無比の淡水湖にして八萬方料以上の面積を有し海抜一八三米突を以て五大湖の最高位にあり、受水は數多きも排水は一のセントマリー河に依りて行ふのみ、湖岸は北部に礫巖多くして玄武岩及花崗岩質の島嶼點在し最、大なるをローヤルとす、南岸は一般に低平にしてケネノー岬の突出あり水質は透明にして湖岸に近き部分の外は氷結せず、暴風は稀ならずして波浪の高は四十六種乃至五十五種に達す、又他の大湖に見るが如き輕微なる潮汐は本湖に存するがシワイツの諸湖に於けるが如き定振動もあり。

ミシガン(Michigan)湖は六萬方料足らずの面積を以てヒューロンに次げるが他の四大湖と異なりて全くアメリカ合衆國內にあり、マキノー水道に依りてヒューロンに通せり、湖岸は概して低きが北部に多少の出入を呈し北西部にグリーン湖のあるを見る、本湖に於ける小湖は三、八一種にして大湖は凡七、六二種に過ぎず。

ヒューロン(Huron)湖はセントマリー或はマキノーに依りてスーペリアル、ミシガンの水を受けセントクレアに依りて排水す、カボツヘッド半島及グランドマニツイン島に依りて二の不等部に分たれ、北部を分ちて北水道及びジョージ湖とす、水面は風雨の爲に高低ありて其の差は殆ど四米突なり、水質は清純にして魚族の住するも多きが湖中の島嶼は約三千と稱せられ其の大部はカナダに屬せり。

エリー

オンタリオ

北部

エリー(Erie)湖は五大湖中の最南最淺のものにして運河に依りてハドソン川にイオに通じ又エレルンド運河を以てオンタリオに連なれり、航行は容易安全ならざるも尙年交通上驚くべき利益を與ふ、而して十二月の始より三四月頃までは少の凍結を見ることあり、南西部には樹木蒼鬱たる島嶼少なからず。

オンタリオ(Ontario)湖は五大湖中の最東最小のものにてナイアガラの水を受け北東隅よりセントローレンスを流出せしむ湖岸は一般に甚低く氷結は數軒の沖に止まれり、暴風の威を恣にすることは他の諸湖に同じ。

地勢 アメリカ大陸は平均六百八十米突の海拔を有し、北アメリカは七百米突にして南アメリカは六百十米突なりと註せらる、北部にありてはロッキーマウンテン一帯の地七〇〇萬方料并にアレガニー山脈地方五〇萬方料を以て山地とす、西部のロッキーマウンテン地方は概して一千五百乃至二千米突の海拔なるが又五千米突以上に達することあり、而して東部のアレガニー地方は僅に一千米突内外の海拔を有するに過ぎず、ミシシッピー平原(三五〇萬方料并にセントローレンスの流域、一〇〇萬方料)は土地肥沃にして灌溉の利を有し頗る人類の生存に適するも、ラブラドル、圓極平原、グリーン

世界地理提要

あめりか洲

総論

六百八十九



六百九十

ランド等八〇〇萬方籽は寒冷に失する無用の地たるを免れず、中部にありては中央アメリカ西印度諸島に多少の山地を觀るもユカタン半島、キウバ島は平低の地に富めり、南部に於てはアンデス山脈は一の急峻なる山地を形成して其の最高處ネバドスはヒマラヤ山脈の外比敵すべきものを見ず、當地方は二百萬方籽の地積を有するが南部にありては海拔は二千乃至四千米突に過ぎざるも北走すれば四千以上七千米突に達することあり、本山脈は八回の分合を爲し、或は二派と成りて一の臺地を挟み又は數脈と成りて二三の臺地を抱けり、東方に於けるブラジル山地(五〇萬方籽)并にグイヤナ山脈は北アメリカのアレガニーに相當するものなるが海拔はアンデス山脈の三分一前後に當り、季節に依りて或は乾燥の荒地と成り或は濕潤の草原と變するリアノス(Llanos)地方、即、オリノコの流域(四〇萬方籽)、藪藪たる森林に富めるセルバス(Savanna)地方(七五〇萬方籽)半リアノス半セルバスたるグランシエロ地方、草原の地たるパンパス(Pampas)地方等は共に南アメリカの低地を組成す而してリアノスの一部、ブラジルの南東部、パタゴニア等は

高地に屬せり。

氣候 海陸の關係、山脈の趨勢、海流又は氣流の方向に依りて北中南の三部は各其の趣を異にせり。

氣温に就きて記さんに北部にありては北西并に北東より來れる二派の山脈は中間に一大平地を挾めるが、之を東西に横斷する高處の存するなきを以て極地の寒風は勢威を逞しうするを得、從て此の平地に於ける氣温は之をヨーロッパ同緯度の地に於けるものに比すれば甚低し、カナダ地方の如き冬季は永くして寒氣強く夏季は短きも亦暑氣烈しく恰、黒龍江地方に似たり、又ミズリ、リミシ、シビーの平野にありても時に寒冷を覺ゆることあり、然れども太平洋沿岸の地并に大西洋に瀕して灣流の恩惠を蒙むる地は氣温概、温暖なり、而してメキシコ灣に接する地は溫度甚高し、中部に於ては概して暑氣甚しく高燥の地に非ざれば温帶人は生息するを得ずと云ふ南部の氣温は概、高きがグイアナ地方、オリノコ、マラニョンの流域、太平洋沿岸の北部にありては酷熱に苦みブラジルの南東部、チレーに於ては温和な



六百九十二

るも南端のパタゴニアに於ては大に寒冷を覺ゆ。降雨の概況を記さんには北部は雨量乏しきに非ざるも亦多量なりと云ふべからず降雨の年平均二百糎以上に達するは僅にブリタニヤ、チロニアの西岸にして之に次ぐものをスロバダ地方并にミシシピ下流の地域とす又雨量最少なきは北西大平野の北部と合衆國の西部なりとす中部の地峡部は概して降雨多き土地なるが殊に東岸を以て然りとす又島嶼部は雨量の二米突以上に達すること稀にして東岸は稍多き雨水を受けるが如し南部は概して降雨多きが又濕氣に乏しき部分并に乾燥に失する部分の存せざるに非ずグイヤカ山脈は太西洋より吹き來る温風を遮ぎりてベネズエラのリアノスを生じブラジル山脈はアルヘンチナのパンプスを生ぜり又アンデス山系の東面は多量の雨水を受くるも西面には一滴をも受けざる處あるなり而して雨量の年平均に就きて二百糎を超過する部分はベネズエラの西部、チロニアの東部、マラニオン上流の地、グイヤカの海岸、ブラジルの南東部、パタゴニアの西岸等にして二十糎以下の地はパタゴニアの東部



ジャガー (Panthera onca)



コンドル (Sarcoslimphus condor)



**ジャグワル** Jaguar (Felis onca) は南アメリカ並に北アメリカの草原又は森林に棲む、身長一米五十程、尾長七十程、高さ八十程ありて虎に類せり、性質猛猛にして野獣は勿論人畜を害する、と雖もならず、毛皮は眼紋あるも美麗ならずして肉味も亦佳良ならず。

**コンドル** 「金鷄」(Sarcorhamphus condor) は南アメリカに棲する巨禽にして身長一米三十五程、翼幅一米六十九程に達す、アンデス山脈中の二千乃至五千米級の地に棲む、性大膽にして克く鷹を好みて羊鹿の類を喰ふ、沿海の地にありては海獣を捕はす、生食して肉を養成するの用に供する、とあり。

に太平洋沿岸の地なりとす。

動物

植物

動物

**天産** 本洲は各種の天産に富めるを以て有名なるが、**ヨロロバ**人の渡來に依れるもの甚多し、**鑛物**には金、銀、白金、金剛石、寶玉あり、**鐵**、**鉛**、**石炭**、**石油**等あり、**生物**の分布に就きて北アメリカの大部は新北極區に屬し、其の殘部并に南アメリカの全部は新熱帶區に含まる、**先植物**より記せば、**セコイア**(Sequoia gigantea)、**ナロホメ**、**カンチツス**、**キノ**、**ロカ**、**サカサ**、**イナ**等あり、其の他、**木材**染料に供するものあり、**煙草**、**玉蜀黍**等も名高きものなり、**動物**は概して體軀巨大ならざるが、**猿猴類**、**蝙蝠類**、**黑狼**、**コヨーテ**(Coyote)、**Canis latrans**、**ト**、**即チ**、**シテン**(Felix concolor)、**ト**、**ト**(Felix onca)の如き**猫類**、**河狸**(Lapirus)、**羊駝**(Auchenia)、**穿山甲**(Manis pentadactyle)、**金鷄**(Sarcorhamphus condor)、**蜂鳥**(Trochilidae)、**ト**、**ト**、**ト**(Alligator mississippiensis)、**A. niger**、**善見蛇**(Ortalus)、**ト**、**ト**(Boa)、**ト**、**ト**、**ト**(Coccyz. coriti)等は此の洲の特産なり、又魚類には**鮭**、**鱒**等あり。

**發見** 西紀第九及第十世期の頃、**ノルマン**(Normen) **北人**は**アイスランド**より**グリーンランド**(八九三) **ランドル**を経て尙南方の**ギンランド**に達せし

世界地理提要 あめりか洲 總論



コロンブス

ことあるも、本洲発見者の名譽はコロンブス(1486—1506)の負ふ所と成れり、コロンブスはイタリアのジェノバに生れ長じてエスパニアに仕へ女皇イサベラの補助に依りて第一回旅行(一四九二—九三)に於てサンサルバドル、キウバ、ハイチ等を發見し、第二回(一四九三—九六)にはジマイカ、ホアンチル列島等を檢出し、第三回(一四九八—一五〇〇)にはオリノコ河口地方に至り、第四回(一五〇二—〇四)に於てホンチウラス、コスタリカ等を發見せり、此の頃カボット(Cabot)はイギリスの爲に探檢旅行を爲してカナダ地方に至り(一四九七—九八)、アメリゴ・ヴェスプチはポルトガルより派遣せられてグイアナ地方に達し(一四九九—一五〇〇)、カブラル(Cabral)は南緯約十度のブラジルの海岸に漂着して此の地をポルトガル領と定め(一五〇〇)、ジアン・ディアス・ソリス(Juan Diaz de Sois)はエカタン(一五〇六)、リオ・デ・ラ・プラタ(一五一五)をジアン・ボネン(Juan Ponce de Leon)はフロリダを發見し、バルボア(Vasco Núñez de Balboa)は地峽を横ざりて始めて太平洋あるを知り(一五二二)、マガリッヘンズは南アメリカの海峽を通過して其の名を止め(一五二〇)、ヘルナンド・コルテ

カボット

カブラル

バルボア

スはメキシコを伐ち(一五一九—二二)ピサロはペルーを征服して(一五三二—三三)エスパニア領を擴張せり、此の如くして新世界は主としてエスパニアの勢力の下にありたり而してオランダ人も多少施設する所ありしも見るべき結果を生せずして止み、第十七世期の始、頃よりイギリスの勢力次第に北アメリカに加はり、ルイ十四世の代、同地方に大なる地を有せしフランスと葛藤を生じてフランスの敗退と成り、イギリスの殖民地たりし今の合衆國は遂に獨立するに至りしがエスパニア、ポルトガルの殖民地も亦母國と分離し終れり。

人口 種族

住民 アメリカ洲の人口は一億四千四百四十萬人ありて一方糶に付き平均凡三人なり、然れども其の分布は均一ならずして密なる地方は百人以上、疎なる地方は殆ど無人なり、又人口を種族別にせば最多きは白人にして八千一百万と算せられ、其のイギリス人は北部に多く、エスパニア人、ポルトガル人は中部、南部に多きが、アメリカ土人及雜種に三千四百萬人あり、之に次ぐは黒人及ムラト(Mulatto)黒人との雜種(一九〇〇)支那人及エスキ



モ一四〇なり而して更に之を宗教別にせば新教七一〇〇、ローマ教六〇〇〇、ユダヤ教二六〇、異教等を得。

アメリカ種は從來赤色人種又はアメリカ人種と稱へて五人種の一とせしが人種學的研究の進むに従ひて黄、白二種の混淆を本とし之に多少の黒種を加味したるものなるべしと認めらるるに至れり、皮膚は黄褐色にして銅色を帯び黒色の直剛毛を有するも鼻は高くして鬚鬚状を呈し各處に散居して數多の小民種を爲せり、而して北アメリカの土人はインゲアン又は赤皮と總稱せらるるも種々の分派あり殊にパンパ族の身長は一、七五乃至一、九二米突に達して最も高し。

北アメリカ アサバスカシウイロコイクリタコータヒローン  
カナック アメンク

中アメリカ ザマテーク アズテーク トルテーク マヤスガトミス  
グイシタロ カライア インカゲアラニ

南アメリカ ボドクド マタゴン アラウカン ブチエレ(フエヒ)

分國 本洲には廿一の共和國ありて其の五國は合衆政體、其の十六は統一政體なるが、其の他はイギリス、オランダ、ダニマルク、フランス等分領す。

部邦	土面	積人	口	方料	都	邑
----	----	----	---	----	---	---

分國表

中		部		北			
イギリス領	一、九五八〇	三、九六六八	ニペリーズ	八、八一〇〇	一、一八九五	〇二	
グアテマラ共和國	一一、三〇三〇	一八四、三三三四	ニモグアチマラ	九七一、八四二〇	五七七、三四九四	〇六	
ホンデウラス共和國	一一、四六七〇	五四、三七四二	ニテグシガルバ	九五八、九七〇〇	五六〇、四三三八	〇六	
サルバドル共和國	二、一一六〇	一〇六、八六〇〇	ニサンサルバドル	一一、〇六七〇	三三三、三六四三	ニセントジョン	
ニカラグア共和國	一三、八三四〇	四三、九三二〇	ニレオン	一、八〇〇〇	四〇〇九	〇二	
				ニフランドル(東部)	五〇	四四ハミルトン	
				ニフルムダ	二四二	六四八二	
				フランス領	九四〇、三九七〇	七六一四、九三八六	ニハフシントン
				アメリカ合衆國	一九八、七二〇	三三六〇、七二五九	ニメキシコ
				メキシコ共和國			

世界地理提要 あめりか洲 總論







グリーンランドはアメリカ大陸の北東にありて二百七十万方呎の面積を以て世界第一の大島を形成すと云ふ、其の極南はフアルエル岬の北緯六十度なるも極北の地は明確ならず而して東岸の北緯八十三度以内は数回の探検を経たるの地に於て港灣に乏しからざるも氷山流水の爲に閉塞せらるるを以て航行極めて難く捕鯨に従事する船舶の稀に往來するのみ、西岸はアビス海峡、バフィン灣に臨みて數多の狹灣を有し結氷の障礙稍、少なし、ローロッパ人は北緯七十四度以内の地に居り、エスキモー人は同八十度以内の地に住めり、且又内部は平均海拔六五〇米突の臺地を形成し、其の沿岸山脈中、北東部には四千五百米突に達する高峯あり、氣温は甚だ低く永世不滅の氷雪は殆ど我が國の三倍に當れる地方を蔽へり、されば白熊海獸、海鳥并に羆等類の生存は南西岸の地に限りて内部は寂寥として生物を見ること極めて稀なり、然れども積雪氷層の下に喬木の幹根又は枝葉の模状を發見したるに依りて考ふれば太古の時代にはグリーンランドが眞に綠地たりしやを疑ひ知るに足る。

夏季に氷の融解を見る狹長なる所の沿海地は其の面積九萬方呎に達せずして住民は凡そ一萬一千九百人あるが東岸にあるものは約一千人にして西岸には一萬人あり、種族上はエスキモー又は精種に屬するもの多く白人に至りて少數にして官吏、宣教師、教員等の職務に従事せり、デンマーク語は多少行はるるもグリーンランドの土語を以て通用語と爲せり。

政治上はデンマークに屬し南北の二管理區に分たれ、ゴットハーブ(Godthaab)好望及ゴットハーブ(Godhavn)良港、即チヤメ(Disko)は之が首邑たるが、ジュリアンハブ(Julianshab)は南端にありて二千内外の住民を有せり。

●イギリス領

北アメリカの北部はデンマーク領のグリーンランド、合衆國領のアラスカ、フランス領の數嶼を除く外、全イギリスの領土にして其の廣は殆どヨーロッパに均し而して行政上之を分ちてカナダ領國、ニューファンドランドの二部とするがラブラドル(東部)は後者に屬せり、此の外、合衆國の東方に當れるヘルムダも亦イギリスの殖民地たり。

●カナダ

境域 カナダ領國(Dominion of Canada)の極南の地は北緯四十二度にあり、北方は北緯八十三度以上に達するも未だ確乎たる境なくして北極洋に臨めり、北東はバフィン灣、デビス海峡を隔ててグリーンランド島を望み、東は



大西洋に瀕し南は合衆國に境し西は太平洋に臨みアラスカ地方と境を接せり地積は九百五十九萬方呎に近し海灣海峡は其の數少なからざるも冬季に結氷の害を蒙らざるものは甚多からず半島島嶼の如きも多くは極寒の地にあるが利用の望あるは南東又は南西に於けるものに限り而して北極諸島の地積は百三十萬方呎を超ゆと云ふ。

山岳 西部にはロッキーマウンテン山脈ありて長は約二千四百呎に達せり其の南部にはレフロイ(三三五三)マーチソン(四一〇〇)ロロンビア(四三〇〇)等あるも北進すれば漸く低くしてシーブ(二五〇〇)ローガン(二七〇〇)等を見るのみ但し北西隅にはクック(Cook)(四九〇〇)ローガン(Logan)(五九五〇)の如き高峰ありてエリアス(Elias)山脈に屬せり又ロッキーの西にはブルセル(Purcell)セルキルク(Selkirk) 主峰 Donald 山 三二四五米 突の海拔 ゴールド(Gold)カリブー(Cariboo)の諸山脈并に沿海山脈あり而して東部に於ける山岳は著しからずローレンティア(Laurentian)山脈即ローレンチード山脈がハドソン灣とセントローレンス灣との分水界を爲すありセントローレンス河の南岸にはアカディア

(Acadian)ノートルダム(Notre Dame)シクマク(Shickahock)等の諸山脈あり

河湖 カナダは河湖に富みて殊に東部に於けるセントローレンスの流域は水誌上無比の現象を呈せり而してハドソン灣に入る巨流はネルソンにして北極洋斜面にマッケンジー太平洋斜面にエトニンラザールコロンビアあるが中部に於ける湖には大熊マルタン(Martin)大奴隸アイルメル(Ayrmer)ホルデン(Go'Den)ガリー(Garry)バーケル(Barker)ドブアント(Dobant)ありアサバヌカヲラストン(Wollaston)馴鹿(カリブー)インディア(Indian)ありキンニングキンニングスマニトブウーン(Woods)等あり一々列挙するに暇あらず。

マッケンジー(Mackenzie)河に二源あり南源をロッキーマウンテンのブラザン山附近に發するアサバヌカ河とするが北源はピニス河と云ひてピイク山脈より出づ此の二派は共にアサバヌカ湖を流過して奴隸河と稱せられ奴隸湖を出でてマッケンジーと成り北緯六十五度の地に於て大熊湖の水を受けマッケンジー灣に依りて北極洋に注ぐ源委通じて四千呎に達する一大河流なれども流域の地は寒冷を極むるを以て利便を供すること少なし。



地勢 カナダ領國は地勢上三部に區分するを得即ち大湖及セントローレンスの流域に當れるカナダ地方廣漠たる平低の地より成る北西大平野山岳高地と峽灣島嶼に富めるコロンビア地方是なり而して赤河の谷とロッキー山との間に於けるプレーリー(Plains)なる肥沃の草野は四十九萬七千方糎と概算せらるるが亦東中西の三部に分ち得べし其の東部は赤河、セントローレング湖地方を含み十四萬五千方糎の地積と二百四十四米突の平均海拔とを有し、ローレンシア高臺を東にしダックホルキッパイン等を西にす、キンニベグの西百二十九糎にして第二の草野始まり三百二十二糎乃至三百七十糎の幅を有するが東部に於けるものと異なりてタートル(Tule)ツーチウッド(Touchwood)等の諸丘を見るも平均四百八十八米突の海拔を有するに過ぎずしてミズーリ高臺を西境とす又キンニベグの西六百四十糎にして第三の草野始まり八百糎の幅を以て漸次隆起してロッキーマウンテンの麓に到達せり。

氣候 土地廣大なるを以て氣候も亦一樣ならずと雖、多くは大陸的なり

と稱し得べし而して東部即ちキンニベグの東にある森林地方は寒威烈しきも降雨に不足なし中部は寒暑甚しく降雨中度にしてチヌーク(Chinook)溫和的の惠を受くるも亦ブリザード(Bizzard)北來の寒冷風の害を蒙むることありと云ふ而してニューニン地方并にバーレングラウンド(Barren Grounds)にありては冬季に零度下四〇乃至五〇度を示すこと稀ならず西部は大山系の西麓に於ける太平洋沿岸の地にして海洋的の氣溫度は一月の二六、八月の二六、六月の二八、七月の二七を有し雨量多し。

沿革 セノアの人ギオメネチカボット(Giovenelli Cabot)が一四九七年を以てラブラドルに達せしを始としギオメネチカの一人セバスチアノ(Sebastiano)の探検一四九八(シムカカルチエー(Jacques Cartier)の三回一五三四一三五一四一年)の旅行に依りてカナダを探検しフランソワ王の名の下に同地を占領せし一六〇八年キンペン(Champlain)がクエベックを建てしまでは殖民の進歩遅々たりしなり而して此の時に至りてアカデア即ちノバスコシアよりメソリアル湖に達し尚ミシシッピーに沿ひて、キンペン海に降下せる地方はフランス領と成りてモンローヌ(Montreal)の建設(一六四二年)を見しがイギリスは有力なるマドソン海會社を創立して大に競争を試



み遂にエドワード公島の條約(一七一三)、マニトバ州條約(一六七三)等に依りて獨占の地位を得たり、爾來 西領土會社の設立(一七八三)、エドワード公島、ニウブランズウィック、ノバスコシアの成立(一七八四)、上下兩カナダの分立、兩會社の合同(一八二二)、ブリチッシュコロンビア植民地の設立(一八五八)、バンクーバー島の合併(一八六六)等を経て一八六一一年に至りニウブランズウィック以外諸州は聯合してカナダ領國(Dominion of Canada)を組成せしが、領國の繁榮は赤河騒動(一八六九)に依りて暫く妨げられしのみにて、マニトバ州(一八七〇)、キープチン(一八七六)、アッシュボニア、サスカチュワン、アルバータ、アサバスカの數區(一八八二)が新設せられしは發達を證して餘りあり。

**住民** 人口は一八〇一年に於て凡そ二十四萬人なりしが、一八五一年の約百八十四萬、一八七一年の三百六十四萬足らず、一八九一年の四百八十三萬餘人を経て一九〇一年には五百三十七萬餘人(男二七五に達せり、來住者は一九〇四年に十三萬三百餘人、翌年に十四萬六千餘人ありたり、種族に就きては白人殊にイギリス人(三〇七)、フランス人(一六五)多く、ドイツ人(三二)其の他のヨーロッパ人(二五)等之に次ぐが此の外にインヂアン及メヌチズス(一三三)支那人等あり、宗教はローマ公教の信徒(二二三)最多きを占め、メソヂスト(九

二)プロテスタント(八四)、イギリス教(六八)等之に次げり、教育に就きては各州に大學を設くるが、二萬一千近くの學校は百十一萬餘の生徒を有す。

**政治** カナダ領國は其の名イギリス領たるも實際に於ては專自治に依るを以て殆ど獨立國たるが如し、總督は各部の長官たる十四人の大官より成れる内閣を有して領國全部に關する百般の行政事務を司り、高等法院は司法の大權を有せり、立法權は上下兩院に屬せるが元、老院は八十一人の議員を有し、代議院には公撰に係れる二百十五人の議員あり、地方は九州七領土(アッシュボニア、キープチン、アサバスカ、エドワード公島、ニウブランズウィック、ノバスコシア、アルバータ)に分たれ、各州には副總督及議會あり、アッシュボニア、アサバスカの如き北西領土には副總督、立法會議、行政會議ありてエドワード公島には委員及行政會議を設く。

地方	面積	人口	地方	面積	人口
エドワード公島	五、〇〇〇 <small>方軒</small>	一〇、三三九	サスカチュワン	一三、四〇〇 <small>方軒</small>	八、九七二
ノバスコシア	五、五〇〇	四、九七四	アルバータ	一三、四〇〇 <small>方軒</small>	六、九一九
新ブランズウィック	七、三〇〇	三、二二〇	コロンビア	九、五二〇	一七、八五七

世界地理提要

あめりか洲

カナダ



クエベック	八九、六〇〇	一、四八八、八八六	各領土	四二、四〇〇	五、二七九
オンタリオ	五七、七〇〇	三、八二九、四四七	北極島嶼	一〇〇、一〇〇	一、〇〇〇
マニトバ	一九、一〇〇	二、五四九、四四七	カナダ	九八、九七〇	五七、二〇〇

兵備に關しては本領國を十二軍區に分てるが一九〇六年に於ける兵數は九萬七千八十七人なり又海軍は海上艦に五隻、河上艦に二隻を備ふ、財政は一九〇五年に於て經常歳入七千二百二十萬ドル、弱歳出約六千三百三十二萬ドルなるが國債は二億六千六百萬ドル以上あり。

生業 氣候の稍、寒冷に失するに拘らず、農業は至りて盛にして多量の穀類を産す、殊にヒッコロン、セントクレア、エリエ、オンタリオ等の沿岸地を以て然りとす、又マニトバ以東、セントローレンスの流域に當れる平低の地は草圃に適するを以て畜類の飼養甚だ多し、林業、林地は三二は多量の木材を興へて此の地の一大富源を爲せるが製紙用木餅の製造も發達しつつあり、漁業は一九〇三年に於て凡二千三百十萬ドルの生産額に達したりしが鱈三七六、海老三六二、鮭三五二、鱒一九九、鯖一六四、等より成りノバスコシア七

畜業 林業

漁業

鑛業

貿易

八五)ブリチシコロンビア(四七四)等を主産地とせり、鑛業はノバスコシア、プリチシコロンビア、クエベック、オンタリオ、北西領土、ユーコン領土に盛にして一九〇三年の産額は六千三百廿三萬ドルに近し、而して鑛産の主なるものは金(一八八三)、石炭(一五九六)を第一とし、銅(五七三)、ニッケル(五〇〇)、銀(一一七)、ポトランドセメント(一九〇)等之に次びり、此の他に石油(九三)、鐵(九二)、石絨(八九)、鉛(七六)等あり。

貿易は一九〇五—〇六年に於ける輸入に二億九千萬餘ドルありて輸出に約二億三千五百四十八萬ドルあるが、前年の輸入は二億六千九百九十一萬餘ドル、輸出は一億九千八百八十五萬餘ドルにして輸入先はアメリカ合衆國(一、六二七、三三三)、イギリス(六〇三、三三三)の外にフランス(七〇五)、ドイツ(六六九)、西印度(四九七)等ありて輸出先はイギリス(一、〇一九五)、アメリカ合衆國(七七四〇)、西印度(四二九)、ベルジック(一七三)、フランス(一五二)、ドイツ(一一四)等を主とす、而して貿易品の主要なるものを示せば輸入に鐵及鐵器(四一九五)、石炭(一一二四)、毛織物(二五五九)、砂糖(九二五)、綿布(八六〇)、化學品(六三七)、玉蜀黍(六一五)、實綿(六〇三)、果物



(五〇四)等あり、輸出に木材(三五六一)乾酪(二〇三〇)小麥(一八二六)金(一五二〇)豚肉(一一一九)牛肉(一一三六)バター(五九三)皮(五一九)等あり、船舶の出入は入船に一萬四千九百八十五隻、八百十四萬餘噸、出船に一萬五千五十九隻七百六十八萬餘噸ありて其の過半入五三五萬噸 出四六七萬噸はイギリス及カナダ船なりき。商船は七千五百五十七隻五十九萬餘噸あり、鐵道(一九〇四年)は三萬一千五百六十軒あり、郵便局は一萬四百六十處に設けられ、電信線(一九〇三)一〇四は六萬三千九百九十九軒の長と十六萬一千百餘軒の延長とを有し、電話線の長は三萬三千四百軒に近く延長は三十四萬五千軒を超ゆ。

交通

大陸横断線

領國の鐵道中最要なるものを大陸横断線陸路なりとす、其のグランドトロント(Grand Trone)線はトントナチヤコロニア(Intercolonial)線に接続してアトロイト(Detroit)とハリファクス(Halifax)を連ね、其のカナダアンパンマン(Canadian Pacific)線は五千軒の長を有する。モントリアン(Montreal)に起りオタワ(Ottawa)ギーノアサー(Port Arthur)マンリクス(Winnipeg)レジナ(Regina)カルガリー(Calgary)等を経てロッキーヤウンテンを越えトロンソン(Thompson)及フラーザ(Fraser)を降り、バンクーバーの對岸地たるポートムーザ(Port Moody)に達す。

オッタワ

處誌

オッタワ(Ottawa)(五、九九二八)はカナダ領國の首都なり、オッタワ河に瀕し木材集散の中心にして領國屈指の製材場あり、附近に有名のショーヂエール(Chaudière)瀑布あり、トロント(Toronto)(一〇、八〇四)北緯四三度三九分三六秒はオンタリオ湖に沿ふ、カナダ第二の都會、オンタリオ州の首府、商工業の中心にして船舶の出入少なからず、ハミルトン(Hamilton)(五、二六三四)はトロントの南にありてカナダのバミミンガムたり、ロンドン(三、七九八二)はセントクレア湖に注ぐテームス河畔に位す、ポーツアース(Port Arthur)はスーペリオル湖岸の要津なり、ゴデリック(Goderich)は食鹽業の中心なり、セントローレンス(Petrolia)は石油業の中心なり。

トロント

ハミルトン

ロンドン

クエベック

モントリアル

クエベック(Quebec)(六、八八四〇)は同名の州の首都にしてセントローレンスの左岸にあり、一六〇八年の創建に係れり、木材の取引行はれて繁華の地なり、モントリアル(Montreal)(二、六七七三〇)北緯四五度三〇分一七秒はセントローレンス中の一島にありて該河とオッタワ河との會流地に近し、商業盛にして工業も稍、見るべくカナダ第一の大都會なり、アンチコスチ島(八五〇〇)方